他の軍費支拂の便宜の爲め、圓銀と引換ふるの目的を以て軍用切符を發行したり。軍用切符の發行高は當初約一億圓を以て標準として漸次之を製造したれども、其の後其の額を追加し、結局の發行高は一億四千八百四十一萬圓に及べり。而して戰後に於て右の軍用切符の整理に關しては、愼重に審議したる結果、横濱正金銀行をして之を擔當せしむることに決したり。即ち同行をして滿洲に於て一覽拂手形を發行せしめて穩微の間に之が回收を圖ることと爲し、明治三十八年七月同行に命じて其の準備を爲さしめ、尋で同年十二月正金銀行滿洲總轄店の組織權限等に關し認可を與ふるに當り特に軍用切符整理方針を達示して翌年一月一日より之を實行せしめたり。斯くして著々回收の實績を擧げたるが、遂に三十九年七月に至り同月末日の未償還高千五百二十五萬三千三百五十八圓二十錢を、政府借入金の形式に於て悉く同行に引繼がしむることとせり。今右引繼當時に於ける回收の現況を掲ぐれば左の如し。

歲出として拂出高	一九九、九九四、七〇二・〇〇〇圓
正金銀行一覽拂手形借入返償の爲め拂出高	二、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
交換拂出高	六、四〇四、一一〇・〇〇〇
合　計	二〇八、三九八、八一三・〇〇〇
内　交換受入高	一六九、五六〇、三五四・〇〇〇
定額戻入高	一九、四六一、一六四・三〇〇
歲入に受入高	四、一二三、九三六・五〇〇
計	一九三、一四五、四五四・八〇〇
差引回收未濟高	一五、二五三、三五八・二〇〇

左に引繼條件及引繼命令書を掲ぐべし。

大藏省達（明治三十九年七月二十一日祕第二一一八號）

横濱正金銀行

軍用手票ト其行發行ノ一覽拂手形トノ接續ノ便宜上一時政府ニ於テ其行ノ名ヲ以テ一覽拂手形ヲ發行シ軍隊ノ引揚略〻完了ノ時ヲ待ツテ其計算ヲ其行ニ引繼クヘキコトニ付テハ昨年十二月十六日祕第三四八六號ヲ以テ命令致置候處今ヤ其時機ニ到達シタルモノト認ムルニ依リ軍用手票ヲモ併セテ左記ノ條件ヲ以テ來ル八月一日ヨリ其行ヘ引繼クヘク候條其旨心得ヘシ

右命令ノ旨趣承諾ノ上ハ請書差出スヘシ

第一　軍用手票ノ引繼ニ關スル條件

一　明治三十九年八月一日ニ於ケル軍用手票未償還越殘高ハ之ヲ横濱正金銀行ニ引繼キ政府ハ同行ニ對シ右金額借入ノ義務ヲ負フヘシ但シ其借入金ハ無利子トス

二　横濱正金銀行ハ前項引繼ノ日ヨリ軍用手票ノ引換ニ關スル一切ノ義務ヲ負擔スルモノトス

三　第一項未償還越殘高ノ内引換ノ請求ナキ分ニ對シテハ散失ト看做シ政府ニ於テ借入金ノ義務ヲ免ルルモノトス但シ其散失ト看做スヘキ時期ニ關シテハ更ニ協定スヘシ

四　軍票ノ引換アルニ隨ヒ政府ハ漸次銀塊通貨其他ノ引換基金ヲ横濱正金銀行ニ交付シ之ヲ以テ借入金ノ返償ニ充ツルモノトス但シ都合ニ依リ何時ニテモ借入金ノ全部又ハ一部ヲ返

償スルコトアルヘシ

五　前項ノ基金ハ本邦上海滿洲又ハ倫敦ニ於テ交付スルモノトス

六　引換基金ノ軍票ニ對スル相場ハ左記ノ各號ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

い　圓形銀塊（圓銀其他之ニ準スヘキ墨銀弗銀ヲ總稱ス）ヲ滿洲ニ於テ交付スル場合ニハ平價ヲ以テスルコト（但シ圓形銀塊ノ交付ハ滿洲ニ限ル）

ろ　通貨ハ牛莊ヨリ日本向軍票爲替賣相場（前月ノ平均相場）ニ依ルコト

は　上海ニ於テ上海兩ヲ交付スル場合ニハ牛莊ヨリ上海向軍票爲替賣相場（前月ノ平均相場）ニ依ルコト

に　英貨ハ前號ニ依リ算出シタル上海兩ニ本ツキ上海ヨリ倫敦向爲替賣相場（前月ノ平均相場）ニ依リ算出スルコト

七　橫濱正金銀行ハ毎月十五日及末日ノ兩回軍票ノ償還回收高及引換基金殘高ヲ政府ニ報告スヘシ

第二　一覽拂手形ノ引繼ニ關スル條件

八　明治三十九年八月一日ニ於ケル橫濱正金銀行一覽拂手形政府借入現在高ノ内二百五十萬圓ハ圓銀ヲ以テ滿洲ニ於テ返償スヘシ

九　前項ノ返償ヲ爲シタル殘高ハ橫濱正金銀行一覽拂手形ヲ以テ本邦又ハ滿洲ニ於テ返償スヘシ尤モ都合ニ依リ圓銀又ハ通貨ヲ以テ返償スルコトアルヘク此場合ニハ第六項い號又ハろ號ニ準據スルモノトス

祕第二一八八號

橫濱正金銀行

一金千五百貳拾五萬參千參百五拾八圓貳拾錢

但八月一日越未償還軍用切符殘高

右ハ三十九年七月祕第二一一八號達ノ趣旨ニ依リ之レカ引換其他一切ノ義務ヲ其行ヘ引繼候條該金ニ對シテハ三十九年法律第一號ニ基キ借入ノ整理方金庫出納役ヘ相達候條此旨心得ヘシ

但本文ハ無利子借入ノ儀ニ付此旨心得ヘシ

明治三十九年八月一日

大藏大臣

前記未回收高千五百二十五萬三千三百五十八圓二十錢は、軍票の引換あるに從ひ逐次政府は引換基金を正金銀行に交付し、之を以て借入金の返償に充て來れり。而して其の引換の請求なき分に對しては散失と看做し、政府は借入金の義務を免るるの約定なりと雖も、未だ之を散失と認むるの時期に至らざるものとして、整理著手より既に二十年を經過したる大正末年に於ても、尚ほ三十九萬九千七百五十七圓餘の未回收高（借入金）を殘したり。左に各年度末の未回收高（借入金高）を揭ぐべし。

明治三十九年年末	一二,二一五,三三三.四〇〇（圓）
同　四　十　年度末	四,九八四,五六七.八五〇

明治四十一度度末	二、八三一、三三一・六五〇圓
同　四十二年度末	二、四四四、二九四・四五〇
同　四十三年度末	二、三四七、六三六・四五〇
同　四十四年度末	一、九七九、五一六・九五〇
大正　元年度末	一、九七九、五一六・九五〇
同　二年度末	一、九七九、五一六・九五〇
同　三年度末	一、九七八、二一六・九五〇
同　四年度末	一、一二八、二一六・九五〇
同　五年度末	九八七、五五七・八五〇
同　六年度末	九八七、五五七・八五〇
同　七年度末	九八七、五五七・八五〇
同　八年度末	九八七、五五七・八五〇
同　九年度末	九八七、五五七・八五〇
同　十年度末	九八七、五五七・八五〇
同　十一年度末	六二二、八五三・七五〇
同　十二年度末	六二〇、三六七・三〇〇
同　十三年度末	五八〇、一六八・一五〇
同　十四年度末	三九九、七六二・〇五〇
昭和　元年度末	三九九、七五七・〇五〇

第五節　短期借入金

第一款　明治二十七年法律第十六號に依る借入金

第一項　緒　言

明治二十七年法律第十六號は、一會計年度に於て國庫金出納上餘裕又は一時不足を生じたるとき政府は日本銀行に當座又は定期を以て預入し及同行より借入することを得る旨を定めたるものにして、其の全文を掲ぐれば左の如し。

法律第十六號（明治二十七年六月十二日）

第一條　政府ハ國庫金出納上一會計年度間餘裕アルトキハ相當ノ利子ヲ徴シテ之ヲ當坐預又ハ定期預トシテ日本銀行ニ預ケ入ルヽコトヲ得

第二條　政府ハ國庫金出納上一會計年度間一時不足ヲ生スルトキハ相當ノ利子ヲ附シ日本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

第三條　前條ニ依リ政府ノ借入ルヽコトヲ得ヘキ金額ハ大藏省證券發行額ト合セテ當該年度該證券ノ發行最高額ヲ超過スルコトヲ得ス

蓋し國庫の收入に先ち支出を要するものあるときは、大藏省證券條例の設けありて國庫の金融を

圓滑ならしむるを得と雖も、大藏省證券は之を發行するに當り若干の日子を要し、又之を償還するにも一定の時期あるが故に、非常の事變等に遭遇し支出の急を告ぐるに臨みては、咄嗟に之が需求に應じ難きの短所あり。此の短所を補ひて實地敏活の作用を爲し得るものは、卽ち一時借入金の制度に外ならざるなり。而も兩者は其の性質目的に於て全く相同じきものなるを以て、右法律に於ても其の借入額は大藏省證券發行額と併せて、當該年度の大藏省證券發行最高額を超過することを得ざるものと定めたり。

政府の借入額は右の如く大藏省證券の發行額との關係に於て其の最高額を定められしが、他方日本銀行に對しても借入極度額の約定なかるべからざるが故に、大藏大臣は明治三十三年十月十一日祕第九百五十六號を以て前記法律第十六號に依る借入金の極度額を五百萬圓と定むることとし、同行に左の如く令達したり。

明治二十七年法律第十六號ニヨリ金五百萬圓ヲ限度（國庫收支ノ都合ニヨリ或ハ直ニ返金シ或ハ又重ネテ借入ヲナスコトアルヘキモ同一時ニ於ケル借入現額ハ五百萬圓ヲ限度トス）トシ政府ノ必要ニ隨ヒ隨時借入使用致度候條此旨豫メ相達ス

右借入ヲ要スルトキハ其時々命令書ヲ交付スヘクニ付其行ハ直ニ現金ヲ中央金庫ニ納付スヘシ

右借入利子ノ儀ハ兌換券發行税及制限外兌換券發行税ノ步合（制限外發行ノ場合ニ限ル）ト其行手數料貳步トヲ積算シタルモノヲ以テ其步合トナスヘキ儀ト心得ヘシ

右借入極度額は同年十一月二十二日付令達を以て七百萬圓、又同年十二月二十五日附令達を以て千萬圓に、更に同月二十八日付令達を以て千二百萬圓に、翌三十四年五月二十九日付令達を以て二千萬圓に改正せられたり。

本借入金利子は明治二十八年及三十年に於けるものを除き、前記明治三十三年祕第九百五十六號大藏大臣達第三項に依り、兌換券制限內發行の場合には通常發行税に手數料二分を加へたるもの、制限外發行の場合には制限外發行税に手數料二分を加へたるものとし、日割を以て計算することに定めたり。故に兌換券發行額が其の制限外に上り又は制限內に下るに從ひ、借入金の利率も亦高下して年三分二厘五毛より一割に達する場合あり。然るに明治三十四年七月二十九日以後は、制限內發行の場合に於ける利率を改めて日步と爲し（日本銀行本店商業手形割引步合と同率とす）、發行額が制限外に上る場合に限り、發行税に二分を加算して利率と爲すことに改めたり（此の利率決定の原則は本節第四款臨時事件費一時借入金に於ても適用せらる）。

右明治二十七年法律第十六號は其の制定以後大正十年まで施行せられしが、同年四月改正會計法の公布あり、其の第六條に於て本法律の趣旨を踏襲して左の如く規定し、翌大正十一年四月一日より之を實施するに及び玆に本法律は廢止せらるるに至れり。

會計法（大正十年四月八日法律第四十二號）（抄錄）

第六條　政府ハ國庫金出納上必要アルトキハ大藏省證券ヲ發行シ又ハ日本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

大藏省證券及借入金ハ當該年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

大藏省證券及借入金ノ最高額ハ毎年度帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ム

第二項　明治三十五年度以前の借入金

明治二十七年度以降三十五年度に至る間の借入金の事實に就ては、其の詳細の記述は之を省略し、單に毎年度の借入總額及回數等を左に表掲するに止むべし。

年度	借入回數	借入總額	利率
明治二十七年度	一二	二五、三〇〇、〇〇〇円	年五分又は日歩二錢二厘
二十八年度	二一	二八、三九〇、〇〇〇	年六分又は日歩二錢三厘及二錢二厘
二十九年度	—	—	—
三十年度	二	三、〇〇〇、〇〇〇	年二分
三十一年度	四	一五、〇〇〇、〇〇〇	年一分
三十二年度	—	—	—
三十三年度	九	一七、〇〇〇、〇〇〇	年三分二厘五毛
三十四年度	四〇	五五、五〇〇、〇〇〇	年三分二厘五毛、又は日歩二錢四厘
三十五年度	一二	二五、〇〇〇、〇〇〇	日歩二錢二厘、二錢及一錢八厘
合計		一六九、一九〇、〇〇〇	

（備　考）此の間の利子支拂額は三、二八五、〇一〇圓一九一なり。

第三項　明治三十六年度以後の借入金

明治三十六年度以降明治末年迄に於ても毎年度數回乃至數十回の借入あるを常としたれども、大正年間に入りては元年、二年、四年の三年度に借入の事實ありたるに止まり、大正五年度以降に在りては、會々國庫剩餘金年々豐富にして、之に依りて繰替支拂することを得たるを以て、一回も借入の事あるを見ず。且つ大正十一年改正會計法の施行後に於ても、亦同樣の理由に因りて大正の末年に至るまで遂に借入のことなかりき。左に明治三十六年度以降大正四年度に至る間の毎回借入の要領を表示すべし。

年度	借入年月日	借入額	利率
明治三十六年度	明治三六年、四月、一日	一五、〇〇〇、〇〇〇円	日歩一錢六厘
	〃　一二、二二	二、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二六	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二八	一、〇〇〇、〇〇〇	
	三七、一、七	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　二、二九	四、〇〇〇、〇〇〇	
	計	二四、〇〇〇、〇〇〇	
明治三十七年度	三七、四、一	九、〇〇〇、〇〇〇	日歩一錢六厘
	〃　〃　一六	三、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一九	二、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　五、一〇	二、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一七	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二一	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二四	二、〇〇〇、〇〇〇	

明治三十七年度		
明治三七年、四月、三一日	一、〇〇〇、〇〇〇円	日歩一錢六厘
〃七、八	一、〇〇〇、〇〇〇	日歩一錢八厘
〃〃九	一、〇〇〇、〇〇〇	
計	二五、〇〇〇、〇〇〇	
三八、四、一八	三、〇〇〇、〇〇〇	日歩二錢
〃〃一九	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二〇	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二一	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二二	四、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二四	四、〇〇〇、〇〇〇	
〃五、一六	六、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃一七	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃一九	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二〇	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二二	七、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二三	五、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二四	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃六、一四	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃一五	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃一六	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃一九	四、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二〇	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃八、二二	一、〇〇〇、〇〇〇	

明治三十八年度		
〃〃二三	三、〇〇〇、〇〇〇	日歩二錢二厘
〃〃二六	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二八	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二九	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃三一	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃九、一	四、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃四	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃五	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃一〇、三一	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃一一、六	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二〇	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二一	四、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二二	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二四	五、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二五	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二七	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二八	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃三〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃一二、一	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二三	四、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二五	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二六	四、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃二七	四、〇〇〇、〇〇〇	

明治三十八年度	明治三八年一二月二八日	六、〇〇〇、〇〇〇円	日歩二錢二厘
	三九、一、三一	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　二、二	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　三	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　八	四、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一四	二、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一六	二、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一七	四、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一九	四、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二〇	三、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二三	三、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二四	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二六	三、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二七	二、五〇〇、〇〇〇	
	計	一五三、五〇〇、〇〇〇	
	三九、四、一	三五、〇〇〇、〇〇〇	日歩二錢
	〃　〃　一六	四、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一七	四、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一八	五、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一九	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
	五、一五	五、〇〇〇、〇〇〇	

明治三十九年度	〃　〃　一六	五、〇〇〇、〇〇〇	日歩一錢八厘
	〃　〃　一八	六、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二四	五、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　六、一	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一四	五、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一六	四、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一八	二、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二一	二、〇〇〇、〇〇〇	
	計	八五、〇〇〇、〇〇〇	
明治四十年度	四〇、一二、二六	一、〇〇〇、〇〇〇	日歩二錢
	〃　〃　二七	七、〇〇〇、〇〇〇	
	計	八、〇〇〇、〇〇〇	
明治四十一年度	四一、六、二七	五〇〇、〇〇〇	日歩二錢
	〃　〃　二九	一、二〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　三〇	五、三〇〇、〇〇〇	
	〃　七、一	四五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二	七〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　三	一五〇、〇〇〇	
	〃　〃　四	五〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　八	二〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　九	一、一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一〇	三五〇、〇〇〇	

明治四十一年度	明治四一年、一〇月、一一日	七五〇、〇〇〇円	日歩二銭
	〃　〃　一三	五五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一五	五五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一六	一、五〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一八	八五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二〇	二〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二二	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二三	一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二四	七五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二五	六〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二七	一、二〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二八	六〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　三一	一、四〇〇、〇〇〇	
	〃　一二、二九	六〇〇、〇〇〇	
	四二、一、一一	二、一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一六	三、七〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二三	一、二〇〇、〇〇〇	
	〃　二、二五	一、〇五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二六	六、一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二七	一、六五〇、〇〇〇	
	計	三六、九〇〇、〇〇〇	
明治四十二年度	四二、六、一	四、七〇〇、〇〇〇	日歩一銭八厘
	〃　七、三一	六、三五〇、〇〇〇	
	計	一一、〇五〇、〇〇〇	
明治四十三年度	四三、六、六	六、〇〇〇、〇〇〇	日歩一銭三厘
	〃　〃　一〇	九〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一六	六〇〇、〇〇〇	
	〃　七、二	一、七五〇、〇〇〇	
	〃　〃　四	一、三〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　六	五〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　七	五〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　九	一、〇五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一一	一、一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一二	三五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一四	一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一五	四〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一八	二〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一九	二、四五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二〇	六五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二三	九〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二五	八〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二六	五五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二八	一、一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二九	一、二五〇、〇〇〇	
	〃　〃　三〇	二、七五〇、〇〇〇	
	〃　八、一	四、七〇〇、〇〇〇	

明治四十三年度	明治四三年八月二日	四、五〇〇、〇〇〇円	日歩一錢三厘
	〃　〃　四	二、二〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一五	三〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一七	三〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一八	一、三五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一九	八〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二〇	一、一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二三	三〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二四	四〇〇、〇〇〇	
	〃　九、三〇	七、一五〇、〇〇〇	
	〃　一〇、一	一、六〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　三	六、三〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　六	二五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一〇	四五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一二	五〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一四	六〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一五	二、六五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一八	四五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一九	一五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二一	三〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二二	一、一五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二四	七五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二六	六五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二七	三〇〇、〇〇〇	日歩一錢三厘
	〃　〃　二九	八五〇、〇〇〇	
	〃　〃　三一	五五〇、〇〇〇	
	〃　一二、三	一、八〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　五	五五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二四	二、一〇〇、〇〇〇	年七歩
	〃　〃　二七	四、五五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二八	一、六〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　三一	七五〇、〇〇〇	
	四四、一、六	一、四〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一〇	一〇〇、〇〇〇	日歩一錢三厘
	〃　〃　一四	二、八五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二四	四五〇、〇〇〇	年七歩
	〃　〃　二五	九、五七二、七八八・五〇円	
	〃　〃　〃	八七七、二一一・五〇円	日歩一錢三厘
	〃　〃　二八	一五〇、〇〇〇	年七歩
	〃　二、一	四五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一〇	三五〇、〇〇〇	日歩一錢三厘
	〃　〃　一五	一、〇五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一八	一、一五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二〇	三〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二一	一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二二	一、三五〇、〇〇〇	

明治四十三年度	明治四三年、二月、二四日	一五,五〇〇,〇〇〇円	日步一錢三厘
	〃〃二七	一,六〇〇,〇〇〇	
	〃〃二八	二五〇,〇〇〇	
	〃三、一	一,三〇〇,〇〇〇	
	〃〃一五	一,三五〇,〇〇〇	
	〃〃一七	五〇〇,〇〇〇	
	〃〃一八	一,〇〇〇,〇〇〇	
	〃〃二〇	三〇〇,〇〇〇	
	〃〃二一	六〇〇,〇〇〇	
	〃〃二五	一七,一五〇,〇〇〇	
	〃〃二七	七〇〇,〇〇〇	
	〃〃二九	三,一五〇,〇〇〇	
	〃〃三〇	一〇〇,〇〇〇	
	〃〃三一	六五〇,〇〇〇	年七步
	計	一四一,四五〇,〇〇〇	
明治四十四年度	四四、四、一	八八九,五二三・五〇円	年七步
	〃〃〃	二四,四六〇,四七六・五〇円	日步一錢三厘
	〃〃二五	二,七五〇,〇〇〇	
	〃〃二六	五五〇,〇〇〇	
	〃〃二七	三五〇,〇〇〇	
	〃〃二八	六〇〇,〇〇〇	
	〃〃二九	三,七五〇,〇〇〇	
	〃五、一	一,一五〇,〇〇〇	
	〃〃二	三〇〇,〇〇〇	日步一錢三厘
	〃〃三	一五〇,〇〇〇	
	〃〃四	一,〇〇〇,〇〇〇	
	〃〃五	一五〇,〇〇〇	
	〃〃六	三五〇,〇〇〇	
	〃〃八	八五〇,〇〇〇	
	〃〃九	二〇〇,〇〇〇	
	〃〃一一	三五〇,〇〇〇	
	〃〃一三	七五〇,〇〇〇	
	〃〃一五	三,八〇〇,〇〇〇	
	〃〃一七	二〇〇,〇〇〇	
	〃〃一八	一〇〇,〇〇〇	
	〃〃一九	一,七〇〇,〇〇〇	
	〃〃二〇	一〇〇,〇〇〇	
	〃〃二二	一,四〇〇,〇〇〇	
	〃〃二五	四,九五〇,〇〇〇	
	〃〃二六	一四,五五〇,〇〇〇	
	〃〃二七	六,六五〇,〇〇〇	
	〃〃二九	二,三五〇,〇〇〇	
	〃〃三〇	二,三五〇,〇〇〇	
	〃〃三一	一,二五〇,〇〇〇	
	〃六、一	四,五五〇,〇〇〇	
	〃〃二	二,一〇〇,〇〇〇	

明治四十四年度

明治四四、六、三	三、一〇〇、〇〇〇円	日歩一銭三厘
〃〃五	二、九五〇、〇〇〇	
〃〃一〇	一五〇、〇〇〇	
〃〃一三	三〇〇、〇〇〇	
〃〃一四	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃一六	八〇〇、〇〇〇	
〃〃一七	一、三五〇、〇〇〇	
〃〃一九	六三〇、〇〇〇	
〃〃二一	一、四〇〇、〇〇〇	
〃〃二三	七〇〇、〇〇〇	
〃〃二四	七五〇、〇〇〇	
〃〃二七	三五〇、〇〇〇	年七歩
〃〃二八	二〇〇、〇〇〇	
〃〃二九	五〇、〇〇〇	
〃七、一	一、一〇〇、〇〇〇	
〃〃五	四〇〇、〇〇〇	日歩一銭三厘
〃〃七	八五〇、〇〇〇	
〃〃八	八〇〇、〇〇〇	
〃〃一〇	九五〇、〇〇〇	
〃〃一一	九五〇、〇〇〇	
〃〃一三	二五〇、〇〇〇	
〃〃一四	三五〇、〇〇〇	
〃〃一五	五、〇〇〇、〇〇〇	
〃〃一九	三五〇、〇〇〇	日歩一銭三厘
〃〃二四	九五〇、〇〇〇	
〃〃二五	六〇〇、〇〇〇	
〃〃二六	三五〇、〇〇〇	
〃〃二七	五〇〇、〇〇〇	
〃〃二九	五五〇、〇〇〇	年七分
〃八、一〇	六、六一〇、〇〇〇	日歩一銭三厘
〃〃一二	二五〇、〇〇〇	
〃〃一四	五〇、〇〇〇	
〃〃一五	二、四五〇、〇〇〇	
〃〃一八	五〇〇、〇〇〇	
〃〃二一	二五〇、〇〇〇	
〃〃二三	七〇〇、〇〇〇	
〃〃二四	九〇〇、〇〇〇	
〃〃二六	九〇〇、〇〇〇	
〃〃二八	一〇〇、〇〇〇	
〃〃三〇	三〇〇、〇〇〇	年七分
〃〃三一	一〇〇、〇〇〇	
〃九、一	一、五五〇、〇〇〇	
〃〃二	五五〇、〇〇〇	
〃〃四	九〇〇、〇〇〇	
〃〃六	七五〇、〇〇〇	
〃〃九	一〇〇、〇〇〇	日歩一銭三厘

明治四十四年度	明治四四年、九月、一四日	四五〇、〇〇〇円	日歩一錢三厘
	〃　〃　一五	二、〇五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一六	三五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一九	一、二〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二〇	四〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二二	八〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二三	三五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二五	一、一五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二八	一五〇、〇〇〇	年七分
	〃　〃　三〇	三〇〇、〇〇〇	
	〃　一〇、一二	三〇〇、〇〇〇	日歩一錢五厘
	〃　〃　一三	五〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一六	一、三五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一九	九〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二〇	一、一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二一	二五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二三	三五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二四	一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二六	四一〇、〇〇〇	年七分
	〃　〃　二七	九五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二八	七五〇、〇〇〇	
	〃　〃　三〇	五〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　三一	二、七〇〇、〇〇〇	

	〃　一一、二〇	五、四六〇、〇〇〇	日歩一錢五厘
	〃　〃　二一	五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二二	六〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二四	一、六〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二七	九六〇、〇〇〇	年七分
	〃　〃　二八	四、六五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二九	一、二五〇、〇〇〇	
	〃　〃　三〇	二、七五〇、〇〇〇	
	〃　一二、一	五、七五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二	一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　四	一、三〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　六	一五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一二	七〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一四	一、二〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一八	四六〇、〇〇〇	
	〃　〃　一九	一、三〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二〇	六、九五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二一	一、六〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二二	二、二〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二三	一、三五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二六	四、三〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二七	三、一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二八	三、四五〇、〇〇〇	

明治四十四年度	明治四四年、一二月、二九日	一〇〇、〇〇〇円	年七分
	〃　〃　三〇	二五〇、〇〇〇	
	〃　〃　三一	六〇〇、〇〇〇	
	四五、一、一三	八五〇、〇〇〇	
	〃　〃　三一	五、〇五〇、〇〇〇	
	〃　二、八	六五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一三	四、七五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一四	一五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一五	八五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一七	二〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二二	九五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二三	五〇〇、〇〇〇	日歩一錢五厘
	〃　〃　二四	一、八〇〇、〇〇〇	年七分
	〃　〃　二六	二、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二八	二五〇、〇〇〇	
	〃　三、二七	一、六一〇、〇〇〇	日歩一錢五厘
	〃　〃　二八	一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二九	八五〇、〇〇〇	年七分
	計	二一九、三九〇、〇〇〇	
明治四十五年 大正元年度	四五、四、一	四、〇六〇、〇〇〇	年七分
	〃　六、三	四六〇、〇〇〇	日歩一錢六厘
	〃　七、一五	五六〇、〇〇〇	
	〃　〃　一八	四五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一九	一、〇五〇、〇〇〇	年七分
	〃　〃　二〇	二五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二二	一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二三	三五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二四	五〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二五	八五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二六	一、三〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二九	一五〇、〇〇〇	
	大正元、七、三〇	四五〇、〇〇〇	
	〃　一二、二七	一、三三〇、〇〇〇	
	〃　〃　二八	二、五〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　三〇	一五〇、〇〇〇	
	〃　〃　三一	一〇〇、〇〇〇	
	二、一、一〇	二〇〇、〇〇〇	年八分
	〃　三、一四	二、四八〇、〇〇〇	日歩一錢八厘
	〃　〃　一七	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一八	八〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二〇	一、九〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二二	五五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二四	九〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二五	一、四〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二七	九五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二八	二五〇、〇〇〇	年八分

大正元年度	大正二年三月二九日	四、七五〇、〇〇〇円	年八分
	〃　〃　三一	一、六五〇、〇〇〇	
	計	三一、四四〇、〇〇〇	
	二、四、一	一一、五三〇、〇〇〇	日歩一錢八厘
	〃　〃　二	一、〇〇〇、〇〇〇	
	〃　五、二四	二、五三〇、〇〇〇	
	〃　〃　二六	七七〇、〇〇〇	
	〃　〃　二七	一、二〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二八	二〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二九	一、三〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　三一	九〇〇、〇〇〇	
	〃　六、二	五、二五〇、〇〇〇	
	〃　〃　三	一、八五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一二	一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一三	九、一五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一七	六〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一八	三五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一九	八五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二〇	三、三五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二一	二〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二三	九〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二四	七〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二五	一、〇五〇、〇〇〇	

大正二年度	〃　〃　二六	三五〇、〇〇〇	日歩一錢八厘
	〃　〃　二八	四〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　三〇	七、二五〇、〇〇〇	
	〃　七、八	三、九〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一〇	九〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一二	四五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一四	一、七五〇、〇〇〇	
	〃　〃　一五	八〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一六	四〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　一九	一、一五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二一	一五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二三	二〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二四	一、一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二五	八〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二九	二五〇、〇〇〇	
	〃　八、二一	三五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二二	一、九五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二三	五五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二五	一、二〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二六	四五〇、〇〇〇	
	〃　〃　二八	一〇〇、〇〇〇	
	〃　〃　二九	一、五五〇、〇〇〇	
	〃　九、一	八五〇、〇〇〇	

大正二年度	大正二年九月三日	三五〇、〇〇〇円	日歩一錢八厘
	〃 〃 六	五〇、〇〇〇	
	〃 〃 一一	二〇〇、〇〇〇	
	〃 〃 一二	三〇〇、〇〇〇	
	〃 〃 一六	五〇〇、〇〇〇	
	〃 〃 一七	三五〇、〇〇〇	
	〃 〃 二〇	六五〇、〇〇〇	
	〃 〃 二二	六五〇、〇〇〇	
	〃 〃 二五	一、二五〇、〇〇〇	
	〃 〃 二六	二五〇、〇〇〇	
	〃 〃 二七	一、一〇〇、〇〇〇	
	〃 〃 二九	一〇〇、〇〇〇	
	〃 一〇、一三	一二、一五〇、〇〇〇	
	〃 〃 一六	五五〇、〇〇〇	
	〃 一二、一	一、〇五〇、〇〇〇	
	〃 〃 二	一、三五〇、〇〇〇	
	計	九一、四八〇、〇〇〇	
大正四年度	四、六、二四	八〇〇、〇〇〇	日歩二錢
	〃 九、二三	三、三五〇、〇〇〇	
	〃 〃 二五	一〇、八五〇、〇〇〇	
	〃 〃 二九	三〇〇、〇〇〇	
	〃 一〇、二五	二〇〇、〇〇〇	
	〃 〃 二八	三、三五〇、〇〇〇	
	〃 〃 二九	二、七〇〇、〇〇〇	
	計	二一、五五〇、〇〇〇	

本借入金に就ては明治四十年十二月二十六日の借入金の償還期日を同月二十八日と定めたる外其の償還期限を定めざるを通常とすれども、先に述べたるが如く、本借入金は借入當該年度若くは翌年度四月一日迄に必ず償還することを要す。但し其の間に於ける償還は政府の都合により何時にても之を行ふことを得るものとす。今個々の場合に付き償還期日を列擧するは徒らに煩に過ぐるを以て、左に各年度月別の償還額を表示すべし。

年度	償還月	償還額
明治三十六年度	明治三十六年四月	二、五〇〇、〇〇〇円
	五月	二、五〇〇、〇〇〇
	三十七年二月	三、〇〇〇、〇〇〇
	三月	七、〇〇〇、〇〇〇
	四月	九、〇〇〇、〇〇〇
	計	二四、〇〇〇、〇〇〇
明治三十七年度	三十七年四月	七、〇〇〇、〇〇〇
	八月	一八、〇〇〇、〇〇〇
	計	二五、〇〇〇、〇〇〇
明治三十八年度	三十八年四月	七、〇〇〇、〇〇〇
	五月	一〇、〇〇〇、〇〇〇

明治三十八年度	明治三十八年六月	六、〇〇〇、〇〇〇円
	七月	六、〇〇〇、〇〇〇
	八月	一〇、〇〇〇、〇〇〇
	十月	三二、〇〇〇、〇〇〇
	十二月	三八、五〇〇、〇〇〇
	三十九年二月	九、〇〇〇、〇〇〇
	四月	三五、〇〇〇、〇〇〇
	計	一五三、五〇〇、〇〇〇
明治三十九年度	三十九年五月	五五、〇〇〇、〇〇〇
	六月	三〇、〇〇〇、〇〇〇
	計	八五、〇〇〇、〇〇〇
明治四十年度	四十年十二月	八、〇〇〇、〇〇〇
明治四十一年度	四十一年七月	一〇、〇〇〇、〇〇〇
	八月	一〇、五〇〇、〇〇〇
	十二月	六〇〇、〇〇〇
	四十二年一月	七、〇〇〇、〇〇〇
	三月	八、八〇〇、〇〇〇
	計	三六、九〇〇、〇〇〇
明治四十二年度	四十二年六月	四、七〇〇、〇〇〇
	八月	六、三五〇、〇〇〇
	計	一一、〇五〇、〇〇〇
明治四十三年度	四十三年六月	七、五〇〇、〇〇〇
	七月	一、八〇〇、〇〇〇
	八月	三一、八五〇、〇〇〇
	十月	一〇、三〇〇、〇〇〇
	十一月	一四、三五〇、〇〇〇
	十二月	二、五五〇、〇〇〇
	四十四年一月	一二、七〇〇、〇〇〇
	二月	九、四五〇、〇〇〇
	三月	二九、二〇〇、〇〇〇
	四月	二一、七五〇、〇〇〇
	計	一四一、四五〇、〇〇〇
明治四十四年度	四十四年四月	二五、三五〇、〇〇〇
	五月	二〇、五五〇、〇〇〇
	六月	三一、七五〇、〇〇〇
	七月	二三、〇〇〇、〇〇〇
	八月	一六、〇三〇、〇〇〇
	九月	三、一〇〇、〇〇〇
	十月	二一、五六〇、〇〇〇
	十一月	一三、〇二〇、〇〇〇
	十二月	一八、八一〇、〇〇〇
	四十五年一月	一七、〇〇〇、〇〇〇
	二月	一四、一五〇、〇〇〇
	三月	一四、五六〇、〇〇〇

明治四十四年度	明治四十五年四月	五一〇、〇〇〇円
	計	二一九、三九〇、〇〇〇
明治四十五年 大正元年度	四十五年四月	四、〇六〇、〇〇〇
	六月	四六〇、〇〇〇
	七月	一、一〇〇、〇〇〇
	八月	四、九一〇、〇〇〇
	大正二年一月	四、二八〇、〇〇〇
	三月	五、一〇〇、〇〇〇
	四月	一一、五三〇、〇〇〇
	計	三一、四四〇、〇〇〇
大正二年度	二年四月	一二、五三〇、〇〇〇
	六月	二六、一〇〇、〇〇〇
	七月	一二、三五〇、〇〇〇
	八月	一三、四〇〇、〇〇〇
	九月	六、九〇〇、〇〇〇
	十月	一七、八〇〇、〇〇〇
	十二月	二、四〇〇、〇〇〇
	計	九一、四八〇、〇〇〇
大正四年度	四年六月	八〇〇、〇〇〇
	九月	五、〇〇〇、〇〇〇
	十月	一〇、〇五〇、〇〇〇
	十一月	五、七〇〇、〇〇〇
	計	二一、五五〇、〇〇〇

（備考）各年度償還額中には翌年度四月一日償還の分をも包含す。

次に明治三十六年度以降の毎年度利子支拂額を掲ぐれば左の如し。

年度	利子支拂額
明治三十六年度	六五四、四七八・〇七〇円
三十七年度	二九九、七九三・七三〇
三十八年度	一、四三〇、六〇五・一五〇
三十九年度	四九四、四二一・七七〇
四十年度	三、二六〇・二七〇
四十一年度	九五、二二七・六四〇
四十二年度	七、九〇二、〇〇〇
四十三年度	一五七、三九七、五〇〇
四十四年度	四〇七、六二九、〇八〇
大正元年度	二八一、八九四、四五〇
二年度	一七五、三五四、三八〇
四年度	二七、九三六、六六〇

第二款　軍備補充費一時借入金

明治三十六年十月以降露國との交涉漸く切迫を告ぐるに及び、軍備充實の爲め臨時の費途を要し到底普通の財源を以て之を支辨すること能はざりしに因り、政府は憲法第七十條に依る財政上必要

の處分として、同年十二月二十八日勅令第二百九十一號を發布したり。右緊急勅令に依れば、軍備補充に要する經費支辨の爲め政府は一時借入金を爲し、特別會計に屬する資金を繰替使用し、及國庫債券を發行することを得るものとす。尙ほ同勅令は軍備補充に關聯して京釜鐵道の速成を必要と認め、之が速成費補助に關する事項をも併せ規定せり。今同勅令の全文を擧ぐれば左の如し。

勅令第二百九十一號（明治三十六年十二月二十八日）

第一條　軍備補充ニ要スル經費支辨ノ爲政府ハ一時借入金ヲ爲シ特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ國庫債券ヲ發行スルコトヲ得

第二條　京釜鐵道株式會社ノ線路工事速成ニ必要ナル資金ノ調達ニ便宜ヲ與フル爲政府ハ同會社ノ發行スル債券ニ對シ元利仕拂ノ保證ヲ爲スコトヲ得

前項ニ依リ保證スヘキ債券ハ額面一千萬圓ヲ限リ其ノ利子ハ一箇年六分以下トシ其ノ元金ハ三箇年据置爾後五箇年以內ニ償還スヘキモノトス

第三條　京釜鐵道株式會社ニ於テ工事ヲ速成スル爲特ニ要スヘキ費用ノ補償トシテ政府ハ同會社ニ對シ百七十五萬圓ヲ補助スルコトヲ得但シ已ムヲ得サル事由ニ依リ其ノ金額ヲ以テ本項ノ費用ヲ償フコト能ハサル場合ヲ生シタルトキハ仍四十五萬圓以內ヲ補助スルコトヲ得

前項補助金ヲ以テ補償スヘキ費用ノ支拂ニ關シテハ特ニ詳密ナル監督規程ヲ設クルモノトス

第一項ニ依リ補助スヘキ百七十五萬圓ノ財源ニ充ツル爲政府ハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

第四條　第一條及第三條ノ場合ニ於テ一時借入金又ハ國庫債券ニ付スヘキ利子ハ一箇年六分以下トシ償還期限ハ一時借入金ニ在リテハ二箇年以內、國庫債券ニ在リテハ五箇年以內トス

國庫債券ニ關シテハ前項ニ規定スルモノノ外整理公債條例ヲ適用ス」

同勅令に依り支出の勅裁を經たる金額は、陸軍省所管一億八百三十九萬二千二百二十二圓九十九錢七厘、海軍省所管四千七百五十七萬八千八百十二圓八十四錢四厘、大藏省所管二十五萬七千八百九十三圓九十三錢、合計一億五千六百二十二萬八千九百二十九圓七十七錢一厘にして、之が支辨財源は國庫債券收入一億圓、特別會計資金繰替二千五百萬圓、一時借入金三千百二十二萬八千九百二十九圓七十七錢一厘と豫定したり。

本借入金は明治三十六年十二月二十九日第一回借入を爲したる以來、三十七年三月二十九日迄に二十二回に及び總額四千百五十萬圓に達し、豫定額より約千萬圓の超過を見たり。借入先は全部日本銀行にして、利率は日步一錢六厘、返償期限は國庫の都合に依り隨時とす。借入年月日を表示すれば左の如し。

借入年月日	借入額
明治三六、一二、二九	五、〇〇〇、〇〇〇円
〃　〃　三一	二、〇〇〇、〇〇〇
三七、一、九	二、〇〇〇、〇〇〇
〃　〃　一九	二、〇〇〇、〇〇〇
〃　〃　二一	一、〇〇〇、〇〇〇
〃　二、六	五、〇〇〇、〇〇〇
明治三七、二、一七	一、〇〇〇、〇〇〇円
〃　〃　二〇	二、〇〇〇、〇〇〇
〃　〃　二三	二、〇〇〇、〇〇〇
〃　〃　二四	三、〇〇〇、〇〇〇
〃　〃　二六	一、〇〇〇、〇〇〇
〃　〃　二七	一、〇〇〇、〇〇〇
明治三七、二、二九	一、〇〇〇、〇〇〇円
〃　三、一	一、〇〇〇、〇〇〇
〃　〃　四	一、〇〇〇、〇〇〇
〃　〃　一四	一、〇〇〇、〇〇〇
〃　〃　一六	二、〇〇〇、〇〇〇
〃　〃　一八	一、〇〇〇、〇〇〇

明治三七、三、一九	一、〇〇〇、〇〇〇円
〃　〃　二四	二、〇〇〇、〇〇〇
明治三七、三、二六	三、〇〇〇、〇〇〇円
〃　〃　二九	一、五〇〇、〇〇〇
合計	四一、五〇〇、〇〇〇円

本借入金は明治三十七年六月十七日を以て千百萬圓、同月三十日を以て二千四百萬圓及七月二十六日を以て殘額六百五十萬圓を返償皆濟し、之に對して支拂ひたる利子總額は三十萬四千八十圓なりき。

第三款　臨時艦艇製造費借入金

臨時艦艇製造費借入金は明治三十六年度に於て臨時艦艇製造費の財源に充當するため起されたるものにして、右に關しては三十六年六月十日豫算外國庫の負擔となるべき契約をなすを要する件として、左の如く公布したり。

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件（明治三十六年六月十日）

政府ハ明治三十六年度ニ於テ臨時艦艇製造費ノ財源ニ充ツル爲メ左ノ條件ニ依リ金額貳百六拾八萬八千圓ヲ限度トシ一時借入ヲ爲スノ契約ヲ結フコトヲ得

一利子一箇年百分ノ七以内

一期限ハ借入ノ日ヨリ二箇年以内

本借入金の制限額は二百六十八萬八千圓なりしが、政府は三十七年一月二十七日に二百萬圓、三月二十九日に五十萬圓、計二百五十萬圓を借入するに止まれり。借入先は何れも日本銀行にして、利率は共に日歩一錢六厘、返償期限は特に定めず、國庫の都合により隨時之を爲すことを得るものとす。

本借入金二百五十萬圓は明治三十九年一月二十三日を以て全部返償せられ、其の利子支拂額は三十六年度分二萬千四十圓、三十七年度分十六萬二千六百六十六圓五十二錢、三十八年度分十四萬二千八百七十六圓六十九錢、合計三十二萬六千五百八十三圓二十一錢なりき。

第四款　臨時事件費一時借入金（日露戰役）

第一項　明治三十七年法律第一號に據る借入金

明治三十七年三月第二十回帝國議會に於て、政府は臨時軍事費豫算三億八千萬圓を要求すると同時に、臨時事件費支辨に關する法律案を提出して其の協贊を經、同年四月一日法律第一號を以て之を公布したり。臨時事件費一時借入金は該法律の規定に據るものにして、其の全文を掲ぐれば左の如し。

法律第一號（明治三十七年三月三十日）

第一條　臨時事件費支辨ノ爲政府ハ一時借入金ヲ爲シ、國庫債券ヲ發行シ、特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及公債ヲ募集スルコトヲ得

第二條　一時借入金、國庫債券及公債ノ額ハ通シテ二億八千萬圓以內トス

本法及明治三十六年勅令第二百九十一號ニ依ル一時借入金、國庫債券及特別會計ニ屬スル資金繰替ヲ整理償還スル爲必要ナル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ公債ヲ募集スルコトヲ得

第三條　一時借入金、國庫債券及公債ノ利率、募集借入ノ方法、規約、据置年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　本法ニ依リテ發行スル國庫債券及公債ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外整理公債條例ヲ適用ス

本借入金は明治三十七年四月二十一日より三十八年三月末日まで百三十回餘に亙りて起され、其の總額二億三千九百萬圓に及べり。利率は日歩一錢六厘乃至二錢にして、借入先は全部日本銀行とす。

左に借入年月日、借入額及日歩を表示すべし（日歩の定め方に就きては本節第一款參照）。

借入年月日	借入額	日歩
明治三七年、四月、二一日	一、〇〇〇、〇〇〇円	一錢六厘
〃　〃　二二	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　五、七	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　九	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一二	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一四	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一六	四、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一八	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一九	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二三	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二五	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　六、一五	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一六	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二〇	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二二	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二四	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二五	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二七	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二八	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二九	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　三〇	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　七、一	五、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　四	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　七	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　九	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一二	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一三	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一四	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一五	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一六	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一八	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一九	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　八、一六	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一七	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一八	一、〇〇〇、〇〇〇	

明治三七、年	八、月	一九日	一、〇〇〇、〇〇〇円	
〃	〃	二〇	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	二二	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	二三	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	二四	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	二五	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	二六	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	二七	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	二九	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	三〇	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	三一	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃	九、	二	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	三	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	五	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	六	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	七	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	八	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	九	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	一〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	一二	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	一三	四、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	一四	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃	〃	一五	二、〇〇〇、〇〇〇	一錢八厘

〃	〃	一七	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一九	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二〇	四、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二一	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二二	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二四	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	一〇、	八	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一三	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一四	三、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一五	三、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一八	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一九	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二〇	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二一	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二二	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二四	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二五	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	一一、	一四	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一五	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一六	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一七	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一八	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一九	一、〇〇〇、〇〇〇

明治三七年、	一一月、	二一日	二、〇〇〇、〇〇〇円
〃	〃	二二	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二四	三、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二五	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	三〇	五、〇〇〇、〇〇〇
〃	一二、	五	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	七	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	八	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一四	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一五	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一六	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一九	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二〇	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二一	三、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二二	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二三	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二四	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二六	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二七	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二八	六、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	三一	五、〇〇〇、〇〇〇
三八、	一、	七	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	九	一、〇〇〇、〇〇〇

〃	〃	一〇	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一一	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一二	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一四	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一六	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一九	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	二、	六	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	七	三、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	八	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	九	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一〇	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一三	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一四	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一五	四、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一六	三、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一七	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	一八	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二〇	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二一	三、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二二	一、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二三	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	〃	二四	二、〇〇〇、〇〇〇
〃	三、	一七	一、〇〇〇、〇〇〇

二錢

明治三八年三月一八日	二、〇〇〇、〇〇〇円
〃　〃　二〇	一、〇〇〇、〇〇〇
〃　〃　二二	三、〇〇〇、〇〇〇
〃　〃　二三	二、〇〇〇、〇〇〇
〃　〃　二四	二、〇〇〇、〇〇〇
〃　〃　三一	六、〇〇〇、〇〇〇
計	二三九、〇〇〇、〇〇〇

本借入金は明治三十七年七月二十六日より翌年五月十三日迄に、十九回に亙りて返償せられたり。今其の月別返償額を掲ぐれば左の如し。

明治三十七年七月	二七、五〇〇、〇〇〇圓
同　年八月	二二、〇〇〇、〇〇〇
同　年九月	九、五〇〇、〇〇〇
同　年十月	九、五〇〇、〇〇〇
同　年十二月	二一、五〇〇、〇〇〇
同　三十八年一月	五八、〇〇〇、〇〇〇
同　年二月	二三、五〇〇、〇〇〇
同　年三月	二五、〇〇〇、〇〇〇
同　年四月	二四、〇〇〇、〇〇〇
同　年五月	一八、五〇〇、〇〇〇

合計	二三九、〇〇〇、〇〇〇

又本借入金の爲に支拂ひたる利子額は明治三十七年度に於て三百四十五萬千六百二十一圓四十五錢、三十八年度に於て二十四萬四千百三十五圓七十八錢、合計三百六十九萬五千七百五十七圓二十三錢なりとす。

第二項　明治三十八年法律第十二號に據る借入金

明治三十七年十一月第二十一回帝國議會に當り、政府は新に臨時軍事費追加豫算七億圓を要求すると共に、臨時事件費支辨に關する法律案を提出せり。右法律案は衆議院に於て多少の修正を加へられたる上兩院を通過し、三十八年一月一日法律第十二號を以て公布せられたり。本借入金は同法律の規定に據るものにして、其の法文左の如し。

法律第十二號（明治三十八年一月一日）

第一條　臨時事件費支辨ノ爲政府ハ一時借入金ヲ爲シ、國庫債券ヲ發行シ、特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及公債ヲ募集スルコトヲ得

前項ノ一時借入金、國庫債券及公債ノ額ハ通シテ四億五千五百萬圓以內トス

第二條　明治三十六年勅令第二百九十一號、明治三十七年法律第一號、同年勅令第二百二十八號及本法ニ依ル國庫債券及公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ國庫債券ヲ發行シ、公債ヲ募集シ又ハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

第三條　前二條ニ依ル一時借入金、國庫債券及特別會計ニ屬スル資金繰替ヲ整理償還スル爲必

要アル場合ニ於テハ第一條ノ制限以外ニ公債ヲ發行スルコトヲ得

第四條　政府ハ臨時軍事費出納上一時ノ不足ヲ補充スル爲其ノ歲入ヲ以テ償還スヘキ大藏省證券ヲ發行スルコトヲ得

前項大藏省證券ニ關シテハ前項ニ規定スルモノノ外總テ大藏省證券條例ノ規定ヲ適用ス

第五條　一時借入金、國庫債券及公債ノ利率、募集借入ノ方法規約、据置年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　本法ニ依リテ發行スル國庫債券及公債ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外整理公債條例ヲ適用ス

本法に依る借入金には利付のものと無利子のものと二種ありて、前者は明治三十八年四月二十五日より同年十月二十七日迄四十回に亙り、後者は同年十二月二十六日より翌年七月二十八日迄十七回に亙りて、何れも日本銀行より借入せられたり。今別々に借入額、借入年月日及日步を表示すれば左の如し。

（一）　利付の分

借入年月日	借入額	日步
明治三八年四月二五日	二、〇〇〇、〇〇〇円	二錢
〃　〃　五、一二	五、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一三	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一五	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　六、二〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二錢二厘
〃　〃　二一	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二二	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二三	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　三〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　七、六	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　七	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　八	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一二	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一三	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一五	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一七	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一九	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二〇	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　九、五	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　六	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　七	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　八	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一一	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一二	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一八	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一九	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二〇	一、〇〇〇、〇〇〇	

明治三八年九月二一日	二、〇〇〇、〇〇〇円	二錢
〃　〃　二二	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二三	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二五	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二六	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　一〇、三	四、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一八	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一九	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二〇	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二四	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二五	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二六	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二七	一、〇〇〇、〇〇〇	
計	六六、〇〇〇、〇〇〇	

（二）無利子の分

借入年月日	借入額
明治三八年一二月二六日	二、三六五、〇〇〇円
〃　〃　二八	七六〇、〇〇〇
三九、一、一一	一一〇、〇〇〇
〃　〃　一七	一八〇、〇〇〇
〃　〃　二二	二二〇、〇〇〇
〃　〃　二九	一、〇五〇、〇〇〇
〃　二、二〇	二四五、〇〇〇
〃　三、一	九〇〇、〇〇〇
〃　〃　七	五九〇、〇〇〇
〃　〃　一六	七八〇、〇〇〇
〃　〃　二七	四五〇、〇〇〇
〃　〃　三一	一、二五〇、〇〇〇
〃　四、一六	一、一〇〇、〇〇〇
〃　六、一二	二一〇、〇〇〇
〃　〃　二八	二八〇、〇〇〇
〃　七、一五	九一〇、〇〇〇
〃　〃　二八	一、三五〇、〇〇〇
計	一三、七五〇、〇〇〇

本借入金中利子付の分は明治三十八年五月十三日より翌年六月二十九日迄十一回に亙りて全部返償し、無利子の分は三十九年六月十九日より同年十月十五日迄八回に亙りて全部返償したり。毎月の返償高夫々左の如し。

利付の分

明治三十八年五月	七、〇〇〇、〇〇〇圓
同　年六月	四、〇〇〇、〇〇〇
同　年七月	二一、〇〇〇、〇〇〇

明治三十九年五月	一〇、〇〇〇、〇〇〇圓
同　　年六月	二四、〇〇〇、〇〇〇
計	六六、〇〇〇、〇〇〇
無利子の分	
明治三十九年六月	四〇、〇〇〇圓
同　　年八月	八、八五〇、〇〇〇
同　　年九月	二、九〇〇、〇〇〇
同　　年十月	九六〇、〇〇〇
計	一二、七五〇、〇〇〇

又本借入金に對して支拂ひたる利子額は明治三十八年度に於て百三十九萬九千三百二十八圓九十二錢、同三十九年度に於て四十二萬六千六百八十三圓五十六錢、計百八十二萬六千十二圓四十八錢なりき。

第三項　明治三十九年法律第一號に據る借入金

明治三十八年十二月第二十二回帝國議會に當り、政府は更に臨時軍事費追加豫算四億五千四百四十五萬圓を要求すると共に、新に臨時事件費支辨に關する法律案を提出し、議會の協贊を經て三十九年二月法律第一號を以て之を公布したり。本借入金は同法に依りて生じたるものにして、其の全文を掲ぐれば左の如し。

法律第一號（明治三十九年二月十二日）

第一條　臨時事件費支辨ノ爲政府ハ一時借入金ヲ爲シ、特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及公債ヲ募集スルコトヲ得

前項ノ一時借入金及公債ノ額ハ通シテ三億六千三百萬圓以内トス

第二條　臨時事件ニ因リテ生シタル陸海軍所屬ノ復舊其ノ他ノ事業ニ要スル經費及滿韓軍備ニ關スル臨時費支辨ノ爲政府ハ特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ及公債ヲ募集スルコトヲ得

前項公債ノ額ハ七千萬圓以内トス

第三條　本法ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前二條ノ制限以外ニ公債ヲ募集シ又ハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

第四條　前三條ニ依ル一時借入金、特別會計ニ屬スル資金繰替及公債ヲ整理償還スル爲必要アル場合ニ於テハ第一條及第二條ノ制限以外ニ公債ヲ募集スルコトヲ得

第五條　政府ハ臨時軍事費出納上一時ノ不足ヲ補充スル爲其ノ歳入ヲ以テ償還スヘキ大藏省證券ヲ發行スルコトヲ得

前項大藏省證券ニ關シテハ前項ニ規定スルモノノ外總テ大藏省證券條例ヲ適用ス

第六條　一時借入金及公債ノ利率、募集借入ノ方法規約据置年限及償還年限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　本法ニ依リテ發行スル公債ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外整理公債條例ヲ適用

ス

本法に據る借入金は三十九年二月二十七日より同年四月二十三日迄十五回總額五千五百五十萬圓にして、借入先は日本銀行、利率は日歩二錢乃至二錢二厘なりとす。左に借入年月日、借入金額及日歩を表示すべし。

借入年月日	借入額	日歩
明治三九年、二月、二七日	五〇〇、〇〇〇円	二錢二厘
〃　〃　二八	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃　三、三	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　一九	六、〇〇〇、〇〇〇	二錢
〃　〃　二〇	六、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二二	四、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二三	四、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二四	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二六	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二七	一、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二九	六、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　三〇	三、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　三一	二、〇〇〇、〇〇〇	
〃　四、二〇	五、〇〇〇、〇〇〇	
〃　〃　二三	七、〇〇〇、〇〇〇	
合計	五五、五〇〇、〇〇〇	

本借入金は明治三十九年四月九日より同年六月二十九日迄に五回に返償せられたり。即ち四月中に五千五百萬圓、六月中に五十萬圓なりとす。又其の爲めに支拂ひたる利子額は三十八年度に於て九萬五千二百二十圓、三十九年度に於て十七萬五千六百五圓八十九錢、計二十七萬八百二十五圓八十九錢なりき。

第五款　專賣局及製鐵所据置運轉資本補足借入金

專賣局及製鐵所据置運轉資本補足借入金は、明治三十八年二月法律第十七號に依りて借入せらるるものなり。同法律は最初は此等の運轉資本に不足を生じたるときの補足手段として融通證券の發行のみを認めたるものなりしが、明治四十四年三月に至り法律第八號を以て之を改正し、融通證券の外に大藏省預金部より借入金を爲すことを得る旨を定めたるに由り、以後本借入金を生ずることとなれり。右改正を經たる同法律は左の如し。

法律第十七號（明治三十八年二月十六日）

第一條　專賣局及製鐵所ノ据置運轉資本ニ不足ヲ生シタルトキハ大藏大臣ハ大藏省預金部ヨリ借入金ヲ爲シ又ハ融通證券ヲ發行シテ一時之ヲ補足スルコトヲ得但シ其ノ金額ハ專賣局ニ在リテハ二千萬圓製鐵所ニ在リテハ千二百萬圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條　前條ノ借入金又ハ融通證券ハ遲クトモ翌年度ニ於テ之ヲ償還スヘシ

第三條　本法ニ依リテ發行スル融通證券ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外大藏省證券條例ヲ準用ス但シ大藏省證券條例第四條第一項ハ此ノ限ニ在ラス

本法律は其の後に於ても數次に亙り重要なる改正を經たり。卽ち從來借入金の借入先が大藏省預金部に限られたるを、大正十年四月法律第三十二號を以て此の制限を撤廢し、又十五年三月法律第四十六號製鐵所特別會計法の發布に伴ひ、製鐵所据置運轉資本に關する規定を同法に設けたる結果本法に於ける右に關する法文は不必要となりたるを以て、之を削除したる如き之なり。又融通證券及借入金の發行制限額は、當初煙草專賣局に在りては七百萬圓、製鐵所に在りては五百五十萬圓なりしが、其の後屢次の改正を經て、大正十五年三月法律第二十八號の最終改正に於ては、專賣局の分を一億千萬圓と定めたり（第六章大藏省證券の部參照）。今製鐵所及專賣局の兩者に就きて其の借入事實を說明すれば左の如し。

（イ）　製鐵所据置運轉資本補足借入金

製鐵所据置運轉資本補足借入金は明治四十四年三月以降大正九年十二月まで、年々左の如く借入せられたり。

年度	借入年月日	借入額	利率	返償期限
明治四十三年度	明治四四年三月二五日	四、〇〇〇、〇〇〇円	年四分二厘	明治四五年三月二四日
四十四年度	四五、三、二五	四、〇〇〇、〇〇〇	年四分二厘	大正二、三、二四
大正元年度	大正二、三、二五	二、〇〇〇、〇〇〇	年四分二厘	三、三、二四
二年度	〃六、二七	一、五〇〇、〇〇〇	年五分	三、六、二六
	三、三、二四	一、七〇〇、〇〇〇	年五分	四、三、二四
	計	三、二〇〇、〇〇〇		
三年度	三、六、六	二、五〇〇、〇〇〇	年五分	四、六、五
	〃〃二六	一、五〇〇、〇〇〇	年五分	〃〃二六
	四、三、二四	四、〇〇〇、〇〇〇	年五分	五、三、二四
	計	八、〇〇〇、〇〇〇		
四年度	四、六、一四	四、〇〇〇、〇〇〇	年五分五厘	五、三、一三
	五、三、一三	二、五〇〇、〇〇〇	年五分五厘	六、三、一三
	計	六、五〇〇、〇〇〇		
五年度	五、六、一二	八、三〇〇、〇〇〇	年五分五厘	六、三、一二
六年度	六、六、一五	一〇、〇〇〇、〇〇〇	年五分五厘	七、一、一五
七年度	七、六、二九	一二、〇〇〇、〇〇〇	年五分五厘	八、一、二九
八年度	八、六、三〇	一二、〇〇〇、〇〇〇	年五分五厘	九、六、三〇
	〃一二、二〇	一、〇〇〇、〇〇〇	年五分五厘	〃三、二〇
	九、二、一四	二、三〇〇、〇〇〇	年五分五厘	〃八、一四
	計	一五、三〇〇、〇〇〇		
九年度	九、六、三〇	七、七〇〇、〇〇〇	年五分五厘	一〇、六、三〇
	〃七、一〇	一、〇〇〇、〇〇〇	年五分五厘	〃七、一〇
	〃〃二四	一、〇〇〇、〇〇〇	年五分五厘	〃〃二四
	〃八、一四	二、三〇〇、〇〇〇	年五分五厘	〃八、一四
	〃一二、二四	二、五〇〇、〇〇〇	年五分五厘	〃二、二四
	計	一四、五〇〇、〇〇〇		

（ロ）　專賣局据置運轉資本補足借入金

專賣局据置運轉資本補足借入金は大正元年八月を最初とし、大正九年六月を最終として左の如く

借入せられたり。

年度	借入年月日	借入額	利率	返償期限
大正元年度	大正元年、八月、二七日	一二、〇〇〇、〇〇〇円	年五分	大正元年、一〇月、一五日
三年度	三、八、二五	一八、四〇〇、〇〇〇	年五分	三、一〇、一五
五年度	五、六、二五	一六、五〇〇、〇〇〇	年五分五厘	五、八、二五
六年度	六、六、三五	一七、〇〇〇、〇〇〇	年五分五厘	六、八、二四
七年度	七、六、二五	一六、七〇〇、〇〇〇	年五分五厘	七、八、二四
八年度	八、六、二五	二〇、〇〇〇、〇〇〇	年五分五厘	八、八、二五
九年度	九、六、二五	二〇、〇〇〇、〇〇〇	年五分五厘	九、九、二五

次に製鐵所及專賣局据置運轉資本補足借入金は、法律の定むる所に依れば遲くとも翌年度に於て返償すべきものなるも、實際に於ては長くも一箇年を超えず、短きは數箇月を過ぎずして返償せられたり。左に各年度に於ける月別の償還額を表示せん。

（イ）製鐵所分

年度	償還月	償還額
明治四十四年度	明治四十五年三月	四、〇〇〇、〇〇〇円
大正元年度	四十五年七月	五〇〇、〇〇〇
	大正元年十一月	七〇〇、〇〇〇
	二年一月	八〇〇、〇〇〇
	三月	二、〇〇〇、〇〇〇
	計	四、〇〇〇、〇〇〇
二年度	二年十月	三〇〇、〇〇〇
	三年三月	一、七〇〇、〇〇〇
	計	二、〇〇〇、〇〇〇
三年度	三年六月	一、五〇〇、〇〇〇
	四年一月	一、〇〇〇、〇〇〇
	三月	四、七〇〇、〇〇〇
	計	七、二〇〇、〇〇〇
四年度	四年七月	一、〇〇〇、〇〇〇
	八月	五〇〇、〇〇〇
	九月	五〇〇、〇〇〇
	十月	一、〇〇〇、〇〇〇
	十二月	一、〇〇〇、〇〇〇
	五年一月	五〇〇、〇〇〇
	三月	三、五〇〇、〇〇〇
	計	八、〇〇〇、〇〇〇
五年度	五年六月	一、五〇〇、〇〇〇
	七月	一、〇〇〇、〇〇〇
	八月	二、三〇〇、〇〇〇
	十月	二、〇〇〇、〇〇〇
	十一月	二、〇〇〇、〇〇〇
	十二月	二、〇〇〇、〇〇〇
	計	一〇、八〇〇、〇〇〇
	六年六月	四、〇〇〇、〇〇〇

大正六年度	大正六年七月	一、〇〇〇、〇〇〇円
	八月	二、〇〇〇、〇〇〇
	九月	一、〇〇〇、〇〇〇
	十月	二、〇〇〇、〇〇〇
	計	一〇、〇〇〇、〇〇〇
七年度	七年六月	四、〇〇〇、〇〇〇
	七月	七、〇〇〇、〇〇〇
	八月	一、〇〇〇、〇〇〇
	計	一二、〇〇〇、〇〇〇
八年度	八年八月	二、〇〇〇、〇〇〇
	九月	一、〇〇〇、〇〇〇
	九年一月	一、〇〇〇、〇〇〇
	二月	五〇〇、〇〇〇
	三月	八〇〇、〇〇〇
	計	五、三〇〇、〇〇〇
九年度	九年六月	七、七〇〇、〇〇〇
	八月	二、三〇〇、〇〇〇
	十年一月	二、五〇〇、〇〇〇
	計	一二、五〇〇、〇〇〇
十年度	十年六月	七、七〇〇、〇〇〇
	七月	二、〇〇〇、〇〇〇
	八月	二、三〇〇、〇〇〇
	計	一二、〇〇〇、〇〇〇

（ロ）專賣局分

年度	償還年月	償還額
大正元年度	大正元年十月	一二、〇〇〇、〇〇〇円
三年度	三年十月	一八、四〇〇、〇〇〇
五年度	五年八月	一六、五〇〇、〇〇〇
六年度	六年八月	一七、〇〇〇、〇〇〇
七年度	七年八月	一六、七〇〇、〇〇〇
八年度	八年八月	二〇、〇〇〇、〇〇〇
九年度	九年九月	一〇、〇〇〇、〇〇〇
	十年一月	一〇、〇〇〇、〇〇〇
	計	二〇、〇〇〇、〇〇〇

次に兩借入金の爲に支拂はれたる各年度別利子額は左表の如し。

年度	製鐵所分利子額	專賣局分利子額
明治四十四年度	一七一、一六七・七五二円	―円
大正元年度	一三二、三二三・七〇二	八一、九六七・二一三
二年度	一三五、四四六・五七四	―
三年度	二五〇、七九四・五二〇	一一五、九四五・二〇五
四年度	二六七、〇七七・四三九	―
五年度	一九九、八九三・四四二	一五三、七二九・五〇八
六年度	七七、六〇二・七三九	一一九、〇四一・〇九六
七年度	一七七、二〇五・四七九	六、三二八・七六七

大正八年度	四一〇、一六八・二九四円	一八三、八三五・六一六円
九年度	八一〇、三八五・四一四	二八四、〇一六・三九三
十年度	一八五、九一五・〇六九	—
合計	二、八一七、九八〇・四三四	九四四、八六三・七九八

第六款　鐵道事業費借入金

鐵道事業費借入金は明治四十二年三月法律第六號帝國鐵道會計法第二條に依りて借入せられたるものとす。同法第二條は當初『帝國鐵道ノ建設及改良ニ要スル經費ハ鐵道益金ヲ以テ之ニ充ツ但シ鐵道益金不足ノ場合ニ於テ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ公債ヲ發行シ又ハ他ノ特別會計其ノ他ヨリ借入金ヲ爲スコトヲ得』と定められたるが、大正四年六月法律第六號を以て一般會計よりも借入を爲すことを得る旨改正し、又十年三月法律第十三號を以て同法の全般に亙り改正の施さるるや、同條も左の如く改められたり。

第二條　帝國鐵道資本補足ニ必要ナル金額ハ鐵道益金ヲ以テ之ニ充ツ但シ鐵道益金不足ノ場合ニ於テハ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得

又公債及借入金の制限額は、當初の規定（第二條但書）に依れば帝國鐵道の建設及改良費豫算總額以内なりしが、右の改正に伴ひ、建設費及改良費の外に用品資金補足の豫算定額以内と改正したり。

本借入金は明治四十二年五月より昭和二年三月迄に於て總額二億千九百八十一萬一千八百九十五圓五十五錢五厘に達したり。償還期限は主として五箇年以内、借入先は一般會計、預金部、貨幣整理資金及國債整理基金とす。尙ほ毎回に付之を表示すれば左の如し。

年度	借入年月日	借入額	利率	償還期限	借入先
明治四十二年度	明治四二年、五月、一九日	五〇〇、〇〇〇・〇〇〇円	五分	明治四七年、五月、一八日	預金運用
	〃 〃 二〇	二、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇	五分	〃 〃 一九	同上
	四三、三、四	一、五三六、九九二・〇〇〇	五分	四八、三、三	國債整理基金
	〃 〃 三一	一五、六〇〇、〇〇〇・〇〇〇	四分二厘	〃 〃 三〇	千萬圓（預金運用） 五百六十萬圓（貨幣整理資金）
	計	二〇、一三六、九九二・〇〇〇			
四十三年度	四四、三、二五	一〇、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	四分二厘	四九、三、二四	預金運用
	〃 〃 三一	一〇、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	四分二厘	〃 〃 三〇 （昭和三、三、三〇）	同上
	〃 〃 〃	四、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇	四分二厘	明治四九、三、三〇	同上
	計	二四、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇			
大正元年度	大正二、三、二五	五、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	五分	大正七、三、二四	預金運用
二年度	三、二、一三	五、一二〇、八九八・九〇三	五分	八、二、一二	同上
	〃 三、二七	三〇〇、〇〇〇・〇〇〇	三分六厘	六、二、二八	同上
	〃 〃 三一	一四、八七九、一〇一・〇九七	五分	八、三、三〇	同上
	計	二〇、三〇〇、〇〇〇・〇〇〇			
三年度	四、二、一六	六、二六二、〇四九・二二〇	五分五厘	九、二、一五	預金運用
	〃 三、一	一〇、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	五分五厘	〃 〃 二八	同上
	〃 〃 一三	三、七五七、二二九・五三二	五分五厘	〃 三、一二	同上
	〃 〃 二五	四五〇、〇〇〇・〇〇〇	三分六厘	七、三、二四	同上
	〃 〃 三一	八、一〇〇、〇〇〇・〇〇〇	五分五厘	九、三、三〇	同上
	計	二八、五六九、二七八・七五二			

大正四年度	大正四年一一月一日	三〇〇、〇〇〇・〇〇〇円	五分五厘	大正九年一〇月三〇日	預金運用
	五、三、一三	三六、五〇五・二二八	五分五厘	一〇、三、一二	同上
	〃　〃　二五	二〇、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	五分五厘	〃　〃　二四 （昭和六、三、二四）	一般會計
	計	二〇、三三六、五〇五・二二八			
五年度	五、六、三〇	一五、五一七・〇二〇	五分	大正六、六、二九	國債整理基金
	〃　一一、三〇	一、五三一、二五六・二三二	五分五厘	一〇、一一、二九 （昭和二、一一、二九）	預金運用
	六、三、三〇	二〇、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	五分五厘	大正一一、三、一九 （昭和三、三、一九）	一般會計
	計	二一、五四六、七七三・二五二			
六年度	六、六、三〇	二〇、九八二・四〇〇	五分	大正八、三、三一	國債整理基金
七年度	七、七、一	一四、九三六・一五〇	五分	九、三、三一	同上
	八、三、三一	一四、八七九、一〇一・〇九七	五分	一三、三、三一 （昭和四、三、三一）	預金運用
	計	一四、八九四、〇三七・二四七			
八年度	八、六、三〇	一一、〇九六・一一〇	五分	大正一〇、六、三〇	國債整理基金
	九、三、三〇	六、三六一、五一二・五七〇	五分五厘	一四、三、三〇 （昭和五、三、三〇）	預金運用
	計	六、三七二、六〇八・六八〇			
九年度	九、六、三〇	五五、一三八・一八〇	五分	大正一一、六、三〇	國債整理基金
	一〇、三、三〇	五、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	五分	一五、三、三一 （昭和三、三、三一）	預金運用
	計	五、〇五五、一三八・一八〇			
十年度	一〇、六、三〇	一二、六七〇・四七〇	五分	大正一二、六、三〇	國債整理基金
十一年度	一一、六、三〇	一〇、八三五・一九六	五分	一三、六、三〇	同上
十二年度	一二、六、三〇	七、一三七・二八〇	五分	一三、六、三〇	同上
	一三、三、三一	二五、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	五分五厘	一三、九、三〇	預金運用
	計	二五、〇〇七、一三七・二八〇			
十三年度	〃　六、三〇	三、九三四・七一〇	五分	大正一四、三、三一	國債整理基金
十四年度	一四、六、三〇	二七、五五三・九五〇	五分	一五、六、三〇	同上
	一五、三、二四	一四、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	六分	二〇、三、二四	預金部
	計	一四、〇二七、五五三・九五〇			
昭和元年度	一五、六、三〇	八、七二四・一〇五	五分五厘	昭和二、六、三〇	國債整理基金
	昭和二、三、三一	一四、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	六分	七、三、三一	預金部
	〃　〃　〃	八、七二四・一〇五	五分五厘	二、六、一	同上
	計	一四、〇一七、四四八・二一〇			
合計		二一九、八一一、八九五・五五五			

（備考）償還期限中割弧附を以て傍書したるは最終回に於ける延長期限なり。

本借入金の第一回償還は大正二年三月なりしが、爾來昭和二年三月迄に總額一億千四百七萬七千九十三圓九錢三厘の償還ありしを以て、昭和元年度末現在の未償還高は一億五百七十三萬四千八百二圓四十六錢二厘なりとす。左に每年度月別償還額を掲ぐべし。

年度	償還年月	償還額
大正元年度	大正二年三月	八、九二二、八八七・五〇〇円
二年度	二年四月	一六、五五〇・二七八
	五月	二六、二〇八・〇〇〇・〇〇〇
	三年二月	九、六一〇、四五三・一二五
	計	三五、八三五、〇〇三・四〇三
四年度	四年十一月	三〇〇、〇〇〇・〇〇〇

大正五年度	大正五年七月	二、七四九、〇七九・七一二円
六年度	六年五月	一五、二七八、〇六五・八五〇
	六月	三、七三〇、六二〇・六二〇
	八月	四六七、四六二・〇〇〇
	計	一九、四七六、一四八・四七〇
七年度	七年十二月	一九、〇三七・四二〇
	八年三月	一四、八七九、一〇一・〇九七
	計	一四、八九八、一三八・五一七
八年度	八年十二月	一四、九三六・一五〇
	九年三月	六、三六一、五一二・五七〇
	計	六、三七六、四四八・七二〇
九年度	九年九月	一七六、〇〇〇・〇〇〇
	十二月	一一、〇九六・一一〇
	計	一八七、〇九六・一一〇
十年度	十年六月	五五、一三八・一八〇
十一年度	十一年二月	一二、六七〇・四七〇
十二年度	十二年十一月	一〇、八三五・一九六
十三年度	十三年五月	二五、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	六月	七、一三七・二八〇
	計	二五、〇〇七、一三七・二八〇
十四年度	十四年六月	三、九三四・七一〇
	十月	二〇六、二九六・七七〇
	計	二一〇、二三一・四八〇
昭和元年度	大正十五年六月	二七、五五三・九五〇
	昭和二年三月	八、七二四・一〇五
	計	三六、二七八・〇五五
合計		一一四、〇七七、〇九三・〇九三

（備考）明治四十四年三月預金運用よりの借入金千萬圓、大正五年三月一般會計よりの借入金二千萬圓、同年十一月預金運用よりの同上百四十八萬五千四百六十四圓六十九錢（當初の借入金額百五十三萬千二百五十六圓二十三錢二厘中大正十四年十月四萬五千七百九十一圓五十四錢二厘を償還す）、六年三月一般會計よりの同上二千萬圓、八年三月預金運用よりの同上千四百八十七萬九千百一圓九錢七厘、九年三月同上六百三十六萬千五百十二圓五十七錢、十年三月同上五百萬圓は何れも償還期限を延長したるため、昭和二年三月末日に至るも尙ほ未償還に屬す。

次に明治四十二年度以降昭和元年度に至る各年度別利子支拂額を掲ぐれば左の如し。

年度	利子支拂額
明治四二	九二、五三四・二四五円
四三	六二五、五六一・六四四
四四	一、六四〇、二二七・六四〇
大正元	二、〇五四、一三二・一四九
二	九八四、〇〇八・四二九
三	九九一、五八〇・三八三
四	二、四八四、五四一・八四三
大正五	三、六〇三、三四七・四六二円
六	四、〇八四、四九六・五六八
七	四、〇八一、三二六・六四八
八	三、八〇〇、一七五・二二〇
九	三、八〇九、二五九・七五六
一〇	四、〇九七、一一五・四一七
一一	三、八〇九、三七二・九七七
大正一二	四、一六二、五七六・四七七円
一三	四、四〇〇、四六三・四二三
一四	四、二三五、一四一・六七八
昭和元	四、八四九、五九六・二〇六
合計	五三、八〇五、四五八・一六五

第七款　鐵道事業費一時借入金

鐵道事業費一時借入金は前款に記述したる鐵道事業費借入金と同じく、帝國鐵道會計法に依りて借入せられたるものとす。而して之が前者と異なるは前者が同法第二條に依るものなるに對し、本借入金は同法第十二條に依るものなること之なり。右第十二條は當初『本會計ニ於テ仕拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ一般會計他ノ特別會計其ノ他ヨリ一時借入金ヲ爲シ又ハ融通證劵ヲ發行スルコトヲ得』と規定したれども、大正十年三月法律第十三號を以て、文中の借入先に關する規定を削除したり。而して鐵道事業費借入金の償還期限は、法文に依りて制限せらるることなきに反し（事實上は概ね五箇年以內なりしこと前款に述べたるが如し）、本借入金は當該年度內に返還するを要するものとす（第十二條第三項）。之亦前者と相違する點なりとす。

本借入金の毎回借入要領を表示すれば左の如し。但し大正十三年度以降は借入の事實なし。

年度	借入年月日	借入額	利率	償還期限	借入先
明治四十二年度	明治四二年一一月二〇日	七、〇〇〇、〇〇〇円	五分	明治四三年三月三一日	預金運用
	〃　一二、一五	二、〇〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　二五	一、〇〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	四三、二、二一	一、五〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	計	一一、五〇〇、〇〇〇			
四十三年度	四三、五、二五	八、〇〇〇、〇〇〇	四分二厘	四四、三、三一	預金運用
	〃　八、三一	二、〇〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　一一、二五	五〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　一二、一五	一、〇〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　二三	一、〇〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	四四、一、一三	二、〇〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	計	一四、五〇〇、〇〇〇			
四十四年度	四四、五、二五	九、〇〇〇、〇〇〇	四分二厘	四五、三、三一	不明
	〃　八、二五	一、〇〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	計	一〇、〇〇〇、〇〇〇			
大正元年度	大正元、一一、二五	三、〇〇〇、〇〇〇	五分	大正二、一、三一	不明
	〃　一二、二〇	八、〇〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	計	一一、〇〇〇、〇〇〇			
二年度	二、六、三〇	八、〇〇〇、〇〇〇	五分	三、三、三一	預金運用
	〃　八、二五	一、五〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　一〇、二五	一、〇〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　一一、二五	九、五〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　一二、一五	一、五〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　二五	一、二〇〇、〇〇〇	〃	三、一、一〇	國債整理基金
	計	二二、七〇〇、〇〇〇			
三年度	三、五、二七	八、〇〇〇、〇〇〇	五分	四、三、三一	一般會計
	〃　一一、二五	一〇、〇〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　一二、二一	二、五〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　二五	一、五〇〇、〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	計	二二、〇〇〇、〇〇〇			

大正十二年度	大正一二、（年）一二、（月）二六（日）	二五、〇〇〇、〇〇〇円	五分五厘	大正一三、（年）三、（月）三一（日）	預金運用

本借入金の各年度月別の償還額は左表の如し。

年度	償還年月	償還額
明治四十二年度	明治四十三年一月	一、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇円
	三月	一〇、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	計	一一、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
四十三年度	四十三年五月	一、四〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	六月	六、六〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	九月	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	十月	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	四十四年三月	四、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	計	一四、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
四十四年度	四十四年六月	一、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	十月	八、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	計	一〇、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
大正元年度	大正二年一月	一一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
二年度	三年一月	一、二〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	二月	五、一二〇、八九八・九〇三
	三月	一六、三七九、一〇一・〇九七
	計	二二、七〇〇、〇〇〇・〇〇〇
三年度	四年一月	二、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	二月	一、四〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	三月	一八、一〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	計	二二、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
十二年度	十三年三月	二五、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇

次に各年度に於ける利子支拂額を掲ぐれば次の如し。

年度	利子支拂額
明治四十二年度	一六一、二三二・八七五円
四十三年度	六四、一三九・一七四
四十四年度	一三〇、九四七・九四五
大正元年度	六一、七〇七・四六三
二年度	五二二、六九三・九二六
三年度	四八九、三六九・八六四
十二年度	三六〇、七〇七・二〇一
合計	一、七九〇、七九八・四四八

第八款　治水事業費借入金

治水事業費借入金は當初治水費資金借入金と稱せられ明治四十四年三月法律第十四號治水費資金特別會計法第五條『治水費資金ニ充ツル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入金ヲ爲スコトヲ得借入金ノ整理又ハ償還ノ爲必要アルトキ亦同シ』との規定に依りて借入せられたるもの

とす。該特別會計は大正四年六月法律第七號を以て、大正四年度限り廢止せられたるを以て、本借入金は爾來一般會計の負擔に歸し、其の名稱も大正五年度以降治水事業費借入金と改められたり。

本借入金は明治四十五年三月より四年三月まで左の數回に亙り、何れも大藏省預金部より借入せられたり。

年度	借入年月日	借入額	利率	償還期限
明治四十四年度	明治四五年三月三〇日	二、〇〇〇、〇〇〇円	四分五厘	大正二年三月一九日（昭和三、三、一九）
大正元年度	大正二、三、二八	一二、〇〇〇、〇〇〇	四分五厘	七、三、二七（昭和三、三、二七）
二年度	三、三、三一	四、一五〇、〇〇〇	四分五厘	八、三、三〇（昭和四、三、三〇）
三年度	四、三、三一	三、六〇〇、〇〇〇	四分五厘	九、三、三〇（昭和五、三、三〇）
合計		二一、七五〇、〇〇〇		

（備　考）償還期限中括弧附傍書は最終改定の期限を示す。

本借入金は借入當初は滿一箇年乃至五箇年の償還期限の定めなりしが、未だ一回も其の償還を行はれざる間に該特別會計は廢止せられ、同會計に屬する資金及債務は一般會計に歸屬することとなりたり。然るに其の後に於ても國庫に餘裕を生ぜざりし結果、逐次償還年限に改訂を加へ、終に大正末年に至るも其の償還を見ず、從來の短期借入金は一變して長期借入金の性質を帶ぶるに至れり。

左に明治四十四年度以降大正末年度迄、本借入金の爲に支拂ひたる年度別利子額を表示すべし。

年度	利子支拂額	年度	利子支拂額	年度	利子支拂額
明治四四	二四五・九〇二円	大正元	九四、二五三・〇八八円	大正二	六三〇、〇〇〇・〇〇〇円
大正三	八一六、七五〇・〇〇〇	八	一、一九八、七一二・五二五	一三	一、一九三、五〇九・八八二
四	九八〇、七六四・七九四	九	一、一九三、七八七・四七五	一四	一、一九六、二五〇・〇〇〇
五	一、〇八五、〇三七・四七五	一〇	一、一九六、二五〇・〇〇〇	昭和元	一、一九六、二五〇・〇〇〇
六	一、一九六、二五〇・〇〇〇	一一	一、〇九四、六五〇・六八五	合計	一五、四六七、九五一・九四六
七	一、一九六、二五〇・〇〇〇	一二	一、一九八、九九〇・一二〇		

第九款　大正三年臨時事件費借入金及大正三年臨時軍事費借入金

(一)・大正三年臨時事件費借入金

大正三年臨時事件費借入金は大正五年二月法律第四號に依りて借入せられたるものとす。同法は當初單に『大正三年臨時事件ニ關スル經費支辨ノ爲政府ハ特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得』と定められたるのみなりしが、後に至り右に關して公債をも發行することを得ることに改められ（六年七月法律第九號）、同時に公債及借入金の制限額を三千四百萬圓以內と定められたり。此の制限額は其の後逐次增額せられ（第一章第四節第一款參照）、大正十一年四月法律第三十號の最終改正に於ては六億五千萬圓となれり。今此等の諸改正を經たる法文を揭ぐれば左の如し。

法律第四號（大正五年二月八日）

大正三年臨時事件ニ關スル經費支辨ノ爲政府ハ特別會計ニ屬スル資金ヲ繰替使用シ借入金ヲ爲シ又ハ公債ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ借入金及公債ノ額ハ通シテ六億五千萬圓以内トス

本法ニ依ル特別會計資金ノ繰替、借入金又ハ公債ヲ整理償還スル爲必要アル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ借入金ヲ爲シ又ハ公債ヲ發行スルコトヲ得

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本借入金は大正四年度、五年度、七年度及九年度に於て何れも大藏省預金部より左の條件を以て借入れられたり。

年度	借入年月日	借入額	利率	償還期限
大正四年度	大正五年、三月、三一日	三、〇〇〇、〇〇〇円	五分五厘	大正一〇年、三月、三〇日（昭和三、三、三〇）
五年度	六、三、三一	一、〇〇〇、〇〇〇	五分五厘	一一、三、三一（昭和三、三、三〇）
七年度	八、一、二二	二二、〇〇〇、〇〇〇	五分五厘	一三、一、二二（昭和三、三、三〇）
九年度	九、一〇、三〇	二二、〇〇〇、〇〇〇	五分五厘	一四、一〇、三〇（昭和二、一〇、三〇）
合計		四八、〇〇〇、〇〇〇		

（備　考）償還期限中括弧附傍書は最終改訂の期限を示す。

本借入金は何れも借入當日より滿五箇年以内に償還するの定めなりしが、國庫の都合に依り期限到來毎に逐次之を延長したるため、大正末年に至るまで一回の償還をも見ず、全部未償還のまま昭和年代に入れり。

大正五年度以降昭和元年度に至る毎年度の利子支拂額を掲ぐれば次の如し。

年度	利子支拂額	年度	利子支拂額	年度	利子支拂額
大正五	一六四、六六〇円・三四一	大正九	一、九二九、二五二円・九三八	大正一三	二、六三三、九五二円・八四〇
六	二二〇、〇〇〇・〇〇〇	一〇	二、六四〇、〇〇〇・〇〇〇	一四	二、六四〇、〇〇〇・〇〇〇
七	四四五、四二四・六五八	一一	二、三六九、〇六八・四九二	昭和元年	二、六四〇、〇〇〇・〇〇〇
八	一、四三二、九四三・七〇七	一二	二、六四七、三〇六・九八四	合計	一九、七六二、六〇九・九六〇

（二）　大正三年臨時軍事費借入金

大正三年臨時軍事費借入金（大正十年度以降單に臨時軍事費借入金と稱す）は臨時事件費借入金と同じく大正五年法律第四號に依るものにして、前者が一般會計の歳入となりしに對して、本借入金は臨時軍事費特別會計の歳入となりしものとす。即ち政府は同特別會計に屬する軍事費支辨の爲め、大正八年一月二十二日大藏省預金部より一千萬圓（期限五箇年、利率年五分五厘）を借入したるが、更に十四年四月一日臨時軍事費特別會計廢止せられ、其の債權債務を一般會計に引繼ぎたる際、教育改善農村振興基金特別會計より一億四百五十萬圓（期限五箇年、利率年五分）を繰替借入したる爲め、合計一億一千四百五十萬圓となりたり。而して此の兩者中前者の償還期限は大正十三年一月二十二日に一度到來したれども、更に之を同十八年（昭和四年）一月二十二日に延期したるため、結局兩者とも大正年間に於ては全然償還せらるるに至らずして昭和年間に入れり。今大正七年度以降年々支拂はれたる利子額を示せば左の如し。

年度	利子支拂額	年度	利子支拂額	年度	利子支拂額
大正七	一〇二、四六五円・七五三	大正八	五五一、一三二円・一九六	大正九	五五〇、〇〇〇円・〇〇〇

大正　一〇	五五〇、〇〇〇円・〇〇〇
一一	五五〇、〇〇〇・〇〇〇
一二	五五〇、〇〇〇・〇〇〇
大正　一三	五四八、七四〇円・一七五
一四	五、七六〇、六八四・九三二
昭和　元	五、七七五、〇〇〇・〇〇〇
合計	一四、九三八、〇二三円・〇五六

第十款　朝鮮事業費借入金

朝鮮事業費借入金（大正三年度迄は朝鮮事業費繰替借入金と稱す）は、明治四十四年三月二十三日法律第十八號朝鮮事業公債法に依りて借入せられたるものとす（第一章第四節第一款參照）。同法に依れば、政府は朝鮮事業費支辨の爲五十五年以內の期限を以て公債を發行し、又は三年以內の期限を以て借入金を爲すことを得るものにして、兩者を通じての制限額は當初五千六百萬圓なりしが、其の後屢次の改正を經て大正十二年三月法律第十四號を以て、之を三億九千三百七十萬圓と爲したり。

本借入金は明治四十四年九月一日より大正十三年三月二十八日までに、左の如く借入せられたり。

年度	借入年月日	借入額	利率	償還期限	借入先
明治四十四年度	明治四四年、九月、一日	二、五〇〇、〇〇〇円	五分五厘	三箇年以內	不明
	〃　四五、二、二〇	三、〇〇〇、〇〇〇	六分	同上	同上
	〃　三、三〇	四、五〇〇、〇〇〇	〃	同上	同上
	計	一〇、〇〇〇、〇〇〇			
大正元年度	大正元、八、二一	二、五〇〇、〇〇〇	六分	三箇年以內	不明
	二、三、二九	一二、四〇〇、〇〇〇	五分五厘	滿三箇年	同上
	〃　〃　〃	六、〇〇〇、〇〇〇	六分五厘	三箇年以內	同上
	計	二〇、九〇〇、〇〇〇			
三年度	三、一〇、二九	五、〇〇〇、〇〇〇	五分五厘	大正六、一〇、二八	預金運用
	四、三、三一	二、六四〇、八七一	〃	七、三、三〇	同上
	計	七、六四〇、八七一			
四年度	四、八、一三	三、〇〇〇、〇〇〇	五分五厘	七、八、一二	一般會計
	〃　〃　二〇	一、五〇〇、〇〇〇	六分	〃　〃　一九	朝鮮銀行
	〃　一〇、二七	二、五〇〇、〇〇〇	五分五厘	〃　一〇、二六	一般會計
	〃　一一、二五	三一一、〇一二	〃	〃　一一、二四	預金運用
	五、二、二九	一、〇〇〇、〇〇〇	六分五厘	六、二、二八	日本興業銀行
	〃　三、二八	六、〇〇〇、〇〇〇	六分一厘	八、三、二七	朝鮮銀行
	〃　〃　二九	三、一三四、三二七	五分五厘	〃　〃　二八	一般會計
	計	一七、四四五、三三九			
五年度	五、七、六	三、〇〇〇、〇〇〇	五分五厘	八、七、五	一般會計
	〃　九、二一	二、五〇〇、〇〇〇	〃	〃　九、二〇	同上
	〃　一一、三〇	二、五〇〇、〇〇〇	〃	〃　一一、二九	同上
	六、三、三一	二、五八五、〇〇〇	〃	九、三、三〇	同上
	計	一〇、五八五、〇〇〇			
六年度	六、一〇、二七	五、〇〇〇、〇〇〇	五分五厘	九、一〇、二六	預金運用
	七、三、三〇	二、六四〇、八七一	〃	一〇、三、二九	同上
	計	七、六四〇、八七一			
七年度	七、八、一二	三、〇〇〇、〇〇〇	五分五厘	一〇、八、一一	一般會計
	〃　一〇、二六	二、五〇〇、〇〇〇	〃	〃　一〇、二六	同上
	〃　一一、二五	三一一、〇一二	〃	〃　一一、二五	預金運用

	大正八年三月二七日	五、五〇〇、〇〇〇円	五分五厘	大正一一年三月二七日	朝鮮銀行
	〃〃二八	三、一三四、三二七	〃	〃〃二八	一般會計
	計	一四、四四五、三三九			
大正八年度	八、七、五	三、〇〇〇、〇〇〇	五分五厘	一一、七、五	一般會計
	〃九、二〇	二、五〇〇、〇〇〇	〃	〃九、二〇	同上
	〃一一、二九	二、五〇〇、〇〇〇	〃	〃一一、二九	同上
	九、三、三〇	二、五八五、〇〇〇	〃	一二、三、三〇	同上
	計	一〇、五八五、〇〇〇			
九年度	九、一〇、二六	五、〇〇〇、〇〇〇	五分五厘	一二、一〇、二六	預金運用
	一〇、三、二九	二、六四〇、八七一	〃	一三、三、二九	同上
	計	七、六四〇、八七一			
十年度	一〇、八、一一	三、〇〇〇、〇〇〇	五分五厘	一三、八、一〇	一般會計
	〃一〇、二六	二、五〇〇、〇〇〇	〃	〃一〇、二六	同上
	〃一一、二五	三一一、〇一二	〃	〃一一、二五	預金運用
	一一、三、二七	五、五〇〇、〇〇〇	七分	一二、三、二七	朝鮮銀行
	〃〃二八	三、一三四、三二七	五分五厘	一四、三、二八	一般會計
	計	一四、四四五、三三九			
十一年度	一一、七、五	三、〇〇〇、〇〇〇	五分五厘	一六、七、五	一般會計
	〃九、二〇	二、五〇〇、〇〇〇	〃	〃九、二〇	同上
	〃九、二六	五、五〇〇、〇〇〇	〃	一四、九、二六	預金運用
	〃一一、二九	二、五〇〇、〇〇〇	〃	一六、一一、二九	一般會計
	一二、三、三〇	二、五八五、〇〇〇	〃	一七、三、三〇	同上
	計	一六、〇八五、〇〇〇			
十二年度	〃一〇、二六	五、〇〇〇、〇〇〇	〃	一五、一〇、二六	預金運用
	一三、三、二八	二〇、〇〇〇、〇〇〇	〃	一三、九、三〇	同上
	計	二五、〇〇〇、〇〇〇			

（備考）一、明治四十四年度及大正元年度の借入金の借入先は朝鮮銀行及預金運用なれども、其の内譯分明ならず。

二、大正十一年度の借入金中五箇年期限のもの二回あるは、當時借換の場合は公債法の『三年以内』なる規定に拘束せられざるものとの見解を採りたるに依る。

前表にて知らるる如く、本借入金の償還期限は二三の例外あるも大多數は三箇年以内にして、國庫の都合に依りて隨時償還を行ふものとす。左に各年度月別償還額を表示せん。

年度	償還月	償還額
大正元年度	大正元年十一月	四、五〇〇、〇〇〇円
	二年一月	一、五〇〇、〇〇〇
	計	六、〇〇〇、〇〇〇
二年度	二年五月	一、一八五、〇〇〇
	六月	一〇、六五〇、二〇〇
	七月	三、五六四、八〇〇
	八月	二、〇〇〇、〇〇〇
	計	一七、四〇〇、〇〇〇
四年度	四年八月	一、五〇〇、〇〇〇
	五年三月	六、〇〇〇、〇〇〇
	計	七、五〇〇、〇〇〇
五年度	五年六月	一、〇〇〇、〇〇〇

大正六年度	大正六年十月	五、〇〇〇、〇〇〇円
	七年三月	二、六四〇、八七一
	計	七、六四〇、八七一
七年度	七年七月	二、〇〇〇、〇〇〇
	八月	三、〇〇〇、〇〇〇
	十月	二、五〇〇、〇〇〇
	十一月	三一一、〇一二
	八年三月	八、六三四、三二七
	計	一六、四四五、三三九
八年度	八年七月	三、〇〇〇、〇〇〇
	九月	二、五〇〇、〇〇〇
	十一月	二、五〇〇、〇〇〇
	九年三月	二、五八五、〇〇〇
	計	一〇、五八五、〇〇〇
九年度	九年十月	五、〇〇〇、〇〇〇
	十年三月	二、六四〇、八七一
	計	七、六四〇、八七一
十年度	十年八月	三、〇〇〇、〇〇〇
	十月	二、五〇〇、〇〇〇
	十一月	三一一、〇一二
	十一年三月	八、六三四、三二七
	計	一四、四四五、三三九
十一年度	十一年七月	三、〇〇〇、〇〇〇
	九月	二、五〇〇、〇〇〇
	十一月	二、五〇〇、〇〇〇
	十二年三月	八、〇八五、〇〇〇
	計	一六、〇八五、〇〇〇
十二年度	十二年十月	五、〇〇〇、〇〇〇
十三年度	十三年五月	一八、二〇〇、〇〇〇

右の如く本借入金は大正元年十一月より十三年五月までに、總額一億二千七百九十四萬二千四百二十圓を償還したるが、此の期間に於ける總借入額は一億六千二百四十一萬三千六百三十圓なりしを以て、差引殘額三千四百四十七萬千二百十圓は大正末年に至るも未だ償還期限に達せず、引續き昭和年間に繼續せられたり。

又明治四十四年度以降昭和元年度迄に支拂はれたる利子額を表示すれば左の如し。

年度	利子支拂額
明治四四	五二、〇七一・二二〇円
大正元	三〇七、二五九・二四〇
二	六八七、八五九・三九一
三	二三〇、三六七・一二〇
四	一、〇九七、八六四・二八二
五	一、三五七、九四五・三六四
大正六	一、九一五、二五三・八七〇円
七	二、〇五二、一七〇・六五〇
八	一、七一七、一四四・三三七
九	一、七九四、一三七・〇二五
一〇	一、九七八、四七二・二五〇
一一	一、六二〇、〇四三・四八一
大正一二	一、七五一、一七五・八八三円
一三	二、〇四八、七九三・〇九二
一四	一、八九五、六〇一・〇五六
昭和元	一、八九五、九一六・五五〇
合計	二二、四〇二、〇七四・八一一

第十一款　朝鮮事業費一時借入金

朝鮮事業費一時借入金は其の名稱に於て前款記述の借入金と酷似すれども、其の起因に於ては全く相異なる。卽ち前者が朝鮮事業公債法に基けるものなる對し、此の借入金は明治四十三年九月三十日勅令第四百六號「朝鮮總督府特別會計ニ關スル件」附則第七條第二項に基きたるものとす。明治四十三年八月韓國合併に當り政府は財政上の必要處分として同月勅令第三百二十六號を發布し、『舊韓國政府ニ屬スル歲入歲出ノ豫算ハ當分ノ內從前ノ儘之ヲ襲用』することとなりたるが、九月末日に至り前記勅令を發布して、該豫算に關する會計年度は四十三年九月三十日限りとなし（附則第七條）、尙ほ右襲用豫算に計上したる一時借入金にして同日迄に借入を實行せざるものは、依然同會計の財源として之が借入を要するを以て、右の借入金に關しては同會計の負擔に於て之を爲すことを得る旨を規定したり（同條第二項）。此の規定に基き政府が翌四十四年三月三十一日を以て、韓國銀行より利率年五分、償還期限三箇年以內として二百九萬四千六百七十七圓を借入れたるもの卽ち本借入金とす。

本借入金は期限に先ち大正二年五月十六日を以て全部償還せられたるが、此の間に支拂はれたる利子額は明治四十四年度七萬三百圓七十九錢、大正元年度十萬四千七百十八圓十五錢一厘、同二年度四萬七千八百九十五圓一錢、合計二十二萬二千九百十三圓九十五錢一厘なりき。

第十二款　朝鮮旱害救濟費借入金

朝鮮旱害救濟費借入金は、大正八年及九年の兩年度に於て剩餘金より支出したる同救濟費補塡の爲め借入したるものなり。蓋し大正八年夏期に於ける朝鮮の旱魃の被害は未曾有の慘狀を呈し、其の期間長く、區域も亦全道に涉り、就中京畿・黃海・平安南北道の四道は最も甚しく、食糧の缺乏、窮民の困憊其の極に達し、之を自然に放置する能はざりしを以て、政府は之に對し急速救濟の必要を認め、卽ち勅裁を經て、剩餘金より大正八年度に於て二百八十四萬千九百五十三圓、九年度に於て四百七十萬五千二百圓、合計七百五十四萬七千百五十三圓を支出したり。而して右は前記の如く剩餘金より支出したるものにして早晚之を補塡せざるべからざるを以て、政府は大正九年七月第四十三回帝國議會の協贊を經て、八月一日左の如き豫算外國庫の負擔となるべき契約を結ぶことを得る件を公布したり。

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件（大正九年八月一日）（抄錄）

旱害救濟資金借入金（朝鮮總督府特別會計所屬）

旱害救濟ノ爲支出シタル金額ヲ補塡スル爲總額七百五十萬圓ヲ限リ五箇年以內ノ期限ヲ以テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

其の後大正十三、十四兩年度に於て再び旱害救濟の爲め、救濟費補助・道路橋梁及堤防修築工事費として臨時に經費の支出を要せしを以て、政府は第五十回帝國議會に此等兩年度の追加豫算案を提出し、議會の協贊を經て大正十四年三月二十六日之を公布したり。右の結果政府は更に大正十三年度に於て百八十七萬二千五百七十圓、同十四年度に於て百八十七萬七千四百三十圓、合計三百七十五萬圓を限り五箇年以內の期限を以て一時借入を爲し得ることとなれり。

前記の如く政府は前後二回に總額千百二十五萬圓の借入を爲すを得ることとなりしが、第一回分

の借入額は豫定より二百五十萬圓を減じ、五百萬圓を以て足りしかば、結局借入額は合せて八百七十五萬圓となれり。每回發行の要領を示せば左の如し。

年度	借入年月日	借入額	利率	償還期限	借入先
大正九年度	大正一〇年、三月、二五日	五、〇〇〇、〇〇〇円	七分	大正一一年、三月、二四日	朝鮮銀行
十一年度	一一、九、二六	五、〇〇〇、〇〇〇	五分五厘	一五、九、二六	預金運用
十三年度	一四、三、三一	一、八七二、五七〇	五分五厘	一九、三、三一	同上
十四年度	一五、三、三一	一、八七七、四三〇	五分五厘	二〇、一、三〇	預金部
計		一三、七五〇、〇〇〇			

（備考）一、第二回借入五、〇〇〇、〇〇〇圓は第一回分の借換なるを以て、實際の借入總額は八、七五〇、〇〇〇圓なり。
二、第二回借入の償還期限は滿期に至り一箇年延長せらる。

本借入金の償還期限は、第一回借入の分の一年期限なりしを除くの外、何れも五箇年以内なりとす。從て大正年間に於ては第一回借入金五百萬圓を借換へたるのみにて、殘額八百七十五萬圓は引續き昭和年間に繰越されたり。

次に大正九年度以降昭和元年度に至る年度別利子支拂額を表示すれば左の如し。

年度	利子支拂額
大正九年度	五、七八三・四二〇円
十年度	三四九、九九九・九九〇
十一年度	二二〇、六一六・四三三
十二年度	二七五、〇〇〇・〇〇〇
十三年度	二七五、〇六三・八一五
十四年度	三六九、一八〇・三二五
昭和元年度	四七二、四八〇・〇八七
合計	一、九六八、一二四・〇七〇

第十三款　臺灣事業費繰替借入金及臺灣事業費借入金

（一）　臺灣事業費繰替借入金

臺灣事業費繰替借入金は、明治三十二年法律第七十五號臺灣事業公債法第五條に於て『政府ハ第一條ノ經費ヲ繰替支辨スル爲メ一箇年以內ノ期限ヲ以テ臺灣銀行ヨリ一時借入ヲ爲スコトヲ得云々』と定めたるに由りて起りたるものとす。右第一條の經費とは、（一）鐵道敷設（二）土地調査（三）築港（四）廳舍建築（五）大租權整理（三十七年四月法律第十五號を以て追加）（六）水利事業（四十一年三月法律第十四號を以て追加）の各事業費を稱するものにして、此等は總て臺灣事業公債の募集金を以て支辨すべき經費なりと雖も（第二章第二節臺灣事業公債の部參照）、公債を募集するには適當なる時機を必要とし、時々の需要に應じ常に之を調達し得べきものにあらざるが故に、斯かる場合に處する爲め右の如く一時借入に依り繰替支辨の財源を得るの途を設け、以て事業經營の進行をして澁滯なからしめんことを期したるものなり。而して右借入金の期限は當初は前述の如く一箇年以內たるの規定なりしが、一箇年以內に公債募集の好機に接せざることあるべきを以て、明治三十四年四月法律第二十一號を以て之を改正し、其の期限を三箇年以內としたり。本法は大正十一年三月改正臺灣事業公債法の制定に依りて廢止せ

られ、以後は右改正法律に基き臺灣事業費借入金の名稱の下に引續き借入を行はれたり。

本借入金は明治三十二年度以降大正七年度迄僅少の年を除くの外連年起債せられ、特に明治四十一年度以後臺灣事業公債の募集中止せられたる結果、事業費の融通は專ら本借入金を以て繰替支辨し來りたり（臺灣事業公債の部參照）。左に明治三十五年度以前に於ける各年度借入金額を掲げ、次に同三十六年度以降に於ける每回借入の要領を表示すべし。

明治三十二年度　三、二〇〇、〇〇〇圓（年利七分、償還期限一箇年以内）
同　三十三年度　五、五〇〇、〇〇〇圓（同上、同上）
同　三十四年度　二〇〇、〇〇〇圓（同上、償還期限三箇年以内）
同　三十五年度　二、六四九、二〇〇圓（同上、同上）

明治三十六年度以降借入金一覽表

年度	借入年月日	借入額	利率	償還期限
明治三十六年度	明治三六年一二月一五日	五〇〇、〇〇〇円	年六分五厘	三箇年以内
三十八年度	三八、四、二九	三四九、六〇〇	年六分五厘	九箇月以内
	〃　五、六	三〇〇、〇〇〇	年七分	一箇年以内
	計	六四九、六〇〇		
四十一年度	四一、四、三〇	二五、三八〇	年七分	三箇年以内
	〃　五、三〇	三七、八九〇	〃	〃
	〃　六、三〇	三五、一三八	〃	〃
	〃　七、三一	八四、九三〇	〃	〃
	〃　八、三一	八六、三八四	〃	〃
	〃　九、三〇	三四、八七〇	〃	〃
	〃　一〇、三一	九九、五七〇	〃	〃
	〃　一一、三〇	八四、四二二	〃	〃
	〃　一二、三一	一〇七、九六〇	〃	〃
	四二、一、二九	三九、一三〇	〃	〃
	〃　二、二七	三三、四四〇	〃	〃
	〃　三、三一	一五四、六五〇	〃	〃
	計	八二三、七六四		
四十二年度	四二、四、三〇	一五三、三九〇	年七分	三箇年以内
	〃　五、三一	九一、二三〇	〃	〃
	〃　六、三〇	一〇六、一五〇	〃	〃
	〃　七、三一	一、五〇〇、〇〇〇	年六分五厘	明治四三年六月三〇日
	〃　〃　〃	八九、一〇〇	年七分	三箇年以内
	〃　八、三一	八四、二六〇	〃	〃
	〃　九、二〇	二五〇、〇〇〇	年六分五厘	明治四四年九月一九日
	〃　〃　三〇	一〇五、八七〇	年七分	三箇年以内
	〃　一一、三〇	二八、四四〇	〃	〃
	〃　一二、三一	八二、一五〇	〃	〃
	四三、一、三一	三二、八五〇	〃	〃
	〃　二、二八	三一、一一〇	〃	〃
	〃　三、三一	二五、六九〇	〃	〃
	計	二、五八〇、二四〇		

明治四十三年度	明治四三年、四月、三〇日	四三、一三〇円	年六分	三箇年以内
	〃五、三一	四四、〇六〇	〃	〃
	〃六、三〇	一、四〇〇、〇〇〇	〃	明治四五年、六月、三〇日
	〃〃〃	九八、七四〇	〃	三箇年以内
	〃七、三〇	四四、九一〇	〃	〃
	〃八、三一	四一、二五〇	〃	〃
	〃九、三〇	三一、六二〇	〃	〃
	〃一〇、三一	八〇〇、〇〇〇	〃	明治四五年、六月、三〇日
	〃〃〃	四六、六一〇	〃	三箇年以内
	〃一一、三〇	四七、四三〇	〃	〃
	〃一二、三一	八九、九九〇	〃	〃
	四四、一、三一	五四、八九〇	〃	〃
	〃二、二八	四九、七五〇	〃	〃
	〃三、三一	四六、四九〇	〃	〃
	計	二、八三八、八七〇		
四十四年度	四四、四、二九	五九、九九〇	年六分	三箇年以内
	〃五、三一	一一、四五〇	〃	〃
	〃六、三〇	七八四、九二〇	〃	〃
	〃七、三一	一五、九四〇	〃	〃
	〃八、三一	二〇、五二〇	〃	〃
	〃九、三〇	四一、五六〇	〃	〃
	〃一〇、三一	二九、六九〇	〃	〃
	〃一一、三〇	一九、二〇〇	〃	〃
	〃一二、三一	九七、〇〇〇	〃	〃
	四五、一、三一	五八、四九〇	〃	〃
	〃二、二九	三九、八五〇	〃	〃
	〃三、三〇	二二、一二〇	〃	〃
	計	一、二〇〇、七三〇		
大正元年度	四五、四、二	一、五八〇、〇〇〇	年六分	三箇年以内
	〃〃二九	八三一、三四〇	〃	〃
	〃〃三〇	二一、〇九〇	〃	〃
	〃五、三一	一六、八七〇	〃	〃
	〃六、二九	九六、六九〇	〃	〃
	大正元、八、三〇	一二、七六〇	〃	〃
	〃九、三〇	六二〇、〇〇〇	〃	〃
	〃一二、二八	七七、四一三	〃	〃
	二、一、三一	九〇、九七〇	〃	〃
	〃二、二八	四九、三七〇	〃	〃
	〃三、三一	三〇、六四〇	〃	〃
	計	三、四二七、一四三		
二年度	二、四、二九	六五一、四九〇	年六分	三箇年以内
	〃〃三〇	一七、三一〇	〃	〃
	〃六、三〇	四三、〇〇〇	〃	〃
	三、三、三一	一、〇八〇、〇〇〇	年六分五厘	〃
	計	一、七九一、八〇〇		
	三、四、二九	四七四、二六七	年六分	三箇年以内

大正三年度	大正三年七月三一日	四五、〇〇〇円	年六分	三箇年以内
	〃一一、三〇	二八、九〇〇	〃	〃
	四、二、二七	一〇〇、〇〇〇	〃	〃
	〃三、三一	二、四〇〇、〇〇〇	〃	〃
	計	三、〇四八、一六七		
四年度	四、六、三〇	一一〇、〇〇〇	年六分	三箇年以内
	〃八、三〇	二五、〇〇〇	〃	〃
	〃九、三〇	二八、〇〇〇	〃	〃
	〃一一、三〇	三五、五〇〇	〃	〃
	〃一二、一〇	一、〇〇〇、〇〇〇	〃	〃
	〃〃三一	一一〇、〇〇〇	〃	〃
	五、一、三一	四三、八〇〇	〃	〃
	〃二、二九	二〇、〇〇〇	〃	〃
	〃三、三一	二二、〇〇〇	〃	〃
	計	一、三九四、三〇〇		
五年度	五、四、二八	七二五、七四四	年六分	三箇年以内
	〃六、三〇	四五〇、〇〇〇	〃	〃
	〃七、三一	四八、〇〇〇	〃	〃
	〃八、三一	二四、〇〇〇	〃	〃
	〃九、三〇	二九、〇〇〇	〃	〃
	〃一一、三〇	三〇、〇〇〇	〃	〃
	〃一二、三一	一六二、〇〇〇	〃	〃
	六、一、三一	五七、〇〇〇	〃	〃
	〃二、二八	四〇、〇〇〇	〃	〃
	〃三、三一	一一、〇〇〇	〃	〃
	計	一、五七六、七四四		
六年度	六、四、二八	四八三、五六三	年六分	三箇年以内
	〃〃三〇	四〇、〇〇〇	〃	〃
	〃五、三一	一八、〇〇〇	〃	〃
	〃六、三〇	一八三、九〇〇	〃	〃
	〃七、三一	一九九、三八二	〃	〃
	〃八、三一	一二、〇〇〇	〃	〃
	〃一一、三〇	二〇、〇〇〇	〃	〃
	〃一二、二八	四二二、一一一	〃	〃
	計	一、三七八、九五六		
七年度	七、一二、三一	一五〇、〇〇〇	年六分	三箇年以内
	八、三、三一	八五〇、〇〇〇	〃	〃
	計	一、〇〇〇、〇〇〇		

（備考）明治三十八年五月六日借入三〇〇〇萬圓は滿期に至り之を三十九年十二月十四日に延期し、利率は年六分五厘に改めたるも、期限に先ち三十九年六月二十五日之を返償したり。

本借入金の返償期限は當初一年以内の定めなりしも、後之を三年以内と改めたることは既に述べたり。而して個々の場合に於て其の返償期限を特に定めたる例なきにあらざれども、多くは之を定むることなく、總て期限内に於て國庫の都合に由りて返償したるものにして、就中各年度初に於て期限迫れる舊債を返償したること最も多しとなす。大正八年度以後に於ては全然借入無かりしを以

て、七年度借入金の返償最長期限大正十一年三月三十一日を以て全部返償を了し、爰に本借入金は全く其の姿を絶ちたり。

明治三十三年度以降大正十年度に至る各年度月別の返償額左表の如し。

年度	返償年月	返償額
明治三十三年度	明治三十三年七月	八三七、〇〇〇円
	九月	八〇一、〇〇〇
	十一月	三六二、〇〇〇
	計	二、〇〇〇、〇〇〇
三十四年度	三十四年五月	一、五〇〇、〇〇〇
	三十五年三月	一〇〇、〇〇〇
	計	一、六〇〇、〇〇〇
三十五年度	三十五年十二月	四〇〇、〇〇〇
	三十六年一月	七〇〇、〇〇〇
	三月	一、四〇九、〇〇〇
	計	二、五〇九、〇〇〇
三十六年度	三十六年八月	一、〇九一、〇〇〇
	十月	五〇〇、〇〇〇
	十二月	五〇〇、〇〇〇
	三十七年二月	五〇〇、〇〇〇
	計	二、五九一、〇〇〇
三十七年度	三十八年三月	二〇〇、〇〇〇
三十八年度	三十八年四月	三四九、六〇〇
	五月	三〇〇、〇〇〇
	六月	五〇〇、〇〇〇
	七月	三〇〇、〇〇〇
	十月	一五〇、〇〇〇
	十一月	四〇〇、〇〇〇
	十二月	三〇〇、〇〇〇
	三十九年一月	六九九、二〇〇
	計	二、九九八、八〇〇
三十九年度	三十九年六月	四三三、六〇六
	十二月	三六六、三九四
	計	八〇〇、〇〇〇
四十三年度	四十三年六月	一、五〇〇、〇〇〇
四十四年度	四十四年四月	一七〇、〇〇〇
	六月	六五三、七六四
	九月	二五〇、〇〇〇
	四十五年三月	一、五八〇、〇〇〇
	計	二、六五三、七六四
四十五年大正元年度	四十五年四月	八三〇、二四〇
	大正元年九月	六二〇、〇〇〇
	計	一、四五〇、二四〇
二年度	二年四月	六三八、八七〇
三年度	三年四月	一、二〇〇、七三〇
四年度	四年四月	三、四二七、一四三
	五年四月	七一一、八〇〇

大正五年度	大正五年六月	一、〇八〇、〇〇〇円
	計	一、七九一、八〇〇
六年度	六年四月	四七四、二六七
	六月	五七三、九〇〇
	十二月	二、〇〇〇、〇〇〇
	計	三、〇四八、一六七
七年度	七年四月	一、三九四、三〇〇
八年度	八年四月	一、五七六、七四四
九年度	九年四月	一、三七八、九五六
十年度	十年十二月	一五〇、〇〇〇
	十一年三月	八五〇、〇〇〇
	計	一、〇〇〇、〇〇〇

次に明治三十二年度以降大正十年度に至る毎年度の利子支拂額を表示すれば左の如し。

年度	利子支拂額	年度	利子支拂額	年度	利子支拂額
明治三二	二三、三三三・三三三円	明治四〇	—円	大正四	三一八、六三八・六二〇円
三三	二九九、七二一・四三〇	四一	一〇、七二五・七三〇	五	三五九、八七五・九九〇
三四	四〇〇、六一七・三五一	四二	一二〇、六七四・九五五	六	三五五、七〇五・〇八〇
三五	四四四、二八八・三〇五	四三	二二三、九二〇・七八〇	七	二〇五、四三六・一六〇
三六	三二七、七七二・八八四	四四	三〇四、一八四・九二四	八	一六〇、八九五・八六〇
三七	二二〇、九三三・一六〇	大正元	二七一、四〇七・七五二	九	—
三八	一七五、〇〇一・四三一	二	三一七、〇八〇・〇一〇	一〇	二二、六三〇・一三〇
三九	三六、九四二・九一一	三	三四五、九九六・二八〇	合計	四、九四五、七八三・〇七六

（二）臺灣事業費借入金

大正十一年三月法律第十三號を以て改正臺灣事業公債法を制定せられ（同十二年三月法律第十五號を以て一部改正）、『臺灣ニ於ケル事業費又ハ事業費補助ニ要スル經費ヲ支辨シ且酒專賣制度ノ實施又ハ私設鐵道買收ニ要スル交付金トシテ交付スル爲政府ハ從前募集シタルモノヲ通シテ一億三千三百八十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入ヲ爲スコトヲ得』（第一條）且つ『前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入ヲ爲スコトヲ得』（第二條）るものと定められたり。臺灣事業費借入金は右の改正臺灣事業公債法に基きて起債せられし借入金を稱するものにして、前掲臺灣事業費繰替借入金と其の名稱を異にすれども、其の性質は全く相同じきものなり。

本借入金は大正十三年三月二十八日大藏省預金部より借入したる七百萬圓（年利五分五厘、返償期限十三年九月三十日）、及十四年三月三十一日一般會計より繰替借入したる三百二十萬圓（年利五分五厘、返償期限十九年三月三十一日）の二回合計千二十萬圓にして、前者は豫定よりも二箇月早く大正十三年七月二十九日に償還せられしが、後者の償還期日は大正十九年三月三十一日なるを以て、昭和元年度末の現在額は後者の三百二十萬圓なりとす。又本借入金の爲め支拂ひたる利子額は、十三年度に於て十二萬九千三百八十五圓二十四錢六厘、十四年度に於て十一萬七千六百五十四圓七十九錢五厘、昭和元年度に於て十七萬六千圓、合計四十二萬三千四十圓四錢一厘なり。

第十四款　臺灣經費補充一時借入金

臺灣經費補充一時借入金は臺灣總督府特別會計に屬する事業費支辨の爲め、豫算外國庫の負擔となるべきものとして帝國議會の協贊を經、臺灣銀行より借入れたるものなり。即ち右は臺灣事業公債法に依るの借入金に非ずして、單に臺灣總督府特別會計に屬する經費の一時補充を目的となす點に於て、既記臺灣事業費繰替借入金及臺灣事業費借入金と其の趣を異にす（本借入金は嘗て臺灣事業費借入金と稱せられたりしも、明治四十三年以後臺灣經費補充一時借入金と改められたり。而して臺灣事業費借入金とせば、前記大正十一年の改正臺灣事業公債法に依る借入金と混同するの虞あるを以て、本書に於ては特に之を表題の如く一定したり）。

政府は第二十三回及第二十四回帝國議會の協贊を經て、合計三百七十六萬六千圓を限り一時借入を爲すの契約を結ぶことを得る旨を左の如く公布したり。

第十六

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件（明治四十年三月十六日發布）

明治四十年度ニ於テ臺灣總督府特別會計ニ屬スル事業費ノ財源ニ充ツルカ爲左ノ條件ニ依リ金額貳百萬圓ヲ限リ一時借入ヲ爲スノ契約ヲ結フコトヲ得

一　利子　一箇年百分ノ六以内

一　借入期限　借入ノ日ヨリ五箇年以内

第七

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件（明治四十一年三月十三日發布）

明治四十一年度ニ於テ臺灣總督府特別會計ニ屬スル事業費ノ財源ニ充ツルカ爲左ノ條件ニ依リ金額百七十六萬六千圓ヲ限リ一時借入ヲ爲スノ契約ヲ結フコトヲ得

一　利子　一箇年百分ノ七以内

一　借入期限　借入ノ日ヨリ六箇年以内

政府は右に基きて四十一年二月以降四十三年六月まで何れも臺灣銀行より合計四百二十萬圓の借入を爲したり。其の要領左の如し。

年度	借入年月日	借入金額	利率	返償期限
明治四十年度	明治四一、二、二九	一、〇〇〇、〇〇〇円	年六分	明治四一、六、三〇
四十一年度	四一、八、三一	四〇〇、〇〇〇	年六分	四二、六、三〇
	四二、二、二七	二五〇、〇〇〇	〃	〃　〃
	〃　三、五	一、〇〇〇、〇〇〇	年七分	〃　〃
	計	一、六五〇、〇〇〇		
四十二年度	四二、九、二〇	七五〇、〇〇〇	年六分五厘	四四、九、一九
四十三年度	四三、六、三〇	八〇〇、〇〇〇	年六分	四四、六、三〇
合計		四、二〇〇、〇〇〇		

本借入金の返償期限は議會の協贊を經たる所に依れば五箇年及六箇年以内なりしが、實際に於ては毎回之を定め、長きも二箇年を超えず、短きは四箇月なりしを以て、其の最長期限たる明治四十四年九月十九日の償還を最後として消滅に歸したり。各年度に於ける月別の返償額左表の如し。

年度	返償年月	返償額
明治四十一年度	明治四十一年六月	八〇〇、〇〇〇円

明治四十二年度	明治四十二年四月	二〇〇、〇〇〇円
	四十二年六月	六五〇、〇〇〇
	四十三年二月	三〇〇、〇〇〇
	計	一、一五〇、〇〇〇
四十三年度	四十三年六月	七〇〇、〇〇〇
	十月	五〇〇、〇〇〇
	四十四年三月	六〇〇、〇〇〇
	計	一、八〇〇、〇〇〇
四十四年度	四十四年六月	二〇〇、〇〇〇
	九月	二五〇、〇〇〇
	計	四五〇、〇〇〇
合計		四、二〇〇、〇〇〇

又本借入金の爲め年々支拂ひたる利子額は、明治四十一年度三萬六千二百九十五圓八錢、同四十二年度九萬五千五百五十圓五十錢五厘、同四十三年度九萬六千六百八十七圓五十錢、同四十四年度一萬六千七百八十圓八十二錢、合計二十四萬五千三百十三圓九十錢五厘なりき。

第十五款　樺太事業費借入金

樺太事業費借入金は大正七年三月法律第二十一號樺太事業公債法に基き樺太に於ける事業費支辨の爲に借入せらるるものなり。右法律は其の制定以來主として公債發行制限額に關して數次の改正を經たるが（大正九年八月法律第四十六號、同十年四月法律第二十九號、同十一年三月法律第十四號、同十二年三月法律第十六號）、今此等の改正を經たる同法の全文を示せば左の如し。

樺太事業公債法（大正七年三月三十日法律第二十一號）

第一條　樺太ニ於ケル事業費支辨ノ爲政府ハ三千三百五十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入金ヲ爲スコトヲ得

第二條　前條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補塡スル爲必要アル場合ニ於テハ前條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ大正七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本借入金は大正十年三月以來十五年一月までに、左の如く借入せられたり。

年度	借入年月日	借入額	利率	償還期限	借入先
大正九年度	大正一〇年三月二八日	一、二九六、六〇〇・〇〇〇円	八分	大正一一年三月二八日	北海道拓殖銀行
十年度	一一、二、一四	四〇〇、〇〇〇・〇〇〇	七分六厘	一二、二、一四	同上
十二年度	一三、二、一六	四〇〇、〇〇〇・〇〇〇	五分五厘	一三、三、三一	日本銀行
	〃　三、二八	三、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　九、三〇	預金運用
	〃　〃　〃	一、〇七二、四九八・六二〇	〃	〃　三、三一	日本銀行
	〃　〃　三一	一、四七二、四九八・六二〇	〃	一四、三、三	同上
	計	五、九四四、九九七・二四〇			
十三年度	一四、三、二五	七五七、六三七・五二〇	五分五厘	一五、三、二五	預金運用
	〃　〃　三一	四一六、二一八・〇〇〇	〃	一九、三、三一	一般會計
	計	一、一七三、八五五・五二〇			

大正十四年度	大正一五年、一月、三一日	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇円	五分五厘	大正二〇年、一月、三〇日	一般會計
合計		九、八一五、四五二・七六〇			

右の如く第一回以來の本借入金合計額は九百八十一萬五千四百五十二圓七十六錢なりしが、此の内期限到來したるものは、單純竝に借換の方法を以て償還を爲し、其の額合計六百七十五萬千五百九十七圓二十四錢ありたるを以て、差引三百六萬三千八百五十五圓五十二錢は昭和二年三月三十一日現在の未償還額なりとす。今償還額を表示すれば左の如し。

年度	償還年月	償還額
大正十一年度	大正十一年九月	二〇八、八二六・四六〇円
	十二年二月	一五、二七四・九二〇
	計	二二四、一〇一・三八〇
十二年度	十三年二月	四〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	三月	二、五四四、九九七・二四〇
	計	二、九四四、九九七・二四〇
十三年度	十三年七月	二、一一〇、〇〇〇・〇〇〇
	十月	七一四、八六一・一〇〇
	十四年三月	七五七、六三七・五二〇
	計	三、五八二、四九八・六二〇
合計		六、七五一、五九七・二四〇

次に大正九年度以降の各年度別利子支拂額を表示すれば左の如し。

年度	利子支拂額
大正九年度	八五二・五五〇円
十年度	一〇七、五〇七・九一〇
十一年度	一二一、六八九・八〇〇
十二年度	一二七、〇四二・三〇〇
十三年度	一四五、六一八・二五七
十四年度	一〇三、〇六九・〇八九
昭和元年度	一五九、三二〇・二七三
合計	七六五、一〇〇・一七九

第十六款　樺太災害費借入金

樺太災害費借入金は、大正十三年九月十六日及十七日に亙る豪雨及十月二十一日より二十三日に至る暴風雨の爲め、東西兩海岸道路及橋梁大破し交通上支障尠からざりしを以て、之が復舊の爲に借入したるものとす。政府は右の災害直後に於て勅裁を經て第二豫備金より三十一萬七千五百圓を支出して其の復舊費に充てたるが、尙ほ十四年度豫算に於て七十萬圓を計上して之に充つることとし、此の經費支辨の爲には議會の協贊を經て、左の如く豫算外國庫の負擔となるべき契約の締結に依り借入を爲すこととしたり。

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲナスヲ要スル件(大正十四年三月二十八日公布)(抄錄)

災害復舊資金借入金(樺太廳特別會計)

災害復舊ノ爲資金七拾萬圓ヲ限リ五箇年以内ノ期限ヲ以テ一時借入ヲ爲スコトヲ得

右に依りて政府は大正十五年二月十八日國債整理基金より七十萬圓を繰替借入して（利率五分五厘）之に充てたるが、同借入金は同年五月三十一期限なりしも、都合に依り期日に先ち同年三十一日更に預金部より七十萬圓を借入して之を借換へたり。預金部よりの借入金は利率年五分五厘、償還期限は大正二十年（昭和六年）三月三十一日なりとす。

尙ほ本借入金の爲に支拂ひたる利子は、大正十四度に於て四千三百二十四圓六十五錢八厘、昭和元年度に於て二萬五千七百三十六圓九十八錢七厘、合計三萬六十一圓六十四錢五厘なり。

第十七款　關東事業費借入金

關東事業費借入金は大正十一年三月法律第十五號關東州事業公債法第一條『關東州ニ於ケル事業費支辨ノ爲政府ハ三百十萬圓ヲ限リ公債ヲ發行シ又ハ之カ繰替支辨ノ爲借入ヲ爲スコトヲ得』の規定に依りて借入せられたるものとす。而して同法に依りて借入せられしは大正十四年五月三十日一般會計より二十六萬五千三百五十五圓（利率五分五厘）の一回にして、其の償還期限は大正十九年（昭和五年）五月三十日なるを以て、右は昭和元年度末に於て未だ償還せられざるものとす。又本借入金の爲に支拂ひたる利子額は十四年度に於て七千三百五十七圓二十四錢、昭和元年度に於て一萬四千五百九十四圓五十二錢五厘、合計二萬一千九百五十一圓七十六錢五厘なり。

第十八款　米穀借入金

米穀借入金は大正十年四月法律第三十七號米穀需給調節特別會計法第二條『本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得』の規定に依りて借入せられたるものにして、借入金の制限額は同法第三條の規定に依り發行せらるる米穀證券と通じて二億圓なりとす。

本借入金は大正十年十二月より昭和二年三月まで總額二億五千九十九萬百五十圓二十錢に達したり。每回借入の要領を示せば左の如し。

年度	借入年月日	借入額	利率	償還期限	借入先
大正十年度	大正一〇年、一二月、三日	三四〇、〇〇〇・〇〇〇円	三分六厘	大正一一年、一二月、三日	預金運用
十一年度	一一、四、一	一七、二〇二、四五四・五六〇	日歩二錢二厘	一二、四、一	日本銀行
十二年度	一二、四、一	一四、三五五、一六三・一六〇	日歩二錢二厘	一三、四、一	日本銀行
	〃　〃　一二	一、一五五、六五一・一八〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　五、三	八二、〇九七・二八〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　三一	三〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　六、三〇	二一〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　八、八	二五、五〇四、一七二・〇〇〇	五分五厘	〃　三、三一	同上
	〃　〃　二七	三五、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　九、一三	二〇三、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	一三、三、一	六〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　三一	二〇、四五〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	一四、三、三一	同上
	計	六二、六二五、〇八三・六二〇			同上
	一三、四、一	一一、六九二、一九二・六二〇	五分五厘	一四、三、三一	日本銀行

大正十三年度	大正一三年四月一八日	二〇〇、〇〇〇・〇〇〇円	五分五厘	大正一四年三月三一日	日本銀行
	〃　〃　二三	七〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　三〇	二〇七、九九三・〇二〇	〃	〃　〃　〃	國債整理基金
	〃　五、一〇	七〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	日本銀行
	〃　〃　二二	五〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　六、二	一〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　一一	五〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　七、七	三〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　一五	二〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　二二	三〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　八、三〇	四〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　九、一	七五〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　五	五〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	一四、三、二	五〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　二三	五〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	一五、三、二五	預金運用
	〃　〃　二五	二一、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	計	三五、八六〇、一八五・六四〇			
十四年度	一四、四、一	三八、一一二、七四一・〇六〇	五分五厘	一五、三、二五	預金部
	〃　五、一	二二七、六六七・七六〇	日歩二錢	〃　〃　〃	日本銀行
	〃　六、九	一三二、一二二・一八〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　一二、二三	三〇〇、〇〇〇・〇〇〇	五分五厘	〃　〃　〃	預金部
	一五、一、二八	一〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　三、一	三五〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　九	二五〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　二五	五一、六〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	一六、三、二五（昭和三、三、二五）	同上
	〃　〃　三一	二〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	計	九一、二七二、五三一・〇〇〇			
昭和元年度	一五、四、一	一六、〇四四、九四七・六九〇	五分五厘	一六、三、二五	預金部
	〃　〃　二九	三〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　五、六	二〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　二八	一〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　六、一七	二〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　七、一四	一〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　八、二三	一〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　九、一	一、九〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　一一	一〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　二九	二〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　一〇、二八	一〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　一一、九	一〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　二六	一〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　一二、九	二〇〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	昭和二、三、一	一、九五〇、〇〇〇・〇〇〇	〃	〃　〃　〃	同上
	〃　〃　二五	二一、九九四、九四七・六九〇	〃	昭和三、三、二五	同上
	計	四三、六八九、八九五・三八〇			
合計		二五〇、九九〇、一五〇・二〇〇			

（備考）償還年月日の欄に傍書したるは期限延長したるものなり。

本借入金總額二億五千九十九萬百五十圓二十錢中、昭和元年度末までに償還せられたる額は一億七千七百四十九萬五千二百二圓三十三錢にして、同年度末未償還現在高は七千三百四十九萬四千九百四十七圓六十九錢なり。左に各年度月別の償還を表示すべし。

年度	償還年月	償還額
大正十一年度	大正十一年四月	三四〇、〇〇〇円・〇〇〇
	七月	一、三〇二、四五四・五六〇
	九月	一、三〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	十一月	三〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	十二年一月	三〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	三月	二、〇二〇、〇〇〇・〇〇〇
	計	五、五六二、四五四・五六〇
十二年度	十二年四月	一、三五〇、〇〇〇・〇〇〇
	五月	三〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	六月	八五〇、〇〇〇・〇〇〇
	七月	六五〇、〇〇〇・〇〇〇
	八月	二四、六六二、九一一・六二〇
	十月	一、八九二、一七二・〇〇〇
	十一月	一、七〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	十二月	一、九五〇、〇〇〇・〇〇〇
	十三年一月	三五〇、〇〇〇・〇〇〇
	三月	二〇、四五〇、〇〇〇・〇〇〇
	計	五四、一五五、〇八三・六二〇
十三年度	十三年九月	二、一五〇、〇〇〇・〇〇〇
	十月	四、九六〇、一八五・六四〇
	十一月	二、二〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	十二月	一、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	十四年一月	二、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	三月	二一、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	計	三四、三一〇、一八五・六四〇
十四年度	十四年七月	九七二、五三一・〇〇〇
	八月	二、一〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	九月	二、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	十月	三、九〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	十一月	五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	十五年三月	五一、五〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	計	六一、四七二、五三一・〇〇〇
昭和元年度	昭和二年三月	二一、九九四、九四七・六九〇
合計		一七七、四九五、二〇二・五一〇

（備考）大正十五年三月二十五日預金部より借入したる五千百五十萬圓は、昭和二年三月二十五日の償還期限なりしも、都合に依り十萬圓を返償したるのみにて之を同三年三月二十五日に延期したり。

次に大正十年度以降昭和元年度末までに支拂ひたる利子の年度別額左の如し。

年度	利子支拂額
大正十年度	一八、四六八円・二四一

大正十一年度	一、一五一、四八五・四七四円
十二年度	一、六一五、八九九・二七〇
十三年度	一、五三四、二〇二・八一〇
十四年度	三、〇〇九、八八二・四〇一
昭和元年度	三、六四八、三五二・一一〇
合計	一〇、九七八、二九〇・三〇六

第十九款　健康保險事業費借入金

健康保險事業費借入金は、大正十五年三月法律第二十六號健康保險特別會計法第五條『本會計ニ屬スル經費ヲ支辨スル爲必要アルトキハ政府ハ本會計ノ負擔ニ於テ借入ヲ爲スコトヲ得』の規定に依りて借入せらるるものとす。而して本借入金は大正年間に於ては未だ借入の事實なく、昭和二年三月二十五日に初めて預金部より三十五萬圓（利率五分五厘、償還期限昭和三年三月三十一日）を借入したり。從て未だ其の償還も、利子支拂もあること無し。

第六節　承繼借入金

第一款　舊鐵道會社借入金

舊鐵道會社借入金は明治三十九年三月法律第十七號鐵道國有法第四條に依りて、舊鐵道會社十社の借入金を政府に於て承繼したるものとす。承繼年度は明治三十九年度及同四十年度にして、其の承繼額は三十九年度に於て二百六十三萬五千圓、四十年度に於て五百二十七萬四千十圓、合計七百九十萬九千十圓なり。今右兩年度に於ける各承繼借入金の要領を表示すれば次の如し。

（一）　明治三十九年度承繼

會社名	借入年月日	手形借入額	日歩	償還期限	承繼年月日
岩越	明治三九年、一〇月、二七日	一一五、〇〇〇円	—	明治三九年、一一月、一日	明治三九年、一一月、一日
西成	〃一一、三〇	三一〇、〇〇〇	一錢八厘¾	〃一二、一〇	〃一二、一
山陽	〃〃一〇	二〇〇、〇〇〇	一錢六厘五毛	〃〃〃	〃〃〃
	〃〃〃	二五〇、〇〇〇	〃	〃〃二〇	〃〃〃
	〃〃〃	二〇〇、〇〇〇	一錢六厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃〃二二	七五〇、〇〇〇	一錢七厘	四〇、一、二一	四〇、一、一
	〃〃〃	二五〇、〇〇〇	一錢六厘五毛	〃〃〃	〃〃〃
	〃〃二七	三六〇、〇〇〇	一錢七厘	三九、一二、二七	三九、一二、一
	〃〃〃	二〇〇、〇〇〇	一錢六厘五毛	〃〃〃	〃〃〃
	計	二、二一〇、〇〇〇			
合計		二、六三五、〇〇〇			

（備考）　右表の外に舊日本鐵道會社より承繼したる借入金及手形以外の「其他の債務」一、一八二、九九六・圓五四二あれども詳細不明。

（二）　明治四十年度承繼

會社名	借入（振出）年月日	借入額		日歩利率	償還期限	承繼年月日
		手形	借入金			
北海道	明治四〇、四、二五	一二〇、〇〇〇円	―円	二錢四厘	明治四〇、七、一	明治四〇、七、一
	〃　五、一三	三七〇、〇〇〇	―	二錢二厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　一八	一〇、〇〇〇	―	二錢四厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　二四	九〇、〇〇〇	―	二錢二厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　〃	一五〇、〇〇〇	―	二錢一厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　二九	一四〇、〇〇〇	―	〃	〃〃〃	〃〃〃
	〃　六、二	一〇〇、〇〇〇	―	二錢四厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　八	一〇〇、〇〇〇	―	二錢一厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　九	九〇、〇〇〇	―	〃	〃〃〃	〃〃〃
	計	一、一七〇、〇〇〇	―	〃		
北越	四〇、四、一三	一五〇、〇〇〇	―	一錢八厘	四〇、八、一	四〇、八、一
	〃　五、一八	六〇、〇〇〇	―	二錢	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　二〇	二〇、〇〇〇	―	二錢一厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　二一	四〇、〇〇〇	―	二錢	〃〃〃	〃〃〃
	〃　六、四	二〇、〇〇〇	―	二錢一厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　一〇	三〇、〇〇〇	―	二錢三厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　二九	七〇、〇〇〇	―	〃	〃〃〃	〃〃〃
	〃　七、一五	二〇、〇〇〇	―	〃	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　一八	二三〇、〇〇〇	―	〃	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　二二	三〇、〇〇〇	―	〃	〃〃〃	〃〃〃
	計	六七〇、〇〇〇	―			
阪鶴	四〇、四、一二	二〇、〇〇〇	―	一錢八厘	四〇、八、一	四〇、八、一
	〃　〃　一三	二〇、〇〇〇	―	〃	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　一八	二〇、〇〇〇	―	〃	〃〃〃	〃〃〃
	〃　五、二三	一〇、〇〇〇	―	一錢九厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　三〇	四〇、〇〇〇	―	二錢	〃〃〃	〃〃〃
	〃　六、三	五、〇〇〇	―	〃	〃〃〃	〃〃〃
	〃　四、四	二〇、〇〇〇	―	一錢九厘五毛	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　一〇	三〇、〇〇〇	―	二錢一厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　一三	一〇、〇〇〇	―	一錢九厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　一九	一〇、〇〇〇	―	一錢九厘五毛	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　二〇	一〇、〇〇〇	―	二錢	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　二二	四〇、〇〇〇	―	一錢九厘五毛	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　二四	二〇、〇〇〇	―	二錢	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　二五	一〇、〇〇〇	―	二錢三厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　二六	一〇〇、〇〇〇	―	二錢一厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃　七、五	三〇、〇〇〇	―	〃	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　八	一五、〇〇〇	―	〃	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　一〇	一〇、〇〇〇	―	二錢	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　一二	一二、〇〇〇	―	〃	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　一五	一〇、〇〇〇	―	〃	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　二二	一〇、〇〇〇	―	二錢一厘	〃〃〃	〃〃〃
	〃　〃　二六	八五、〇〇〇	―	二錢	〃〃〃	〃〃〃

	明治三九、八、一一	—円	六〇〇、〇〇〇円	七分八厘	明治四〇、八、一二	明治四〇、八、一
	〃 〃 〃	—	四〇〇、〇〇〇	七分三厘	〃 〃 〃	〃 〃 〃
	〃 〃 〃	—	一、〇〇〇、〇〇〇	〃	〃 九、二三	〃 〃 〃
	〃 〃 〃	—	七〇〇、〇〇〇	〃	〃 一〇、二一	〃 〃 〃
	計	五三七、〇〇〇	二、七〇〇、〇〇〇			
京都	三九、五、八	—	五五、〇〇〇	二錢二厘	四〇、八、一	四〇、八、一
房總	四〇、六、二八	八〇、〇〇〇	—	二錢五厘	四〇、九、一	四〇、九、一
七尾	四〇、六、一一	三三、二一〇	—	二錢三厘	四〇、九、一	四〇、九、一
	〃 八、二五	一二、八〇〇	—	〃	〃 〃 〃	〃 〃 〃
	計	四六、〇一〇	—			
徳島	三八、一〇、二〇	—	一二、〇〇〇	二錢六厘	四〇、九、一	四〇、九、一
	三九、一〇、一	四、〇〇〇	—	二錢五厘	〃 〃 〃	〃 〃 〃
	計	四、〇〇〇	一二、〇〇〇			
合計		二、五〇七、〇一〇	二、七六七、〇〇〇			

舊鐵道會社の借入金の承繼は概ね其の償還期日を以て爲されたるが故に、承繼卽日に之を償還したるもの其の大部分を占め、然らざるものも亦期日に至り何れも全部償還せられたり。從つて其の償還を爲したる期日は、之を前表に依りて知るを得べければ之を略し、左には兩年度月別の償還額を掲ぐるに止むべし。

年度	償還年月	償還額
明治三十九年度	明治三十九年 十一月	一一五、〇〇〇・〇〇〇円
	十二月	一、五二〇、〇〇〇・〇〇〇
	四十年 一月	一、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	三月	*二三七、六三一・四二〇
	計	二、八七二、六三一・四二〇
四十年度	四十年 六月	*一一八、八一五・七一〇
	七月	一、一七〇、〇〇〇・〇〇〇
	〃	*二三七、六三一・四二〇
	八月	二、二六二、〇〇〇・〇〇〇
	九月	一、一四二、〇一〇・〇〇〇
	明治四十年 九月	*一一八、八一五・七一〇円
	十月	七〇〇、〇〇〇・〇〇〇
	十一月	*一一五、六九一・五五〇
	十二月	*一〇三、九七五・九五〇
	四十一年 二月	一二二、六六三・九三九
	三月	一一八、七三五・五四九
	計	六、二一〇、三三九・八二八
四十一年度	四月	九、〇三五・二九四
合計		九、〇九二、〇〇六・五四二

（備考）*印は舊日本鐵道會社關係の「其他の債務」なりとす。

次に承繼借入金の利子支拂に就き一言せんに、該借入金の大多數は承繼卽日償還したるを以て、概ね利子支拂のこと無かりしも、前記の如く內若干は承繼後期限に至り償還したるものあり、此等に對する利子支拂額左の如し。

年度	舊會社名	利子支拂額
明治三十九年度	西成	五八一・二五〇円
四十年度	京都	一二・一〇〇
	阪鶴	二四、七七八・六三〇
	徳島	三・一二〇
	計	二四、七九三・八五〇

第二款　舊韓國政府借入金

明治四十三年八月日韓兩帝國合併の結果、舊韓國の有したる諸債務は我帝國の國債に移り、朝鮮總督府特別會計の負擔に歸屬したり。而して右の内韓國政府が從來帝國政府より借受又は立替を受けたる分千五百七十八萬餘圓は、合併と同時に消滅に歸したりしを以て、承繼債務中借入金に屬するものは左の三者合計二千五百三十四萬四千百十六圓五十六錢なりき。

種別	借入年月日	借入額	利率	償還期限	借入先
舊韓國政府貨幣整理資金借入金	明治三八年、五月、一六日	三、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇円	六分	借入の年より十箇年	第一銀行
舊韓國政府起業資金借入金（第一回）	三九、三、一	五、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇	六分五厘	借入の年より五箇年据置、五箇年以内	日本興業銀行
同上（第二回）	自四一、一二、一 至四二、五、二五	一二、九六三、九二〇・〇〇〇	〃	四十一年十二月一日より二十五箇年	同上
舊韓國政府貨幣整理資金借越	四三、八、二九	四、三八〇、一九六・五六〇	六分	—	—
合計		二五、三四四、一一六・五六〇			

（備考）一、第二回起業資金借入金の利率は明治四十二年分より六分五厘二毛七に改定せらる（四十四年五月一日決定）。

二、貨幣整理資金借越は舊韓國政府に於て隨時借入したるものなれども、本表に於ては假に債務の帝國政府に歸屬したる年月日を借入日とし、同日に於ける現在高を掲げたり。

前記借入金の内貨幣整理資金に關する借入金合計七百三十八萬百九十六圓五十六錢は、明治四十四年三月法律第十一號の規定に依り、同年三月三十一日を以て貨幣整理資金特別會計の負擔に移屬せられ、當日同會計の資金を以て之が償還を了したり。蓋し右は將來同會計に於て施行すべき朝鮮地方流通貨幣の鑄造に依りて生ずべき益金を以て、漸次之を銷却すべき計畫に依るものなり。

第一回起業資金借入金の償還期限は明治四十九年（大正五年）三月なりしが、政府は期日に先ち大正三年五月二十七日に百五十萬圓、四年十一月二十九日に二百五十萬圓及五年二月二十九日に二百五十萬圓を償還皆濟したり。又第二回起業資金借入金の償還期限は明治六十六年（昭和八年）十一月三十日なるを以て、大正末年迄未だ償還せらるるに至らざりき。次に承繼以來昭和元年度末迄に支拂ひたる利子額を示せば左の如し（貨幣整理資金借入金及同借越は利子支拂に至らざりき）。

年度	第一回起業資金借入金	第二回起業資金借入金	計
明治四四	三二五、〇〇〇・〇〇〇円	八五二、六四二・〇九〇円	一、一七七、六四二・〇九〇円
大正元	三二五、〇〇〇・〇〇〇	八四六、一五五・〇四〇	一、一七一、一五五・〇四〇
二	三二五、〇〇〇・〇〇〇	八四六、一五五・〇四〇	一、一七一、一五五・〇四〇
三	二七六、二五〇・〇〇〇	八四六、一五五・〇四〇	一、一二二、四〇五・〇四〇
四	二四三、七五〇・〇〇〇	八五四、二五〇・二一〇	一、〇八九、九〇五・二一〇
五	—	八五一、八五九・一八〇	八五一、八五九・一八〇
六	—	八五一、八五九・一八〇	八五一、八五九・一八〇
七	—	八五一、八五九・一八〇	八五一、八五九・一八〇
八	—	八六二、〇五七・八四〇	八六二、〇五七・八四〇
九	—	八五五、三五九・四四〇	八五五、三五九・四四〇
一〇	—	八五五、三五九・四四〇	八五五、三五九・四四〇
一一	—	八五五、三五九・四四〇	八五五、三五九・四四〇
一二	—	八五五、三五九・四四〇	八五五、三五九・四四〇
一三	—	八五五、三五九・四四〇	八五五、三五九・四四〇
一四	—	八五五、三五九・四四〇	八五五、三五九・四四〇
昭和元	—	八五五、三五九・四四〇	八五五、三五九・四四〇
合計	一、四九五、〇〇〇・〇〇〇	一三、六五〇、五〇八・八八〇	一四、九四五、五〇八・八八〇

附錄地方債

第一節　起債の權限

第一款　緒言

地方債に關して政府が法令を以て一定の要件を定めたるは、明治九年布告第百三十號を以て嚆矢となす。之より先き各區町村等の地方團體に於て、其の經營上に必要なる經費を支辨する爲め起債を爲すもの少からざりしと雖も、之に關して未だ何等一定の制規を存することなく、各地方自ら其の取扱を異にし、殊に公私の區別すら判明せざるものも多かりき。茲に於て政府は明治九年十月布告第百三十號を以て、各區町村金穀公借規則を發布し、區の起債に在りては其の區正副區戸長竝に區内各町村の總代若干名の連印を要し、町村に在りては正副區戸長竝に町村内不動產所有者の若干名之に連印するを要することとし、若し正副區戸長の捺印のみを以てするときは之を區戸長の私借と看做すべきものとなしたり。然れども此の制限たるや單に公私債の區別を判然せしむる爲に、借用證書等の形式を定めたるものに過ぎずして、未だ起債其のものに對して中央政府が統制を施したるものに非ざりしなり。

明治十一年七月太政官無號達を以て大に地方制度を改革し、地方長官は地方の情況を參酌して區町村に區町村會を開き、區町村限りの公共事業に關する費用は、其の議決に依りて區町村長之を執行

するものとなせるを以て、區町村會を開設したる地方に在りては、起債に關しても亦其の會議に附すべきこととし、明治十二年六月布告第二十二號を發布したり。即ち左の如し。

布告第二十二號（明治十二年六月二十四日）

區會町村會ヲ開設セル地方ニ於テハ明治九年十月第百三十號布告金穀公借共有物取扱土木起功ノ事項ハ總テ該會議ニ付シ施行スヘシ此旨布告候事

其の條文極めて簡單なりと雖も、之れ地方債起債の爲には地方議會の議決を必要とするの原則を確立したるものにして、爾來地方制度の改革一再ならずと雖も、起債に關する此の原則は終始一貫して變化なきものとす。而も右の規定に於ても、尙中央政府が起債其のものに對して制限を加ふることなかりしが、其の後明治二十一年四月に至り法律第一號を以て市制及町村制公布せられ、市町村の自治制度確立するに及びて、市町村の公債に關しても茲に稍〻完備せる制度設けられ、中央政府に依る地方債の統制も始めて其の實現を見るに至れり。即ち之に依れば、市町村共に公債を募集するは舊債の元金償還・天災其の他必要已むを得ざる支出及市町村永久の利益となるべき支出を要する場合に限定せられ、又市町村會に於て公債募集の議決を爲すときは同時に募集の方法・利率及償還方法を定むべく、償還の初期は三年以内とし、毎年償還の步合を定め、募集より三十箇年以内に還了するを要し、一時借入金は其の年度内に償還するを要するものとし、更に又新なる負擔となるべき公債・舊公債額及償還に關する法定の制限を超ゆる公債にして、共に償還期限三年以上に亙るものは内務大藏兩大臣の許可を要するものとしたり。

次に府縣の起債に就ては明治二十三年以前に於ては何等之に關する規定の存するものなく、明治

十一年布告第十八號を以て發布せられし府縣會規則に於ても、特に明文を設くることなかりしと雖も、臨時緊急の必要ある場合には其の年度内の收入を豫期して一時之が借入を行ふに非ざれば、縣治上圓滑の活動を期すること能はざるを以て、便宜上右規則に依る臨時經費徴收の一方法として、臨時府縣會の決議を經て年度内の借入を爲したる例ありしが、尋いで明治十五年に至り布告第六十八號を以て府縣會規則を追加し、常置委員は地方税を以て支辨すべき事業にして臨時急施を要する場合には、其の經費の豫算及徴收方法を議決し、追て府縣會に報告することを得るものとしたる結果、特に臨時府縣會の開設を俟たず、常置委員の決議に依り一時借入を爲すことを得ることとなれり。然るに明治二十三年一月法律第三號を公布し、府縣に於て非常災害の爲め臨時の土木費を要し、一時地方税の負擔に堪へ難き場合に於ては、府縣會の議決に依り内務大藏兩大臣の認可を經て、十箇年以内の償還期限を以て借入金を爲すことを得べく、且つ其の借入金は府縣備荒儲蓄金より其の年度初現在高の三分の一迄を借入るることを得るものと爲すに及び、玆に始めて府縣の起債に關する法規を見るに至れり。尋いで同年五月法律第三十五號を以て府縣制公布せられ、自治體としての府縣の制度玆に確立するに及び、府縣の公債に關しても同法律中に於て、前揭市町村債と殆ど同一の規定を設けたり。而して之と同時に法律第三十六號を以て郡制を公布し、郡に對しても其の自治權を認むるに及びて、郡の公債に關しても同法律中に於て之と略〻同樣の規定を設けたり。尙ほ北海道は府縣が起債權を附與せられし後も久しく之を認められざりしが、明治三十四年三月に至り北海道地方費法及同地方費令制定せらるるに及び、北海道地方費豫算内の支出を爲すに付き必要なる場合は、當該年度内の收入を以て償還するの條件の下に一時借入金を爲すことを許され、尋いで明治四十年五月に至りて、始めて一般府縣と略〻同一の起債權能を附與せられたり。

一般市町村に對しては上述の如く、明治二十一年市制及町村制に於て起債の制度設けられたりと雖も、北海道及沖繩縣の如きは自ら他の府縣と其の狀況を異にせるを以て、未だ斯かる制度を存せざりしが、明治二十九年三月に至り勅令第十九號を以て沖繩縣區制を制定し、尋いで翌三十年五月勅令第百五十八號・同第百五十九號及同第百六十號を以て、夫々北海道區制・北海道一級町村制及北海道二級町村制を制定するに及び、沖繩縣の區・北海道の區及一二級町村に對して始めて區町村債起債の權能を與ふることと爲し、其の規定も大體に於て市制及町村制の規定に準じて之を定めたり。尙ほ沖繩縣に於ては大正十年五月に至り區を市と改稱すると共に、町村に町村制を施行し、又北海道に於ては翌十一年五月區を市と改稱したり。

右北海道の區町村及沖繩縣の區の外、尙ほ沖繩縣の村竝に東京府下・長崎縣下・鹿兒島縣下に於ける僻陬の島嶼に對しては、未だ町村制の施行を見ざりしが、明治四十年三月勅令第四十六號を以て沖繩縣及島嶼町村制を制定して、此等町村制未施行地の町村に對しても、内地の町村に準じて町村債起債の權能を附與するの規定を設け、以て此等の地方に順次本規定を適用することと爲し、翌四十一年四月一日より沖繩縣・東京府下大島・鹿兒島縣大島郡及長崎縣對馬國に施行せしを始めとして、同年十月一日以後東京府下八丈島に、大正十二年十月一日以後同府下利島外四島にも之を施行したり。

尙ほ上述の諸地方團體の外、此等に準じて財政上自治の權能を與へられたるものあり。卽ち府縣に於ける水利組合竝に北海道に於ける土功組合之にして、前者に對しては明治二十三年六月法律第四十六號水利組合條例、後者に對しては明治三十五年三月法律第十二號北海道土功組合法に於て、夫

夫組合債の起債に關する權能を附與せられたり。

以上述べたる各種地方團體の起債に關する諸規定は、其の制定後改廢を經たること一再に止まらざるも、起債に關する一般的原則は終始渝ることなくして今日に至れるものとす。今本編に於ては此等の一々に就き其の變遷を列擧するは徒に煩瑣に亙るを以て、以下此等の中最も主要なる道府縣債・郡債・市町村債竝に水利及土功組合債に就て、其の起債の權限及監督に關する制度を略說すべし。

第二款　道府縣債

府縣の起債に關する法律の規定は明治二十三年一月法律第三號を以て、非常災害の爲め臨時の土木費を必要とするに當り、一時地方稅の負擔に堪へ難き場合に限り、府縣會の議決を經、內務・大藏兩大臣の認可を得て、十箇年以內の償還期限を以て借入金を爲すことを得しめたるを以て嚆矢となす。而して右法律は同年五月法律第三十五號を以て府縣制の發布せらるるに及び一般には廢止せられ唯府縣制を施行せざる地方にのみ姑く存置せられたるも、明治二十九年三月法律第六十二號を以て新に府縣制を施行せざる府縣の起債に就て規定を設くるに及び前記法律を廢止し、尋いで同三十二年を以て府縣制を施行せざる地方絕無となるに及び、其の制度も亦自然に消滅したり。

明治二十三年制定の府縣制に於て起債のことを定めたるは第七十四條及第九十條にして、卽ち之に依れば府縣は(一)舊債元金償還(二)天災等に因る已むを得ざる支出(三)永久の利益となるべき支出を要するときに於て、通常の歲入を增加するときは府縣の負擔に堪へざる場合に限り起債を爲すことを得べく、又起債に關しては勅令の定むる所に依り府縣會の議決を要し、議決に當りては併せて起債の方法・利率及償還の方法をも定むべく、其の償還の初期は三年以內、還了期限は三十年以內とし、又新なる起債、其の增額及償還方法の變更に關する府縣會の議決は、內務・大藏兩大臣の認可を受くべきものとしたり。

明治三十二年三月法律第六十四號を以て府縣制の全文を改正し、始めて全國に其の實施を見るに至りしが、改正規定中公債に關する條項は第百十七條及第百三十四條にして、概ね舊法を踏襲したれども、舊法中の『通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ府縣ノ負擔ニ堪ヘサル場合』の制限を除き、又府縣債償還の初期及償還年限に關する規定を削除したるは其の異なる所なり。之れ卽ち現行制度にして、其の後大正三年四月法律第三十五號を以て第百三十四條を改正したるも、右は單に條文の整理を爲したるに止まりて、何等實質的の改正を施したるに非ざるなり。今現行規定を揭ぐれば左の如し。

府縣制（明治三十二年三月十六日法律第六十四條）（抄錄）

第百十七條　府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起スコトヲ得

府縣債ヲ起スニ付府縣會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

府縣ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス府縣參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第百三十四條　府縣債ヲ起シ又ハ起債ノ方法利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ若ハ變更セムトスルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ第百十七條第三項ノ借入金ハ此ノ

限ニ在ラス

又右改正府縣制第百三十六條に依れば、府縣の行政に關し主務大臣の許可を要すべき事項中、其の輕易なるものは勅令の規定に依り許可を經ずして處分することを得しめしを以て、之に基き明治三十二年六月勅令第三百十五號を以て斯かる事項を定めたるが、其の第七項を以て『府縣債ノ元本總額五萬圓以内』は主務大臣の許可を要せず『郡債ノ元本總額千圓以内』は府縣知事の許可のみを以て足ることとせり。後大正元年十一月勅令第四十九號を以て其の制限額を府縣債十萬圓以内、郡債二千圓以内に改め、尋いで大正三年六月勅令第百四十一號を以て府縣債二十萬圓、郡債一萬圓（但し元本總額十萬圓以上の府縣債及二千圓以上の郡債にして、其の償還期限三年を超ゆるものを除く）に改め、更に大正十三年九月に至り府縣債の元本總額五十萬圓未滿及借入の翌年度に償還する府縣債（借入金を以て償還するものは此の限に在らず）も亦、許可を受くることを要せざるものと定めしが（勅令第二百二十七號）、大正十五年六月府縣制施行令を發布するに及び、第四十六條第五項乃至第十項を以て府縣債に關する不要許可の標準を左の如く定めたり。

府縣制施行令（大正十五年六月二十四日勅令第二百號）（抄錄）

第四十六條　府縣行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ掲グルモノハ其ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

五　元本總額五十萬圓ニ達スル迄ノ府縣債ニ關スルコト

六　借入ノ翌年度ニ於テ償還スル府縣債ニ關スルコト但シ借入金ヲ以テ償還スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

七　府縣債ノ借入額ヲ減少シ利息ノ定率ヲ低減スルコト

八　府縣債ノ借入先ヲ變更シ又ハ債券發行ノ方法ニ依ル府縣債ヲ其ノ他ノ方法ニ依ル府縣債ニ變更スルコト

九　府縣債ノ償還年限ヲ短縮シ又ハ其ノ償還年限ヲ延長セズシテ低利借換ヲ爲シ若ハ繰上償還ヲ爲スコト但シ外資ニ依リタル府縣債ノ借入又ハ外資ヲ以テスル借換ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

十　府縣債ノ償還年限ヲ延長セズシテ不均等償還ヲ元利均等償還ニ變更シ又ハ年度内ノ償還期若ハ償還期數ヲ變更スルコト

次に北海道の起債に關しては、初め明治三十四年三月勅令第十八號北海道地方費令第十三條を以て『北海道廳長官ハ北海道地方費豫算内ノ支出ヲ爲スニ付必要アル場合ハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得』と爲し、其の借入金は其の年度内の收入を以て之を償還すべきものと爲したるが、其の後同四十年五月勅令第百九十三號を以て本條を改正し、一般府縣と略〻相同じき（天災事變等の場合の起債を除外せり）起債權能を附與したり。斯くの如く北海道の起債は當初北海道地方費令に依り來りしが、大正十一年五月北海道地方費法（明治三十四年三月法律第三號）を改正するに及び、同法第八條ノ三を以て北海道地方債の起債は府縣制の規定（第百十七條、第百三十四條）を準用することと定め、之と同時に前記北海道地方費令は之を廢止したり（大正十一年五月勅令第二百五十六號）。斯くして北海道の起債は全然府縣と同一となれり。

第三款　郡債

明治二十三年五月府縣制の發布と同時に、法律第三十六號を以て郡制の公布あり、茲に郡の自治權確立せられたるが、其の第六十四條及第八十一條を以て郡の起債に關する規定設けられたり。即ち郡は天災等の爲め已むを得ざる支出及永久の利益となるべき支出を要する場合に於て、通常の歳入を增加するときは郡內町村の負擔に堪へざる場合に限り公債を起すを得べく、其の起債に當りては勅令の定むる所に依りて郡會の議決を要する點を始めとして、概ね府縣債の場合に準ずるものと爲したり。

郡制も亦府縣制と同じく明治三十二年三月に至り改正せられたるが、其の起債に關しては從前の場合の外新に舊債償還の場合を追加し、且つ『通常ノ歳入ヲ增加スルトキハ郡內町村ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限ル』の制限を除きたるを以て、其の規定は全然府縣債の場合と同一となれり。今改正郡制中起債に關する條項を掲ぐれば左の如し。

郡制（明治三十二年三月十六日法律第六十五號）（抄錄）

第九十五條　郡ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ郡會ノ議決ヲ經テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スニ付郡會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

郡ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス郡參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第百十五條　郡債ヲ起シ竝起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若ハ之ヲ變更スルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス但シ第九十五條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

郡制中起債に關する規定は右の改正以來何等の改正を見ずして大正の中期に至りしが、大正十年四月法律第六十三號を以て郡制廢止の發布あり、尋いで同十二年四月一日を以て其の實施を見るに及びて茲に郡債は消滅することとなり、從前の郡債は大正十年四月法律第六十三號の規定に依り、關係府縣會・郡會・郡組合會・町村會・市町村組合會及町村組合會等の意見を徵して、主務大臣之が歸屬を定めたり。尙ほ郡債に於ける府縣知事の委任許可の範圍に就きては、府縣債の部に於て之を述べたるを以て茲には之を省略す。

第四款　市町村債

明治二十一年四月法律第一號を以て市制及町村制公布せられ、市及町村の自治制度の確立を見るに及び、市町村の起債に關しても新に完備せる成規を設けらるるに至れり。即ち市制第百六條及町村制第百六條に於て起債の目的・市町村會に於ける議決の方法を定めて、市町村共に公債を起すは舊債の元額償還・天災其の他必要已むを得ざる支出及市町村永久の利益となるべき支出を要する場合に限定し、且つ市町村會に於て公債募集の議決を爲すときは同時に募集の方法・利率及償還方法を定むべく、償還の初期は三年以內とし、毎年償還の步合を定め、募集より三十箇年以內に還了するを要す

るものとし、又一時借入金は右の例に拘らず其の年度内に償還するを要し、此の場合市に在りては市會の議決を要せず、市參事會の意見を以て募集するを得るものとせり。次に又市制第百二十二條及町村制第百二十六條に於て地方債監督に關する件を規定し、新なる負擔となるべき公債・舊公債額及償還に關する法定の制限を超ゆる公債にして、共に償還期限三年以上に亙るものは、內務大臣及大藏大臣の許可を要するものとしたり。

市制及町村制は明治四十四年四月に至り共に全部改正せられたるが、其の起債に關する條項は、舊規定に存したる償還期限に關する制限を除きたる外は大體に於て舊法を踏襲し、爾後何等の改正を見ずして大正末年に至れり。今現行市制・町村制中起債に關する條項を抄錄すれば左の如し。

市制（明治四十四年四月七日法律第六十八號）（抄錄）

第百三十二條　市ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、市ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ市債ヲ起スコトヲ得

市債ヲ起スニ付市會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

市長ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲市參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第百六十六條　左ニ掲クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一　市債ヲ起シ竝起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ第百三十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

町村制（明治四十四年四月七日法律第六十九號）（抄錄）

第百十二條　町村ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、町村ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ町村債ヲ起スコトヲ得

町村債ヲ起スニ付町村會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

町村ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第百四十六條　左ニ掲クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一　町村債ヲ起シ竝起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ第百十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

斯くの如く市町村の起債に關しては原則として內務大臣及大藏大臣の許可を要するものなるが元來市町村は第一次に府縣知事（郡制施行中は町村は第一次に郡長）の監督を受け、第二次に內務大臣の監督を受くるものなるを以て（市制第百五十七條、町村制第百三十七條）、手續の繁雜を防ぐ爲め監督官廳の許可を要する事項中、一定の事項に就ては其の職權を下級官廳に委任し、又は輕易なる事項に就ては許可を受けしめざることを得るものとし、勅令を以て斯かる事項を定むることとせり（市制第百六十九條、町村制第百四十八條）。仍て此の規定に基き大正元年八月勅令第十八號を以て斯かる事項を列擧したりしが今其の內起債事項に關するものを掲ぐれば左の如し（之より先き明治三十三年勅令第百二十三號を以て市町村行政に關する監督官廳の職權委任事項を定めしことあるも、右勅令中には起債に關する事項は之を存せざりしなり）。

勅令第十八號（大正元年八月三十日）（抄錄）

第一條　市町村行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ揭クルモノハ府縣知事之ヲ許可スヘシ

五　教育費ニ充ツル爲府縣郡ノ基金又ハ教育基金ヨリ借入ルル市町村債ニ關スルコト

六　小學校ノ建築增築改築ニ關スル費用、傳染病豫防費又ハ急施ヲ要スル災害復舊工事費ニ充ツル爲借入ルル償還期限三年以內ノ市町村債ニ關スル事

七　借入ノ翌年度ニ於テ償還スル市町村債ニ關スル事但シ借入金ヲ以テ償還スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　市町村行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スル事項中左ニ揭クルモノハ其ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

一　市町村債ノ借入額ヲ減少シ利息ノ定率ヲ低減シ又ハ之カ爲償還年限ヲ短縮スル事

二　許可ヲ受ケタル市町村債ニ關スル條例又ハ議決ノ定ムル所ニ基キ旣定ノ償還年限ヲ延長セスシテ低利借替ヲ爲シ又ハ繰上ケ償還ヲ爲ス事但シ外資ニ依リタル市町村債ノ借替又ハ外資ヲ以テスル借替ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

之と同時に內務・大藏・文部三次官より地方長官へ左の如く通牒したり（省略の分は起債事項の範圍外のものなり）。

内務・大藏・文部三次官ヨリ地方長官ヘ通牒（大正元年八月三十一日內務省地第九二六九號）

今般勅令第十八號ヲ以テ、市町村行政ニ關スル主務大臣許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任ノ件公布相成候ニ付テハ、左ノ各項ニ依リ御處理相成度、依命此段及通牒候也。

一　一ノ條例又ハ議決ニ府縣知事ニ委任ノ事項ト委任外ノ事項、卽チ主務大臣ノ許可ヲ受クベキ事項トヲ併セテ定ムル場合ニハ、其ノ條例又ハ議決ハ主務大臣ノ許可ヲ受クベキ儀ト御承知相成度。

一　從前委任相成居候事項ニ付テハ從前通牒ノ通處理相成度。

一　市町村債ノ許可權委任ニ關シテハ本日訓令ノ次第有之候處、仍左ノ事項御承知相成度。

一　起債ニ關スル議決又ハ條例ニハ起債ノ目的、起債額、利率、借入ノ時期、据置期間、償還財源ヲ記載セシムルノ外、市町村財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ、償還年限ヲ短縮シ、又ハ低利ニ借替ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ定メシメ、且償還年次表ヲ添付セシムルコト

一　起債額ニ百圓未滿ノ端數ヲ付セシメザルコト

一　借入年度ノ歲入ヲ以テ償還スル分ヲ起債額ニ加フベカラザルコト

一　借入ノ年度ニ於テ償還スベキモノ及舊債利子ノ支拂額ヲ借替額ニ加フベカラザルコト

一　（省略）

一　（省略）

前記勅令第十八號は大正十年九月に至り其の全文の改正を見たるが（勅令第四百十二號）其の起債に關する條項中改正せられたる點は、府縣知事の許可を要する事項に就ては、前揭「五」の規定より『敎育費ニ充ツル爲』の制限を削除したること、及び「六」の規定中『償還期限三年以內』の制限を削除し、別に『小學

校舍ノ爲ニスル市町村債ニシテ償還期限十年度ヲ超ユルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス』と規定したることと之にして、又許可を要せざる事項に就ては新に『市町村債ノ借入先ヲ變更シ又ハ債券發行ノ方法ニ依ル市町村債ヲ其ノ他ノ方法ニ依ル市町村債ニ變更スル事』の一項を加へたること之なり。尋いで大正十三年三月勅令第五十二號を以て第一條第九號を『府縣ノ基金又ハ教育資金ヨリ借入ルル市町村債及市町村ニ轉貸ノ爲主務大臣ノ許可ヲ得テ借入レタル府縣債ノ收入金ヨリ借入ルル當該市町村債ニ關スル事』と改めたるが、其の後大正十五年六月新に市制町村制施行令を制定するに及び同令第七章市町村の監督の部に於て委任許可及不要許可の條項を規定する所あり、玆に於て前記大正十年九月勅令第四百十二號は廢止せられたり。而して右施行令中起債に關する條項は、一二新しき箇條を加へたるものなきに非ずと雖も、其の大綱に於ては何等の變更あるものに非ざるなり。今右施行令中市町村の起債に關する條項を抄錄すれば左の如し。

市制町村制施行令（大正十五年六月二十四日勅令第二百一號）（抄錄）

第五十九條　市町村行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ揭グルモノハ府縣知事之ヲ許可スベシ

六　府縣ノ基金又ハ教育資金ヨリ借入ルル市町村債及市町村ニ轉貸ノ爲主務大臣ノ許可ヲ得テ借入レタル府縣債ノ收入金ヨリ借入ルル當該市町村債ニ關スルコト

七　小學校舍ノ建築、增築、改築等ニ關スル費用、傳染病豫防費、急施ヲ要スル災害復舊工事費ニ充ツル爲借入ルル市町村債ニ關スルコト但シ小學校舍ノ爲ニスル市町村債ニシテ償還期限十年度ヲ超ユルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六十條　市町村行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スル事項中左ニ揭グルモノハ其ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

九　市町村債ノ借入額ヲ減少シ利息ノ定率ヲ低減スルコト

十　市町村債ノ借入先ヲ變更シ又ハ債券發行ノ方法ニ依ル市町村債ヲ其ノ他ノ方法ニ依ル市町村債ニ變更スルコト

十一　市町村債ノ償還年限ヲ短縮シ又ハ其ノ償還年限ヲ延長セズシテ低利借替ヲ爲シ若ハ繰上償還ヲ爲スコト但シ外資ニ依リタル市町村債ノ借替又ハ外資ヲ以テスル借替ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

十二　市町村債ノ償還年限ヲ延長セズシテ不均等償還ヲ元利均等償還ニ變更シ又ハ年度內ノ償還期若ハ償還期數ヲ變更スルコト

第五款　水利及土功組合債

水利組合は水利上其の利害關係の區域が市町村の區域と合致せざる場合、又は合致するも二市町村以上に亙り、且つ特別の事情に依り市町村若くは町村組合の事業と爲すことを得ざる場合に於て組織せらるるものにして、地方團體に準じて財政上自治の權能を與へらるるものなり。水利組合に關しては、明治二十三年六月法律第四十六號水利組合條例に於て始めて之が規定設けられしが、其の起債に關しては同條例第四十一條及第五十條を以て之を規定し、水利組合は天災事變の爲め已むを得ざる支出、若くは組合の永久の利益となるべき事業にして、通常の歲入を增加するときは其の組合

員の負擔に堪へざる場合に限り、起債を爲すを得るものとし、組合會に於て起債のことを議決したるときは、内務・大藏兩大臣の認可を受くべきものとしたり。

水利組合條例は其の後明治四十一年四月新に水利組合法の發布により廢止せられたるが、其の起債に關しては大體舊規定を踏襲して左の如く定めたり。

水利組合法（明治四十一年四月十三日法律第五十號）（抄錄）

第六十二條　組合ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ組合永久ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲已ムヲ得サル場合ニ限リ組合債ヲ起スコトヲ得

組合債ヲ起スニ付組合會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

組合ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第七十七條　組合ニ於テ負債ヲ起シ竝起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ變更セムトスルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ第六十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

水利組合の事務に關しても、監督官廳の許可を受くべき事項中其の輕易なるものは、命令の規定に依り其の許可の職權を下級官廳に委任するを得るものにして（水利組合法第八十條）、之に基きて政府は大正元年十一月勅令第五十號を發布したるが、其の中起債に關する規定は左の如し。

勅令第五十號（大正元年十一月二十七日）（抄錄）

第一條　水利組合ノ事務ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スル事項中左ニ掲クルモノハ府縣知事之ヲ許可スヘシ

二　借入ノ翌年度ニ於テ償還スル負債ニ關スル事但シ借入金ヲ以テ償還スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三　急施ヲ要スル災害復舊工事費ニ充ツル爲借入ルル償還期限三年以内ノ負債ニ關スル事

（大正九年四月七日勅令第百九號追加）

四　府縣郡ノ基金ヨリ借入ルル負債ニ關スル事（同上）

之と同時に地方・國債兩局長より府縣知事へ左の如く通牒を發したり。

（地方・國債兩局長ヨリ府縣知事（沖繩縣ヲ除ク）ヘ）通　牒（大正元年十一月二十七日內務省地第一六一〇號）（抄錄）

今般勅令第五十號ヲ以テ水利組合事務ニ關スル許可ノ職權委任ノ件公布相成候ニ付テハ左ノ各項ニ依リ御處理相成度、依命此段及通牒候也。

一　委任事項ノ處理方ニ關シテハ從前許可セラレタル例ニ照シ遺憾ナキ樣御取扱相成度。

一　負債ノ償還ニ付テハ天災、地變等已ムヲ得ザル事由アルモノノ外、既定ノ財政計畫ヲ變更シ、償還年限ヲ延長スルガ如キハ許可セラレザルニ付、起債ニ關スル事件ヲ處理スルニ當リテハ事業ノ緩急、計畫ノ適否、償還方法ノ確否、團體・財務ノ状況、納稅ノ成績等愼重ニ審査ヲ遂ゲ、其適當ト認ムルモノニ限リ許可スルコトニ致サレ度。

一　起債ニ關スル議決ニハ起債ノ目的、起債額、利率、借入ノ年度、償還期限、償還財源ヲ記載セシメラレ度、又起債額ハ百圓未滿ノ端數ヲ付セズ、借入年度ノ歳入ヲ以テ償還スル分ハ起債額

ニ加ヘザル様爲サシメラレ度。

一　勅令第五十號第一條第二號ニ依リ貴官ニ於テ許可ノ公債ニ付テハ明治四十四年内務省訓第一七六號訓令第一項及第三項ノ報告ヲ要セズ、同訓令第二項ノ不要許可債報告ニ許可委任ノ分掲記方ハ市町村債ノ例ニ依ル儀ト御承知相成度。

府縣の水利組合に該當するものに北海道土功組合あり。北海道土功組合は明治三十五年三月法律第十二號北海道土功組合法に依りて設立せらるるものにして、區(市)町村又は區(市)町村組合の事業と爲すを得ざる特別の事情ある場合、農業上必要なる道路・橋梁・用水・排水又は堤塘等を施設維持する爲設置するものとす（同法第一條）。而して同組合も亦總會の議決を經、且つ北海道廳長官の認可を得て起債することを得るものなるも（豫算内の收入を以て償還すべき一時の借入金は總會の議決のみを以て足る、同法施行令第十八條）、起債に方りて別に内務・大藏兩大臣の認可を必要とせざるは、水利組合と異なる所なり。

第二節　起債の稟請

郡・市町村其の他水利組合等が、前節に述べたるが如き手續を經て監督官廳に起債の稟請を爲し來るときは、政府は先づ第一次監督官廳たる府縣知事をして、起債の目的・理由・債額・償還其の他必要なる事項を審査せしめ、詳細の意見を具陳して内務・大藏兩大臣に稟申して其の許否を仰がしむるものとす。而して之が爲めには一定の樣式・標準の下に公債竝利子の償還財源・償還年次表・當該年度歲入出豫算表等を稟請書に添付せしむることとし、明治二十六年十一月先づ市町村債・水利組合債に關して左の如く府縣知事へ通牒したり。

（内務・大藏兩大臣ヨリ府縣知事ヘ）訓　令（明治二十六年十一月十八日訓令第六九二號）

市町村制第百六條及水利組合條例第四十一條ニ依リ募集スル公債ハ、法文ノ示ス如ク市町村又ハ水利組合ノ財政上特ニ必要アル場合ニ限リ、其他ハ務メテ之ヲ避クベキハ勿論ノ處、往々必要ナラザル負債ヲ起サントスルモノ有之、將來市町村ノ財政上不都合ヲ生ズルノ恐ナキ能ハズ。依テ自今公債募集ノ議決ヲ爲シ許可稟請スルニ當リテハ、募集及償還ノ方法等ニ就キ精覈調査ヲ遂ゲ、其事業ノ緩急負擔ノ堪否ニ付テハ詳細意見ヲ具陳シ、尚ホ調査ノ參照トシテ募集ノ方法・利息ノ定率及償還ノ方法ニ關スル議決書ハ、勿論、左ノ事項ヲモ無洩記載シ進達スベキ儀ト心得ラルベシ。

一　公債竝利子償還ノ財源

但シ將來收入ヲ生ズベキ事業ノ爲公債ヲ起シ、其ノ收入ヲ以テ償還ニ充テントスルトキハ償還期限ノ終リマデ毎年收入ノ年次見込書ヲ添付スベキハ勿論ナリトス。

一　公債元利償還ノ年次表（第一表）

一　當該年歲入出豫算表

一　當該年度諸稅負擔一覽表（第二表）

一　基本財産ノ有無竝ニ其額

（表雛型省略）

其の後府縣及郡債に就きても市町村債等に於けると同じく、起債稟請書に添付すべき書類に一定の準則を設くるの便利なるを認め、明治三十一年三月各府縣へ左の如く通牒したり。

内務・大藏兩大臣ヨリ各府縣ヘ訓示（明治三十一年三月十六日訓第五九三號）

府縣ニ於テ起債ヲナサンコトヲ議決シ許可稟請ヲナスニ當テハ、起債及償還ノ方法ハ勿論償還ノ財源及其負擔ノ堪否等精覈調査ヲ遂ゲ、起債ノ方法・利息ノ定率償還ノ方法ニ關スル議決書及參照トシテ別紙ノ事項ヲ無洩記載シ、稟申スベキ儀ト心得ベシ。

但郡債ノ場合ニ於テハ明治二十六年十一月十八日訓令ニ準ジ取扱フベシ。

右訓示ス。

一 償還ノ財源及之ガ賦課若クハ收入ノ方法

但本項ノ收入ニツキテハ償還期限ノ終マデ毎年收入ノ年次見込書ヲ添付スベシ。

一 償還年次表（第一表）

一 當該年度諸稅負擔一覽表（第二表）

一 府縣有若クハ郡有財產ノ有無竝其額

（表樣型省略）

郡市町村其の他公共團體に於て起債金を以て事業を經營するに當り、其の事業著手後工事の央に於て或は資金の缺乏を告げ、或は附帶工事の追加を要し、或は豫定以外の擴張を要する等種々の事情を生じ、之が資金補充の方法として、更に起債に次ぐに起債を以てせんとするもの往々にしてなきにあらず。此等の内には天災地變等に原由し事情眞に已むを得ざるものあれども、其の多くは當初の設計を忽諸に附して輕々に之を變更するに出づるものなり。茲に於て政府は此等の弊を防がんが爲め明治三十七年九月二十八日内務次官より道廳長官及府縣知事へ通牒を發し、自今公共團體に於て起債を爲さんとする場合は、内務大藏兩大臣の許可を要するものたると否とを問はず、府縣をして必要に應じて豫め技師其の他相當吏員を派遣して實地の調査を爲さしめ、其の起債の許可を要するものに對しては其の調査の狀況及事業の確否等を詳細副申せしむることとし、尙ほ起債額一萬圓以上のものに對しては、許可稟請の際工事設計書を添付せしむることとしたり（内務省地甲第一六九號通牒）。後明治四十三年七月二十三日に至り更に内務省通牒を以て、小學校令施行規則第七十六條に依り校舍の新築・增築又は改築に關し府縣知事の認可を得たるものに關しては、工事費の多寡に拘らず起債の許可稟請書中に認可の年月日を明記せしむるに止めて、自今別に工事設計書の添付を必要とせざることとし（内務省地第五九一七號通牒）、更に又大正元年十一月十六日に至り、土木工事に關しても亦工事の設計は專ら地方長官の審査に俟つこととして、事業計畫の大要及工事費其の他收支計算の說明書竝に工事施設の位置を明示する平面圖を添付せしむるの外、均しく工事設計書の添付を省略せしめたり（内務省地第八三七號通牒）。尙ほ以上の外明治四十三年十一月二十八日内務省地第六〇九三號を以て、地益を增加すべき事業の爲め起債せんとするときは、事業施行前の地益調と事業成功後の地益調とを同じく起債稟請書に添付すべき旨を定め、又大正十三年三月二十七日内務省地第一五號を以て市町村に轉貸するの目的を以て起債する府縣（北海道地方費）債の稟請に當りては、從前規定の書類の外に轉貸を受くべき市町村別に其の事業の概要・事業費内譯及其の支辨財源市町村別の轉貸金額及其の償還方法に關する書類をも併せて提出せしむることとしたり。

第三節 起債許可の方針

地方債は第一節に敍述したるが如く、舊債の償還・地方公共團體の永久の利益となるべき支出及天災事變等の爲め必要ある場合に限り、地方議會或は組合會の議決を經て起すことを得るものなり。然れども之れ未だ單に起債の權能を認められたるに止まり、現實の起債行爲は原則として先づ第一次監督官廳たる府縣知事（府縣債を除く）の精査副申を經、第二次監督官廳たる內務大臣及大藏大臣（敎育費に關するものは外に文部大臣）の許可を經たる後、始めて著手するを得るものとす。而して其の起債の要件を悉く備へ正規の手續を總て履行したる稟請と雖も、必ずしも其の全部が中央政府の許可を得るものに非ざることは言を俟たざる所にして、之れ中央政府に於て別に一定の財政方針ある以上已むを得ざる所なり。固より地方公共團體の起債稟請は、其の地方としては不可避の事情に由るものなるべしと雖も、徒に之を放任し漫然之を許可するに於ては、或は緩急を問はず或は輕重を論ぜずして濫りに事業を計畫し、其の資金は之を公債或は借入金に仰ぐもの續出するに至るべく、斯くては地方債の累增となり、一方に地方負擔の加重を見るのみならず、他方には雜然たる地方債證券の市場に横溢する所となりて、一國經濟上より見るも憂ふべき事態を招來するの虞あり。從て中央政府の許否の方針は、時に寬嚴の差なきに非ずと雖も、原則としては能ふ限り起債を抑制するに在るは論を俟たざる所にして、殊に一國の財政經濟上整理緊縮の國策を採る時機に在りては、其の方針は特に嚴守せらるべく、苟も中央地方の財政方針に背反するが如きことなきを期せざるべからざるなり。政府は此の爲め年々の地方長官會議に際しては、地方債の許可方針或は整理方針に就きて訓示を與ふるを恒例とし、此の外に在りても隨時地方長官に令達して其の方針を指示し來れり。今其の代表的なるものとして明治三十五年五月の地方長官會議に於ける訓示、及大正二年七月竝に大正十三年十二月夫々地方長官に令達したる通牒を掲出すれば左の如し（尙ほ地方外債の許可方針に就きては次節參照）。

『明治三十五年五月二日大藏大臣演述要領（於地方長官會議）

（前略）地方債に就ては昨夏既に諸君に說示したる如く、本大臣は大に其緊縮を促すの必要を認め、學校の設備を遂ぐるが爲に分に過ぎざる金額を敎育資金より借入るるもの、天災地變の爲に避くべからざる費用を借入るるもの等の外容易に之を認可せざるの方針を採りたり。例へば或地方の一村に於て入會慣行の爲に數百年來荒蕪に附して顧みざりし原野百有餘町歩に造林事業を起すが爲に起債せんとするもの、又某縣の水利組合に於て個人の用水を占有するより生ずる不便を拯はんが爲に其買收の費を得んとするもの等は、其民利と關係すること頗る深く且將來の利益確實なるを以て特に之を認可したりと雖も、其他或は道路を開き用水路を開通せんとするもの、或は新に實業學校を設立せんとするもの、或は物產陳列場を設けんとするもの等は其の事の美なるに拘はらず、目下の經濟事情に於て是が爲に負債を起し、負擔を後世に殘すの得策ならざるを認めて悉く之を拒否せり。此方針に依り審議を遂げ昨年中認可したる地方起債額は參百八拾萬圓にして、之を前年の起債認可額七百八拾五萬圓に比すれば半額にだも達せず然るに尙ほ昨年末地方債總額は四千七拾萬圓に上り、之を前年末の地方債總額三千五百七拾萬圓に比して四百九拾萬圓の增加を見る。蓋し昨年以前に於て認可を得たる起債を昨年に至りて實行したるものある等の事情なきに非るも、其主たる原因は舊債償還の甚だ遲々たると、殊に認可を要せざる起債の增加したるとにありとす。自今尙ほ一層地方財政の運用を愼み、其の監督を嚴にし、認可を要せざる地方債就中市町村三箇年以內債の如きは、特に一層の注意を加へて

其整理を圖られんことを希望す。』

内務・大藏・文部三次官ヨリ道廳長官・府縣知事ヘ通牒（大正二年七月二十四日内務省地第四六二二號）

地方公共團體ノ起債ニ關シテハ從來訓令通牒ニ及ビタルコト一再ニ止マラズ、隨テ其趣旨ノ存スル所ハ十分御了知ノ上、財政上遺憾ナキヲ期セラレ居候儀トハ存候ヘ共、比年地方費ノ膨脹ニ伴フテ地方債モ亦著シク增嵩ヲ來シ、最近ノ調査ニ依レバ其總額實ニ三億圓ノ多キヲ算セリ。尤モ起債ノ中ニハ其事業ノ收益ヲ以テ償還財源ニ充テントスルモノナキニ非ザルモ、其多クハ負擔ニ待ツノ狀況ニ有之、畢竟時運ノ進轉ニ伴ヒ必要ノ經營上已ムヲ得ザルニ出デタルモノナルベシト雖、一面地方財政ノ緊縮ヲ圖リ以テ民力ノ涵養ヲ必要トスル今日、起債額ノ年々多キヲ加ヘ之ガ爲メ將來負擔ノ增嵩ヲ來スガ如キハ財政上大ニ考慮ヲ要スベキヲ以テ、今後一層地方ノ實情ニ鑑ミ以テ之ガ節制ニ勉ムベキハ殊ニ最モ必要ノ事ト被存候。就テハ自今公共團體ニ於テ災害復舊費・傳染病豫防費・水利ニ關スル諸費竝大正二年度以前ニ着手シタル繼續事業費、其他特ニ必要已ムヲ得ザル事業費等ノ爲メ起債ヲ爲スニ當リテモ、能ク緩急ヲ稽査シ且出來得ル限リ經費ヲ節約シ、以テ起債額ヲ減ズルニ勉ムベキハ勿論、其事業ノ施設ガ團體ノ實況ニ照ラシテ極メテ緊要ニシテ他ニ適當ノ財源ナク、且經費ニ於テモ節約ノ餘地ヲ存セザル等ノ事情アル場合ノ外ハ詮議不相成候條、右ノ趣旨十分徹底候樣致度、尙貴官ニ於テ處分セラルベキ事件ニ付テモ該趣旨ニ依リ御處理相成度、本省ニ進達セラルベキモノニ付テハ豫テ及通牒候事項ハ勿論、此通牒ノ趣旨ニ適合スルヤ否ヤ篤ト審査ノ上御意見副申相成度。

地方・理財兩局長ヨリ地方長官ヘ通牒（大正十三年十二月十八日内務省發地第七四號）

地方債許可ノ方針ニ就テハ從來屢次訓令通牒ノ次第モ有之候處、地方財政ノ整理緊縮ニ關スル方針及現下經濟界ノ狀況ニ鑑ミ、將來左記ノ範圍ニ屬スル起債ニシテ急施ヲ要シ、償還計畫確實ニシテ且住民ノ負擔過重ニ亙ラザルハ勿論、眞ニ必要ノ程度ヲ超エザルモノニ限リ、之ヲ許可スルコトニ省議決定相成候ニ付、起債ノ稟請ニ關シテハ此ノ方針ニ基キ御措置可相成、尙貴官ニ許可權ヲ委任セラレタル起債及許可ヲ受クルコトヲ要セザル起債ニ關シテモ、此ノ趣旨ニ準ジ措置セラレ度。

追テ既ニ起債ノ許可ヲ得タル繼續事業ト雖モ、左記ノ範圍内ニ屬セザルモノハ出來得ル限リ繰延ヲ實行スル樣措置セラレ度。

記

一、災害豫防及復舊事業
二、開墾・灌漑・用水及排水ニ關スル事業
三、上水道及下水道ニ關スル工事
四、小學校校舍ノ新築・改築又ハ增築
五、國ノ事業ニ伴フ負擔金納付
六、大藏省預金部又ハ遞信省簡易生命保險局ヨリノ借入金ヲ以テスル社會政策的事業
七、震災ニ基因スル國庫ヨリノ借入

八、舊債ノ借換
九、前各號ニ該當セザルモノト雖モ眞ニ緊急止ムヲ得ザル特殊ノ場合ニ於ケル事業

第四節　地方外債の許可

地方公共團體が外國債を起したるは、明治三十二年七月の神戸市水道公債を以て嚆矢とす。但し右神戸市債は當初額面百萬圓を發行價格九十二圓にて、横濱なる米國貿易會社代表モールスに賣渡すの契約を爲せし處、同月十五日市は先づ半額分四十六萬圓を領收したる後、市とモールスとの間に紛議を生じ、其の和解の結果額面五十萬圓を折半して其の一半を市にて買戻し、殘半額二十五萬圓をば英貨支拂の市債（二萬五千六百磅）に引直したるものにして、必ずしも純然たる外國債と稱するを得ざるものなり。而して其の海外に於て始めて公募の方法を用ひて外債を發行したるは横濱市にして同市は明治三十五年六月水道事業費調達の爲め在横濱サミュール・サミュール商會の引受に依り、英貨九萬二千百八十磅（邦貨換算額九十萬圓）を英京倫敦に於て賣出又は募集せしめたるが、尋いで同年十月には大阪市も亦築港公債三十一萬六千磅（邦貨換算額三百八萬五千圓）を同商會をして同じく倫敦に於て賣出さしめたり。其の後日露戰役を經て我國際的地位高まり、其の對外信用增大したるに伴ひ、民間事業會社竝に地方公共團體中競うて外資を輸入せんとするの風潮を生じ、明治三十九年以降四十二年に至る間に於て東京・横濱・大阪・京都・名古屋等の大都市の外債發行を見るに至れり。

政府の地方外債に對する許可竝に監督の方針は内國債に比して更に嚴重にして、殊に資力信用薄弱なる群小地方團體の外國起債は、初より之を許可せざるの主義を採り、夙に明治三十五年七月卽ち横濱市水道公債の發行直後府縣に令達して自今起債に關して外國人と交涉を爲さんとするときは其の交涉に關する事項を詳細取調べたる上、豫め内務・大藏兩省へ内議せしむることとし、尋いで同年八月八日大藏省國庫課長の發議を容れて、其の調査事項を左の如く決定したり。而して斯の如く外債の許可及監督を嚴格にすることは、爾後と雖も終始一貫したる政府の方針にして、夫の府縣制施行令（大正十五年六月勅令第二百號）及市町村制施行令（大正元年八月勅令第十八號及大正十五年六月勅令第二百一號）等に於て、不要許可の條件としたる、償還年限の短縮・低利借換・繰上償還等も、外債に關しては尙政府の許可を要するものとしたるが如きも、此の方針の一顯現に外ならざるなり。

内務省祕甲第一四六號（明治三十五年七月四日）

輓近各地方公共團體ノ起債ニ關シ、外國人ヨリ借入ニ付契約上種々ノ條件ヲ以テ區々ノ交涉ヲ爲スモノアルニヨリ、其結果ハ忽チ外國市場ニ顯出シ、從テ外國ニ對スル我國經濟ノ信用上ニ影響ヲ及ボスコト尠カラズ。依テ自今右起債ニ關シ外國人ト交涉ヲ爲サントスルトキハ、其交涉ニ關スル事項ヲ詳細取調ノ上、豫メ内務大藏兩省ヘ御内議ノ御取扱相成度、依命此段及通牒候也。

（大藏省國庫課長發議明治三十五年八月八日決議）

地方公共團體外國ヘ公債賣出ニ關スル調査事項左ノ通リ豫メ御内定置相成度、尤モ爾餘ノ事項ト雖モ其ノ重大ニ涉ルモノハ其都度審議ヲ遂ゲ、經伺候コトニ取計致度、此段相伺候也。

調査事項

一　公債發行ノ場所ハ内國ニ限リ、其自ラ取扱フト他ニ委託スルトヲ問ハズ外國ニ於テ發行セシメザルコト

二　公債元利ヲ外國通貨ニ換算シ仕拂フノ條件ヲ付セントスルトキハ豫メ一定不動ノ換算率ヲ設ケズ、其仕拂期ニ於ケル換算相場ニ依ラシムルコト

三　公債元利ノ仕拂ヒ方ヲ外國人又ハ外國法人ニ委託セシメザルコト

前述の如く日露戰役後一般に外資輸入熱勃興し、地方都市も亦競うて外資に依る各種の事業を計畫したりしが、政府當局は此等個々小額の借入が國の信用を傷け、他方事業濫興の弊を釀すの虞あるに徴し、屢〻府縣に令して之が取締を爲さしめ、又海外駐在大公使等へも政府の方針を傳へて之が監視を怠らざらしめたり。而して其の已むを得ず起債を許可するに方りては、之を大都市に局限するの方針を採り、大都市以外の地方團體にして尚外資を以て舊債を整理せんと欲するものに對しては、日本興業銀行をして別に外債を募集せしめ、其の收入金を以て地方債の引受に充當せしむることとしたり（第六節參照）。今政府の方針を示す二三の通牒を掲ぐれば左の如し。

外資借入ニ關シ内議ノ件

（内務省地方局長ヨリ道廳長官府縣知事ヘ）通　牒（明治三十九年一月九日内務省三八祕乙第三一〇號ノ内）

地方公共團體ニ於テ外國人ヨリ借入金ヲ爲スノ件ニ付テハ、曩ニ三十五年七月祕甲第一四六號ヲ以テ理財局長ト連署通牒ノ次第モ有之、充分御留意ノ事トハ存候得共、近來外資輸入ノ便開ケシニ乘ジ、地方團體中之ニ依テ事業ノ計畫ヲ爲サントスルモノ有之ヤニ相聞ヘ候處、個々小額ノ借入ヲ爲ハ國ノ信用上害アルノミナラズ、延テハ事業濫設ノ弊ヲ釀スノ虞之レナシトセズ、特ニ其間種々情弊モ可有之ニ付、外資輸入ヲ爲サントスル場合ニ於テハ、最前通牒ノ通リ豫メ内藏兩省ヘ御内議ノ御取計相成候樣致度、爲念此段及通牒候也。

外資輸入狀況其他ノ件ニ付在外大使公使竝歐米駐在領事ヘ通知ノ件

大藏大臣通知（明治三十九年八月）

日露戰役中ヨリ引續キ巨額ノ外資ハ公債社債等ノ形式ヲ以テ我邦ニ輸入セラレ候ヨリ、都會地方共ニ金融緩慢トナリ、各銀行預金竝郵便貯金ハ未曾有ノ增加ヲ來シ、金利ハ我邦銀行開業以來ノ低利ニ下落致シ候。而シテ貿易ハ頗順調ニシテ清・韓・米國向輸出ハ愈〻盛況ニ赴キ、商工業ノ好況ナルニ伴ヒ近來ニ至リ株券類大ニ騰貴シ、少シク事業熱ノ兆候ヲ示シ候ニ付、別紙ノ如ク中央銀行ニ向テ警戒ヲ加ヘ置候。又外國人ノ内地起業ハ外資ノ輸入ト共ニ近來頗流行ヲ爲シ、外人ト内人ト相呼應シテ互ニ競爭シ、前文ニ述ベタル事業熱ト相合シテ往々投機的ノ經畫モ加ハリ、終ニハ經畫ノ粗漏ヨリ事業ノ失敗トナリ、其結果ハ延テ外國ニ對スル一般經濟界ノ信用ヲ毀損スルニ至ルノ虞ナシトセズ、又小額ノ地方債・社債ノ類ヲ頻繁ニ外國市場ニ賣出スコトハ、如何ニモ我邦經濟界ノ窮迫ニ陷リタルガ如キ觀ヲ呈シ、外國資本家ノ誤解ヲ來シ、終ニ所謂玉石清濁共ニ不信用ヲ買ヒ、國家ノ大計ヲ誤ルニ至ルヤモ計ラレズ、事情右ノ如クナルヲ以テ、政府ハ外國人關係ノ事業ニハ可成行違ノ起ラザル樣注意ヲ加ヘ居候次第ニ有之、又外國市場ニ賣出ス地方債社債ニ付テハ、百萬磅未滿ノ小額ノモノハ金利少少高クトモ内地ニ於テ起債セシメ、又必要ノ場合ニハ之ヲ取纏メテ相當ノ金額ト爲シ、日本興業銀行ヲシテ其興業債券トシテ賣出サシムルノ手段ヲ取ルノ考ニ有之候。之レ錯雜不完全ナル地方債・社債ノ亂雜ニ外國市場ニ散出スルコトヲ避クルノ最良方法ニシテ、亦國家財政料理上統一的動作ヲ爲シ得ル上ニ於テ最モ必要ヲ感ズル次第ニ候。此外地方債・社債ノ外國市場ニ賣出スモノハ、政府ハ可成日本興業銀行ニ由ラシム

ルコトヲ力メ居候。是同銀行ハ政府監督ノ下ニアリ、且外國株主ヲ有スルヲ以テ、相互ノ意思ヲ疏通シ債主債務者雙方共ニ安全ニシテ最低利ニ資本ノ媒介ヲ爲シ、國家ノ統一的動作ニ妨害ヲ來サズ、國家ノ利益上最モ便宜ナリト認メ候故ニ有之候。

政府ノ方針ハ右ニ述ブルガ如シト雖、此事タル素ヨリ法律ヲ以テ强制スルニアラズ、又外國資本家ノ競爭ヲ殊更ニ妨害束縛スルニモアラザル故ニ、地方債社債ニシテ此方針ニ反シテ往々外國ニ賣出サルルモノアルハ、政府ノ内心遺憾トスル所ニ有之候。加之民間ニハ政府ノ趣旨ハ資本家起業家雙方ノ爲メニ、國家一般ノ利益ヲ保全スルニアルヲ解セズ、政府ノ所爲ヲ以テ干渉ニ過ギルト爲シ反對ヲ唱フルモノアリ。是レ多クハ日本興業銀行以外ノ金貸組合ノ手先ニ屬スル東京・大阪・横濱・神戸等在住内外人ノ、爲メニスル所アリテ唱フル所ノ說ニ附和スルモノナリト雖多少政府ノ方針ニ妨害ヲ與フルヲ免レズ候。右ハ現今我邦金融界ノ趨勢ト外資輸入ノ狀況トヲ述ベ、政府ハ如何ニ外國人ノ起業ト外資輸入トニ對シ、親切ノ注意ヲ以テ監督保護ヲ加ヘツツアルカヲ貴聞ニ入レ、且政府ノ方針ノ在ル所ヲ御承知迄ニ申進置候次第ニ候。尤モ現今ニ於テ經濟界ハ至テ順調ニシテ、内地鐵道ノ買收統一、韓國ニ於ケル鐵道ノ統一、南滿洲鐵道ノ經營、製鐵所ノ大擴張其他民間ノ商工業何レモ著々好都合ニ發達進歩ヲ加ヘツツアリ、何等憂慮スベキ事件ハ無之、畢竟爾前ノ注意ニ過ギ不申候。匆々敬具。

（別紙省略）

外資借入ニ關シ内議ノ件

（内務地方・大藏理財兩局長ヨリ北海道長官及京都・大阪・新潟・愛知・廣島・福岡各府縣知事ヘ）通牒（明治三十九年九月四日）

地方公共團體ニ於テ事業經營等ノ爲外資ヲ輸入スルニ當リ、個々小額ノ借入ヲ爲スガ如キハ帝國ノ信用上害アルヲ以テ、地方公共團體ガ外資輸入ニ付交渉ヲ爲サムトスルトキハ豫メ御内議ノ御取扱相成度旨、三十五年七月四日祕甲第一四六號及本年一月九日祕乙第三一〇號ノ内ヲ以テ及通牒候次第ニ有之候處、戰後ノ今日益〻注意ヲ要スル義ニ有之、然ルニ近來往々御内議前既ニ外資輸入ノ交渉ヲ開始シ、又ハ之ニ關シ假契約ヲ締結スルガ如キ向モ有之、曩ニ及通牒候趣旨ヲ貫徹セザルノミナラズ、之ガ爲支障ヲ來ス場合不尠候間、今後ハ必ズ交渉ノ開始前ニ御内議ノ御取扱相成候樣致度、貴管下ニ於テ外資輸入ノ計畫有之哉ノ趣傳聞致候ニ付、爲念此段及通牒候也。

（大藏省理財局長ヨリ内務省地方局長ヘ）照會（明治三十九年九月二十六日往第一〇八八〇號）

日本興業銀行ヲシテ外資ヲ輸入シ、之ヲ以テ地方公共團體ノ財政ヲ整理スルノ件ハ、曩ニ内藏兩省ニ於テ決定相成候處、右ハ主トシテ舊債ヲ借換ヘ尙ホ餘裕金アラバ國家竝ニ公共團體等ノ經濟財政上共ニ最モ有利ナル事業ニ對シテ新起債ヲ許可スルノ方針ニ有之、特ニ新起債ニ向テハ外資借入ニ關スル政府ノ方針モ有之、精密ノ調査ヲ要ス可キ義ニ付、之ガ實行ニ當リテハ其事件毎ニ御協議相成候樣致度、此段得貴意候也。

其の後明治四十二年に至り歐米の金融市況の佳良なりしに乘じて再び外債發行の氣運興り、地方團體中起債の許可方を稟請し來るもの續出するの狀態なりしを以て、政府は同年五月改めて其の許可方針を地方長官に訓示し、許可及監督方に就き遺漏なきを期したり。而して同年起債を許可したるは横濱市瓦斯事業公債・同水道第二公債・大阪市電氣軌道及水道事業公債・名古屋市事業公債・京都市

事業公債等なりき。

外債募集ニ關シ地方長官ヘ通牒ノ件

地方・理財兩局長ヨリ地方長官ヘ通牒（明治四十二年五月十七日庶甲祕第一九八號）

近來歐米市場ノ金融狀態稍〻緩和ニ復シタルヲ好機トシ、各市ニ於テ外債募集ノ計畫ヲ講ズル向モ不尠哉ニ相聞エ候處、一團體ノ大小及其ノ財力ノ程度ハ固ヨリ區々一樣ナラザルガ爲メ、其外國市場ニ於ケル信用ノ薄キモノニ在リテハ、募集條件及募集ノ成績等ニ關シ不利ノ結果ヲ甘ンゼザルヲ得ズ、斯ノ如キハ獨リ其團體ノ爲メニ取ラザル所ナルノミナラズ、延テ國債ノ市價ニモ影響ヲ及ボシ、彼我經濟トノ利害淺カラザルヲ以テ、外債募集ニ關シテハ特ニ嚴重ニ監督ノ必要ヲ相認メ候次第ニ付、自今公共團體ニ於テ外債募集ヲ爲サントスルトキハ、其交涉ノ開始前ニ在テ豫メ內藏兩大臣ノ承認ヲ受ケシムル樣御取計相成度、交涉開始後ニ至リ承認ヲ請フモノニ對シテハ、其事情ノ如何ニ拘ハラズ承認ヲ與ヘザル哉モ難計候ニ付、此邊豫テ懇篤御諭示置相成度、依命此段及通牒候也。

追テ明治三十五年七月四日祕甲第一四六號ハ、本通牒ニ依リ自然消滅ニ歸シタル義ト御了知相成度、爲念申添候也。

尋いで同四十五年には東京市電氣事業公債・京都市事業公債・横濱市瓦斯事業第二公債等の許可ありしが、爾後外國金融界の不良に加ふるに歐洲戰爭の勃發あり、他方我國經濟界の好況を呈するに伴ひ、外國市場に於て起債を爲すもの絕えて之れ無きに至れり。大正時代の末葉我經濟界の反動時代に入るに及びては、政府は極力地方財政の整理緊縮を奬勵し、固より其の外債募集の如きも特に之を許可せざるの方針を固守したり。然るに會〻大正十二年九月の關東地方大震火災に際し、未曾有の損害を蒙りたる東京及横濱兩市に對しては、特に其の復興資金を外債に求むるの已むなきを認め、大正十五年末に至り兩市の復興事業公債の外國起債を許可したり。今各地方都市の外國債の要項を表示すれば左の如し（發行期日の數年に亙るものは其の最終のものを示す）。

公債名稱	起債目的	許可年月	發行年月日	償還期限	利率	發行價格	募集地	引受者	起債額	償還額	未償還額
東京市事業公債	市區改正事業速成、隅田川改良工事費及舊債償還	明治三九年、七月	明治三九年、八月、一日	昭和二年	五・〇分	一〇〇・〇	倫敦	日本興業銀行	一四、五八〇、〇〇〇円	六、一七五、八九四円	八、四〇四、一〇六円
〃電氣事業公債	電氣事業費	〃四五、二	〃四五、二、三	〃二七	五・〇	英九八・〇 米九七・3/4 佛九六・3/4	倫敦 紐育 巴里	同上	八九、五六四、〇八五	一五、九五〇、〇一七	七三、六一四、〇六八
〃復興事業公債	帝都復興費、水道・電車軌道・電燈供給復興費、水利事業、水道事業、道路擴張、電氣事業費、舊債償還	大正一五、一〇	大正一五、一〇、二	〃三六	五・五	八三・五	倫敦	英國發行團	五八、五七八、〇〇〇	—	五八、五七八、〇〇〇
京都市事業公債	發電所建設、水利事業、水道擴張費	明治四二、六	明治四二、七、一	大正二七	五・〇	九九・〇	巴里	三井銀行經由・佛國發行團	一七、五五〇、〇〇〇	一七、五五〇、〇〇〇	—
〃同　上（追加）	〃	〃四四、三	〃四五、一、六	〃二二	五・〇	九八・五	巴里	同上	一、九五〇、〇〇〇	一、九五〇、〇〇〇	—
大阪市築港公債	築港費	〃三〇、九	〃三六、六、三	昭和三六	六・〇	九九・〇	倫敦	第三銀行經由サミュル商會	三、〇八五、〇〇〇	二七〇、〇〇〇	二、八一五、〇〇〇
〃電氣軌道及水道事業公債	電氣軌道及水道事業費	〃四三、四	〃四三、五、三	〃一三	五・〇	九七・〇	倫敦	日本興業銀行	三〇、二二〇、〇〇〇	七、五四五、〇〇〇	二二、六七五、〇〇〇
横濱市水道公債	水道事業費	〃三一、三	〃三五、五、三一	大正一四	六・〇	九八・〇	倫敦	サミュル・サミュル商會	九〇〇、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	—
〃事業公債	港灣改良設備及海面埋立費	〃三九、八	〃四〇、二、一	昭和一〇	五・〇	九九・〇	倫敦	同上	三、一〇八、八〇〇	九三四、七〇〇	二、一七四、一〇〇
〃瓦斯事業公債	瓦斯事業費	〃四二、三	〃四二、四、一	大正六	六・〇	九七・五	倫敦	香港上海銀行	六四八、〇〇〇	六四八、〇〇〇	—
〃水道第二公債	水道擴張費	〃四二、七	〃四二、七、五	昭和二八	五・〇	九八・〇	倫敦	日本興業銀行	七、〇〇〇、〇〇〇	一六六、〇八五	六、八三三、九一五
〃瓦斯事業第二公債	瓦斯事業擴張費	〃四五、四	〃四五、四、一五	〃三	五・〇	九七・五	倫敦	セール・フレザー商會	一、二〇〇、〇〇〇	八五一、二六四	三四八、七三六
〃復興事業公債	震災復興事業費	大正一五、一二	大正一五、一二、一	〃三五	六・〇	九三・〇	紐育	米國發行團	三九、六〇三、三八八	—	三九、六〇三、三八八
名古屋市公債	上下水道、公園、共同墓地、陳列館建設、新堀川改修費、舊債償還	明治四二、五	明治四二、六、三〇	〃一七	五・〇	九五・〇	倫敦	セール・フレザー商會	七、八一六、〇〇〇	二、六三七、九〇〇	五、一七八、一〇〇
神戸市水道公債	水道事業費	〃三二、五	〃三二、七、一五	明治六八	六・〇	九二・〇	（横濱）	モールス商會	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	—
合　計									二七六、〇五三、二七三	五五、八二八、八六〇	二二〇、二二三、四一三

（備　考）一、神戸市水道公債は在横濱市モールス商會に賣渡したるものなり（倫敦賣出見込）。
二、償還期限は最長年限を掲ぐ。從て据置期限後滿期前に於て全部の償還を了したるものあり。
三、未償還高は昭和元年十二月末日現在とす。
四、神戸市水道公債は明治四十三年十一月、横濱市瓦斯事業公債（第一回）は大正六年十二月、京都市事業公債は同八年一月夫々全部償還せられたり。

第五節　地方債の監督

地方起債に關しては其の許可前に於て嚴正なる審査監督を爲すことは既述の如くなるが、其の許可後に於ても適當の監督を施すの必要あることは固より論を須ひざる所なり。玆を以て政府は夙に訓令及通牒を發し、地方團體が借入金を爲し又は債務を償還したる場合、或は許可を受けたるにも拘はらず起債を爲さざる場合等は、直ちに之を政府に報告せしむることと爲したるが、明治四十四年三月新に左の如き訓令を發し、從前の訓令及通牒を廢したり。本訓令は大正六年三月十五日地第四八號及同八年八月二十一日地第一六七號を以て改正あり、左記は其の改正を經たるものとす。

内務・大藏兩大臣ヨリ道府縣長官ヘ訓令（明治四十四年三月三十一日內務省訓令第一七六號）

道府縣郡市區町村其ノ他地方公共團體ニ於テ、主務大臣ノ許可ヲ受ケ負債ヲ起シ又ハ其ノ償還ヲ爲シタルトキハ、別紙第一號及第二號樣式ニ依リ翌月十五日迄ニ報告スベシ。府縣郡ニ於テ不要許可債ヲ起シ又ハ其ノ償還ヲ爲シタルトキ亦同ジ。

府縣郡市區町村其他地方公共團體ノ不要許可債每年度末ノ現況ハ、別紙第三號及第四號樣式ニ依リ取調、翌年度八月末日迄ニ報告スベシ。

道府縣郡市區町村其他地方公共團體ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケタル負債ニシテ、左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ卽時報告セシムベシ。

一　公債ノ借入ヲ爲サザルトキ
二　負債ノ額ヲ減少シタルトキ
三　利率ノ範圍ヲ定メテ許可ヲ得タルモノ借入利率ヲ確定シタルトキ
四　利率ヲ低減シテ借入ヲ爲シ又ハ借入後利率ヲ低減シタルトキ
五　償還年限ヲ短縮シ又ハ低利ニ借替ヲ爲スコトノ定メアルモノニシテ、償還年限ヲ短縮シ又低利ニ借換ヲ爲シタルトキ

前項第一號ノ場合ニハ借入ヲ爲サザリシ理由ヲ報告書ニ記載セシメ、第二號乃至第四號ノ場合ニハ議決書及更正ノ償還年次表ヲ添ヘ、第五號ノ場合ニハ議決書當該年度ノ歲入出豫算及更正ノ償還年次表ヲ添ヘシムルコトヲ要ス。但シ道府縣ニ在テハ議決書及歲入出豫算ノ添付ヲ要セズ。

府縣郡ニ於テ不要許可債ノ利率ヲ低減シ、又ハ償還年限ヲ短縮シ若ハ低利ニ借換ヲ爲シタルトキハ、前項ノ例ニ準ジ卽時報告セシムベシ。

右訓令ス。

（別紙樣式省略）

次に大正十二年三月に至り當時地方團體に於ける起債事業施行の狀況に鑑み、地方・理財兩局長は地方長官に通牒を發し、市町村に於て起債金を全部又は一部の財源として事業を起さんとするに方

りては、必ず起債の許可を得且つ財源の確定を俟ちて始めて事業に著手すべく、許可前に著工するが如きことなき様監督方を令達せしが、尋いで同年五月及十一月更に通牒を發して、起債に依る事業完成したるときは、速に其の收支を明にして報告せしむることとすると共に、此の際起債金に殘餘を生じたる場合は之を自由處分に委せず、專ら借入金の減額又は繰上償還の貲に充當すべく命じたり。

地方・理財兩局長ヨリ地方長官ヘ通牒（大正十二年三月八日地發第二三號）

近時市町村其ノ他公共團體ニ於テ事業ヲ經營スルニ當リ其ノ財源ノ全部若ハ一部ヲ起債ニ依ル事トシ、內務・大藏兩大臣ニ對シ起債ノ許可稟請ヲ爲シタル場合、未ダ許可ノ指令ニ接セザル以前ニ於テ其ノ工事ニ著手スルモノ有之ヤニ見受ケラレ候處、右ハ不可然義ニ有之、若シ其ノ起債ガ詮議相成ラザル場合ハ當該團體財政ニ支障ヲ來サシムル場合モ可有之、甚ダ憂慮ニ不堪義ト存候。就テハ爾今各公共團體ニ於テ起債ニ依リ事業ヲ爲サントスル場合ニ於テハ、必ズ起債許可後財源ノ確定ヲ俟チ事業ニ著手スル樣嚴ニ御監督相成度。

起債ニ依ル事業費ノ精算報告ノ件

地方局長ヨリ地方長官ヘ通牒（大正十二年五月三十日地發第六〇號）

市町村ニ於テ起債ヲ全部又ハ一部ノ財源トスル事業竣工シタルトキハ、遲滯ナク別紙樣式ニ依リ精算ヲ報告セシメラレ度。

追テ本件ハ大正十一年度ニ竣工シタル事業ヨリ報告セシメラレ度、尙委任許可債ニ付テハ報告ニ及バズ候。

收入（支出）

款項	豫定				精算			
	何年度	何年度	何年度	計	何年度	何年度	何年度	計
計								

（備　考）一、豫定ト精算ト異ルモノニ付テハ其ノ事由ヲ記載スルコト
二、精算ニ於テ收支殘金ヲ生ジタルトキハ其ノ處分方法ヲ記載スルコト
三、竣工シタル事業ノ概要ヲ記載スルコト、若シ當初ノ事業計畫ト異ナルトキハ其ノ事由ヲ記載スルコト

地方・理財兩局長ヨリ地方長官ヘ通牒（大正十二年十一月十三日地發乙第一七九號）

市町村ニ於テ起債ヲ全部又ハ一部ノ財源トシ事業ヲ施行シ、之ガ事業費精算ノ結果豫算剩餘ヲ生ジタル場合ハ、借入金ノ減額ヲ爲シ、又ハ繰上償還ノ貲ニ充當シ、當初ノ起債計畫ニ基キ適當ナル措置ヲ講ズルハ勿論ノ義ニ有之候處、最近市町村ヨリ提出スル起債ニ依ル事業費精算報告ニ依レバ、往々ニシテ借入金ノ減額ヲ爲シ得ベキニ拘ハラズ之ヲ爲サズ、或ハ之ヲ繰上償還ノ貲ニ充テズシテ濫リニ他ノ費用ニ支出シタル向有之、右ハ甚ダ不都合ノ義ニ付將來監督上特ニ御留意相成、而シテ財政上已ムヲ得ザル事情ノ爲前段ニ據リ難キ場合ハ、左ノ各項ニ依リ相當措置セシメラレ度。

一、借入金ニ依リ事業費ノ全部ヲ支辨シ仍ホ剩餘ヲ生ジタル場合、之ヲ他ノ費途ニ充當セムト

スルトキハ更ニ許可ヲ受クルコト。

一、事業費精算ノ結果、借入金ノ減額又ハ繰上償還ヲ爲スベキニ拘ハラズ之ヲ爲サズ、之ガ爲生ジタル借入金以外ノ豫定財源ノ餘裕金ヲ、他ノ費用ニ支出セムトスル場合ハ、其ノ事情ヲ具シ承認ヲ受クルコト。

尚委任許可債ニ關シテモ本文ノ趣旨ニ依リ監督相成樣致度右爲念。

第六節　日露戰後に於ける地方債の整理

既に述べたるが如く政府は地方債の起債に關しては嚴重なる監督を施し、能ふ限り之を抑止するの方針を採れりと雖も、社會經濟の發展に伴ふ地方債累增の傾向は之を阻止するを得ずして、其の債額は比年增加の一途を辿りたり。而も地方債は其の性質上國債等に比すれば甚だ高利なるのみならず、其の起債條件等も劣惡なるもの多きに居るを以て、地方民の年々の負擔は決して輕少とせざるなり。玆を以て政府は常に地方債の累積を懸念し、地方團體をして其の整理償還・低利借換を圖らしむる爲慫慂誘掖を怠らざりしが、尙ほ場合に依りては自ら積極的に低利借換を斡旋し、以て地方債の借換整理を促進せんと圖りたることあり。卽ち日露戰役後日本興業銀行を仲介として之を爲さしめたるが如きは其の顯著なるものにして、今其の顚末を略說すれば左の如し。

抑〻明治三十八年末に於ける地方債現在高は全國を通じて約六千六百萬圓に上り、此の內には無利息及六分未滿の低利のものもなきに非ざりしも、中には七八分以上甚だしきは一割二分以上のものも亦少からざりき。從て地方債の低利借換の必要は朝野の均しく認むる所となりしが、會〻日本興業銀行に於ては戰後外資輸入容易となり、延いて時代の流行となるに際し、大いに外資を以て地方債の借換に資し、又地方團體の外國起債を引受けんことを計畫し、其の主旨貫徹の爲め政府に於て之を援助すると共に、借換條件等を詮議の上地方長官に訓示あり度き旨政府に稟申せり。卽ち左の如し。

地方債整理基金供給ニ關シ日本興業銀行總裁ヨリ內務大臣ヘ上申（明治三十九年四月五日）

戰後經營ノ一端トシテ地方公共團體ノ負擔ヲ輕減シ、財力ノ充實ヲ謀ルハ目下ノ急務ト奉存候。就テハ弊行ニ於テモ倫敦其他歐米ノ有力ナル資本家ト聯絡相通ジ候ヲ好機トシ、此際高利ノ舊債借替ノ爲メニ發行スル地方債及ビ新ナル計畫ニ基ヅク地方債等ノ應募引受ニ關シテハ、地方公共團體ノ爲メ出來得ル限リ有利ノ條件ニテ極力盡力致度所存ニ有之候間、何卒右ノ主旨貫徹候樣可然御詮議奉願候也。

一、此際地方長官會議御開會ノ機ヲ以テ、內務大臣ハ地方公共團體ノ七分以上ノ舊債ヲ借替ヘントスルモノ、及ビ低利ノ新ナル起債ヲ爲サントスルモノノ金額ヲ調査シ、其總額ヲ定メラルルコト。

一、借用證文ノ分ハ本行法律第九條第二號ニ該當セザルニ依リ、內務大臣ハ地方長官ニ命令シテ、本行ヨリ資金融通ヲ受クルモノニ關シテハ、借用證文ニ依ラズ、凡テ金額ノ大小ニ拘ハラズ公債證書發行ノ手續ヲ履行セシメラレタキコト。

一、本行ハ地方公共團體ノ爲メニ興業債券ヲ倫敦ニ發行シ、其現金ノ拂込アリタル日ニ於テ、直ニ其現金ヲ地方長官ヲ經由シ各地方公共團體ニ交付スベシ。
地方長官ハ本行ヨリ現金交付ノ件ヲ其交付ノ日ヨリ二箇月前ニ豫告スベキニ付、其管下ノ各

公共團體ヲシテ公債發行ニ關スル一切ノ法律上ノ手續ヲ履行セシメ、現金交付ノ日マデニ公債證書ヲ其手許ニ纏メ置カルルモノトス。

公債證書發行ノ日附ハ本行ヨリ豫告シタル日附トシ、其日ヨリ利息支拂ヲ爲スモノトス。

玆に於て政府は興業銀行の發議を容れ、直に内務省地方及大藏省理財兩局長をして、各地方長官に對して前記興業銀行の提出條件を通牒して、其の調査を命ぜしめしが（明治三十九年四月十一日）、其の後更に興業銀行と協議したる結果、條件に多少の異動を生じたるを以て、翌月四日改めて之を通牒する所ありたり。然るに五月七日の地方長官會議に於て協議の結果其の條件中更に多少の變更を生じたるを以て、翌八日重ねて訂正通牒を見るに至れり。今便宜上左に五月四日通牒の前半、及五月八日通牒の全文を掲ぐべし。

内務省地方局長ヨリ各地方長官ヘ申達（明治三十九年五月四日）

高利公債整理資金等供給ニ關スル協議事項曩ニ及御配付候處、其後日本興業銀行ト交渉ノ結果多少異動ヲ生ジ候ニ付、前後ノ分總ベテ取纏メ一括ト爲シ、別紙及御送付候條、右ニ依リ御取調相成候樣致度、此段申進候也。

（別紙）

高利公債整理資金等供給ニ關スル協議事項（明治三十九年五月四日施行）

明治三十八年十一月一日現在地方團體公債額ハ全國ヲ通ジテ七朱以上ノモノ二千萬圓、八朱以上ノモノ千三百八十四萬圓、一割以上ノモノハ實ニ四百五十七萬圓アリ。其高利公債ノ起因ハ固ヨリ認容スベキ事情ニ基クモノアルベシト雖モ、之ヲ整理スルニ非ザレバ他ノ必要ナル經營ニ支障ヲ來スノ恐アリ、或ハ又此際低利ナル公債ニ依リ事業經營ヲ要スルモノアルベシ。依テ曩ニ數々此事ニ關シ商議ヲ遂ゲ今ヤ日本興業銀行ニ於テ不取敢一千萬圓ヲ供給シ、此事ニ當ランコトヲ申込メリ、依テ其大要ハ已ニ大藏省ト協議ノ上通牒アリタルモ、尚左記ノ方法ニ就キ御意見承知シタシ（左記ノ條項略ス）。

地方・理財兩局長ヨリ各地方長官ヘ通牒（明治三十九年五月八日）

高利公債整理資金等供給ニ關スル件、本月七日御會同ノ際地方局長ヨリ及御協議候處、其結果多少變更ヲ生ジタル點モ有之候ニ付、該協議事項ハ左記ノ通決定致候、尤モ議決又ハ條件ノ標準ハ追テ決定次第可及通報此段及通牒候也。

追テ高利公債ノ整理ハ緊要ナル義ニ有之候得共、地方ニ於テ租税滯納ノ弊ヲ矯正セズ、基本財産管理其他財務ノ改善ヲ爲サザルトキハ、低利資金供給ノ目的ヲ貫徹スル能ハザルニ付、是等ノ弊アル公共團體ニ對シテハ、豫メ之が整理ノ方法ヲ講ゼシメラレ候樣致度、此段申添候也。

一、利率ハ外資輸入ノ交渉未ダ纏ラザルガ爲メ全ク不確定ニ付、日本興業銀行ニ於テ假リニ七分見當トシテ調査中ニ有之、尤モ可成低利ニ交渉シ七分以内ニ供給スルノ運ヲ取ルベク、又貸出ハ債券券面額ニ依リ供給スルコト。

二、地方長官ハ遲クモ六月十日迄ニ管内公共團體ニ於テ資金ノ供給ヲ要スル金額ヲ、舊債整理ニ屬スルモノト新事業ニ充ツルモノトニ區分シ、内務省ニ報告スベキコト（借替ノ分ハ現在ノ債權者ト交渉スベキハ勿論ナリ）。但舊債ニ關スル分ハ一件毎ニ其團體名、借替ヲ要スル金額、利率、當初借

入年月日及償還年次表ヲ提出スルコト。

三、外資輸入ノ交渉纏ラザレバ確定セザルモ、日本興業銀行ハ大凡九月一日現金ヲ交付スベキニ付、公共團體ヲシテ遲クモ七月末日迄ニ日本興業銀行法第九條第二號ニ該當セシムル爲メ、金額ノ多少ニ拘ハラズ債券發行ニ關スル法律上ノ手續ヲ完了セシムルコト。

四、債券發行ニ關スル公共團體ノ議決又ハ條例ハ別ニ標準ヲ示スニ依リ之ニ據ラシムルコト。

五、公共團體財政ノ都合ニ依リ隨時償還ヲ爲シ得ルコト。

六、債券數ハ之ヲ少カラシムルヲ得策トスルモ、償還年限中各年度償還額ニ照シ、其各年ニ通ズル一定ノ金額（例ヘバ第一年ニ五百圓、第二年ニ六百圓、第三年ニ七百圓ヲ償還スル場合ニ在テ、各年ニ通ズル一定ノ金額ハ五百圓ナリ）ト、其他ニ百圓・二百圓ノ如キ少額ノモノヲ調製シ、或ハ各年償還元金額ヲ各一枚ノ債券ト爲ス等、各年償還ニ便ナラシムルコト。尤モ都合ニ依リ特ニ前記ノ例ニ依ラズ元金十萬圓迄ハ一枚又ハ數枚ノ債券トナスコトヲ得ルコト。

七、債券ノ用紙ハ便宜日本興業銀行ニ於テ調製シ、實費（一枚ニ付大凡十錢乃至二十錢）ニテ配付スルコト。

八、日本興業銀行ヨリノ借入金ニ對スル償還ハ、日本勸業銀行ニ於ケルガ如ク元利ヲ合セ均等償還ノ方法ヲ採ルハ、日本興業銀行ノ希望セザル處ナルモ、元金償還ノ額ヲ各年ニ配當シ、可成各年元利償還額ニ大差ナカラシムルヲ得策トス。

九、利子ハ元金ノ据置中ト同率ナルコト。　又利子ハ毎年六月、十二月ノ二期ニ支拂フコト。

十、現金ノ交付ハ道府縣毎ニ取纏メ、各道府縣ニ於テ日本興業銀行又ハ其代理店（現ニ代理店ナキ地ハ日本興業銀行ニ於テ新ニ之ヲ設置スル見込）ヲシテ交付セシムルコト。

十一、債券ハ現金交付ノ日迄ニ道府縣ニ纏メ置クコト。

十二、債券發行ノ日附ハ現金交付ト同日ト爲シ、其日ヨリ利子支拂ヲ爲スコト。

十三、全國一千萬圓ハ大凡ノ豫定額ニ過ギズ、故ニ總額確定ノ上ハ相當方法ニ依リ全國ニ分配シ、調達ノ運ニ至ルベキコト。

斯くて各地方廳に於て調査したる所に依れば、當初借換を要すべきものと認められたる八分利付以上の地方債千三百八十四萬餘圓中には、債權者其の他の關係より借換を行ひ難き事情に在るものも少からざりし爲め、實際に借換を申出でたる額は約八百萬圓に止まりたり。　仍て政府は此の申出に付き更に精密なる調査を遂げ、許可すべきものは順次興業銀行に通知して貸付を爲さしむることとし、之に對し同行は亦外資輸入の成立する迄、取敢へず自行資金三百萬圓を限り年七分を以て、借換又は起債の請求に應ずることと爲せしが、明治三十九年八月同行の引受に依りて東京市外債を倫敦に募集したる以後、會〻外國市場の景況一變し、遂に地方債借換資金調達の爲の興業銀行外債は、其の實現を見ずして中止するの已むなきに立到りたり。　玆に於て同行は已むを得ず、前記自行資金を以て一時引續き借換請求に應じ來りしが、四十年末頃迄には地方供給高約三百三十餘萬圓に達し（此の内借換充當約二百萬圓）、同行の資金も最早缺乏を告ぐるに至りたるを以て、政府は玆に外資に依る地方債整理の計畫を棄て、借換殘部に對しては別に大藏省預金部資金の一部を融通し、各地方勸業・農工銀行等の手を經て借換せしむることと爲し、以て地方債整理の宿題に一段落を著けしめたり。　而して此の預金部資金の融通は爾來引續き行はれ、大正中期以後に行はれたる簡易保險局積立金の融通と共に、地方起債及借換に最も重要なる資源を供給しつつあるものとす。

地方債附表

凡例

一、明治時代と大正時代と夫々調査資料を異にする爲め竝列し難きものは二表に分つ。而して主として明治時代は各暦年調、大正時代は各會計年度調とす。

二、組合債は水利及土功組合に限り、市町村等の組合を含まず。

三、市債には北海道及沖繩縣の區債をも包含す。

第一表（イ）地方債累年比較表（明治年間）

年次	道府縣債	郡債	市債	町村債	組合債	計	委任許可債	合計	人口一人當り負擔額
明治二三	五七〇、三〇一円	—円	一五〇、〇〇〇円	—円	—円	七二〇、三〇一円	—円	七二〇、三〇一円	〇・〇一八円
二四	一、二六三、四八一	—	八六三、一一三	一、六五一	—	二、一二八、二四五	—	二、一二八、二四五	〇・〇五三
二五	一、二九五、一五四	—	二、九六二、四一九	一六、六〇九	六、五〇八	四、二七九、六九二	—	四、二七九、六九二	〇・一〇四
二六	一、五二九、五〇七	—	七、五〇一、六四四	一九、二三〇	四三、四一八	九、〇九三、八〇一	—	九、〇九三、八〇一	〇・二二〇
二七	二、二八一、五一一	三、〇〇〇	七、五二九、七六〇	一三〇、五七二	一三六、四〇八	一〇、〇六二、二五三	—	一〇、〇六二、二五三	〇・二四一
二八	二、二〇九、九四五	二、五〇〇	七、八二〇、九六〇	一三八、二四〇	一三八、二八八	一〇、二九九、九三四	—	一〇、二九九、九三四	〇・二四四
二九	二、二〇四、八五四	六、二〇〇	八、〇一九、五九六	一六三、一七三	一三四、五八九	一〇、五一八、四二四	—	一〇、五一八、四二四	〇・二四六
三〇	四、五〇〇、一四八	二一、四七九	八、七三二、一一三	二三六、九三〇	二四七、四八九	一三、七三八、一六一	二、六二四、六五三	一六、三五二、八一四	〇・三七八
三一	七、八八五、二〇二	四五、七二九	一一、五〇一、四八〇	三八三、三八五	四四八、六八二	二〇、二六四、四八〇	三、二一九、五一七	二三、四八三、九九七	〇・五三七
三二	八、六七二、六三九	六二、六四六	一八、二七六、七五五	四九一、九四九	七二四、三〇八	二八、二三八、二九九	三、六三九、九〇四	三一、八五八、二〇四	〇・七二〇
三三	一二、二三七、九四〇	五一五、二〇五	二九、二三三、九〇〇	二、〇〇八、一三八	二、〇七八、九一四	四六、〇七四、〇九七	四、七六五、五六五	五〇、八三九、六六二	一・一三四
三四	一三、一六二、六六三	七六八、二三八	三二、九三〇、六一五	二、五三四、二三四	二、二八九、四四九	五〇、六八五、一八九	六、九一六、〇三六	五七、六〇一、二二五	一・二六七
三五	一一、二二三、七四八	一、〇七七、〇〇七	三八、六六三、九〇二	二、七五〇、〇五五	二、三七四、九五四	五六、〇七八、六六六	八、三〇三、七九二	六四、三八二、四五八	一・三九八
三六	一三、六五〇、二三四	一、一三〇、五七一	四二、八〇一、六四七	二、八八〇、七四一	二、五三五、七八八	六一、九九八、九八一	八、五一五、三三三	七〇、五一四、三一四	一・五〇九
三七	一二、二六〇、四六〇	一、一一七、一七五	四四、八七〇、七七三	三、〇五二、八五五	二、五八三、〇一七	六三、八八四、二八〇	五、七八五、二〇七	六八、六六九、四八七	一・四五四
三八	一〇、九六四、五〇九	一、二六八、四〇五	四三、六九二、七二二	三、〇四〇、六一七	二、六六五、五七九	六一、六三一、八三二	四、八六三、四八二	六六、四九五、三一四	一・三九五
三九	一三、四五九、八四一	一、三六四、三九三	五九、一二八、七六三	三、七八八、一一九	三、四三二、六三〇	八一、一六三、七四六	四、七八七、八二五	八五、九五一、五七一	一・七八五
四〇	一三、三一九、九九七	一、五一〇、九一四	六五、四七三、〇六七	四、三三一、七〇七	三、八四五、一八三	八八、四七〇、八六八	八、六八九、四三一	九七、一六〇、二九九	一・九九〇
四一	一六、七九三、九〇三	一、五〇〇、〇〇五	七〇、二三〇、五六〇	四、八三八、七九二	三、九一五、七七三	九七、二六九、〇三三	一四、四〇五、五九六	一一一、六七四、六二九	二・二五三
四二	一六、四五六、七〇六	一、五一六、〇二二	一二九、八六七、四二三	六、二六二、五七二	四、七五四、九三三	一五八、八五七、六五四	一一、六六七、七六三	一七〇、五三五、四一七	三・三九三
四三	二六、四九六、四五〇	一、三七一、九〇七	一三三、六八五、五八五	七、六九八、六〇五	四、八八六、八一六	一七四、一三九、三六三	九、一八〇、六〇五	一八三、三一九、九六八	三・五九六
四四	三四、四六三、九四三	一、三六九、六四七	二三七、七三二、三三七	八、五〇四、九七二	五、二六七、三一三	二八七、三三七、二〇一	八、五六四、六四九	二九五、九〇一、八五〇	五・七一七

第一表（ロ）同上（大正年間）

年度	道府縣債	郡債	市債	町村債	組合債	合計	人口一人當り負擔額
大正元	三七、三三一、二〇五円	二、一六一、三九六円	二四七、六三一、九一八円	一三、〇一八、九七四円	六、八三三、五三一円	三〇六、九五七、〇二四円	五・七七〇円
二	四四、一九八、一六七	二、二八三、三二八	二五一、〇九六、八七八	一一、二〇九、〇三七	七、八三五、七六二	三一六、六二三、一六二	五・八四八
三	四九、五八二、三四六	一、九三二、三八四	二五四、七一八、二五八	一二、〇〇一、三四九	八、三七七、七七六	三二六、六〇二、一一三	五・六一五
四	五四、四七一、五一五	一、八四四、七二〇	二六〇、〇六五、三四五	一一、五四〇、五五〇	八、九六七、六五九	三三六、八八九、七八九	五・七九二
五	五三、九二九、四一九	一、八七四、四八〇	二六五、五四〇、七三四	一〇、六〇二、一一八	八、八四七、一六六	三三九、七九三、九二七	五・九三八
六	五四、一三六、七一八	一、八五四、二三四	三〇一、四三三、六八九	一〇、七一二、〇一四	九、一八二、五六三	三七七、三一九、三二八	六・五〇〇
七	五八、五五九、四七六	一、八一六、七三四	三〇八、四五九、五九五	一一、六七三、〇二三	九、〇八二、四五四	三八九、五九一、二八二	六・七一一
八	六九、五三三、七一一	二、八七〇、二〇一	三三六、六八五、四九三	一四、九一七、九一三	一〇、一四一、四三三	四三四、一三八、七四二	七・二四〇
九	一一〇、六六四、三八三	三、七八八、二三〇	三五六、二四七、九二八	二九、〇〇八、〇七九	九、八五〇、七一〇	五〇九、五五九、三一九	九・〇一五

大正一〇	一三三、八二四、五六七円	四、三六四、五九六円	四六五、七六七、一七五円	三九、一一三、〇九五円	一二、三三七、六二〇円	六五四、六〇七、〇五三円	一一・六九三円
一一	一六五、一五三、一九五	二、四七七、八四三	五四七、三二七、〇三〇	五五、二五四、四八五	一八、一八一、六一七	七八八、七八三、一七〇	一四・〇八六
一二	一九三、三〇四、五三六	—	六二四、八四四、七八〇	八一、六五五、八六六	二四、八二六、九三八	九二四、五三二、一二〇	一六・五三〇
一三	二六九、二一六、九三七	—	七二七、七四七、五〇三	九五、五九七、四八二	二六、六七七、〇九六	一、一一九、一三九、〇一八	一九・九九八
一四	二八二、四七四、五九一	—	八三九、七四六、四七四	一二五、六九九、三九九	三〇、〇三三、三六六	一、二六七、九四三、七三〇	二二・三三五
昭和元	三三九、三三五、九六九	—	一、〇一七、五一四、九〇三	一三一、二六九、六七〇	三五、一三六、一七三	一、五一三、二四六、七一四	二五・三三三

（備考）本表は各年度末現在にして、債額中には不要許可債をも含むものとす。

第二表　地方債起債及償還額表

年度	起債額	償還額	年末又は年度末殘高
明治二三	？円	？円	七二〇、三〇一円
二四	？	？	二、一二八、二四五
二五	？	？	四、二七九、六九二
二六	？	？	九、〇九三、八〇一
二七	？	？	一〇、〇六一、二五三
二八	九六三、七六九	七二五、〇八八	一〇、二九九、九三四
二九	九五〇、四〇四	七三一、九二四	一〇、五一八、四一四
三〇	四、三八五、八七五	一、一六六、一二八	一三、七三八、一六一
三一	八、二二九、〇四四	一、七〇二、七二五	二〇、二六四、四八〇
三二	一〇、〇五四、七七二	二、〇九〇、九五三	二八、二二八、二九九
三三	一〇、〇八四、〇一八	五八二、八四四	三七、七二九、四七三
三四	八、〇四六、三三六	二、〇五五、〇〇三	四三、七二〇、八〇六
三五	二三、〇五七、六六一	一三、一八八、二七八	六一、一一〇、三五五
三六	一七、九二八、三二〇	一一、九五六、七七四	六七、一一一、七四七
三七	七、八四六、四四〇	八、五四四、一〇四	六四、九九二、五〇八
三八	五、四六二、〇三五	八、〇二一、一五九	六二、五六九、一八二
三九	二一、八四三、四〇七	六、七二九、〇〇二	七七、五八五、三六〇
四〇	二五、五七四、一五三	一三、八九三、三九七	八九、二六六、一一五
四一	一九、六四一、七七九	九、〇八四、二七〇	九九、八二三、六二四
四二	九四、〇七八、五六七	三〇、六五〇、八七八	一六二、九三三、七三三
四三	一二、六八九、〇一七	七、七六六、七一九	一六八、四六二、二〇〇
四四	一五六、一九〇、〇九六	三五、五九三、一七九	二九五、九〇一、八五〇
大正元	二三、七二六、六二九	一三、七五〇、七〇〇	三〇六、二二八、六二三
二	一九、四四八、三五三	一一、〇〇三、七〇一	三一四、四五八、三一六
三	二四、九七二、七一一	一二、一五八、一六五	三二七、二二六、七五九
四	一六、三一三、九九一	九、九六七、六五五	三三四、二三一、〇三五
五	二四、八六七、一五七	一四、九二四、五一二	三四四、一九一、〇四三
六	七六、二一八、一八八	一七、八七六、五八五	四〇三、一九七、五四九
七	二二、六八〇、五五三	三四、四八二、五七二	三九一、四二四、四三四
八	五二、五九九、七三〇	一七、六〇一、三二五	四二六、七〇七、六一六
九	五九、〇九三、〇六九	一八、一一七、一八二	四八〇、三二九、七一一
一〇	？	？	六五四、六〇七、〇五三
一一	？	？	七八八、七八三、一七〇
一二	？	？	九二四、五三二、一二〇
一三	？	？	一、一一九、一三九、〇一八

大正一四	？円	？円	一、二六七、九四二、七三〇円
昭和元	？	？	一、五一三、二四六、七一四

（備考）一、明治四十三年迄は暦年末、同四十四年よりは會計年度末現在。
二、明治二十七年以前及大正十年度以後の起債額及償還額不明。
三、計數に前後吻合せざるものあるは後に於て訂正せしに由るか、或は圓位未滿を便宜取捨したるに由るものなり。
四、明治三十四年以前は許可債のみを揭げ、三十五年以後は不要許可債をも合算す。

第三表　地方外國債起債竝償還高表

年次	起債額	償還額	年末現在額
明治三二	二五〇、〇〇〇円	—円	二五〇、〇〇〇円
三三	—	—	二五〇、〇〇〇
三四	—	—	二五〇、〇〇〇
三五	三、九八五、〇〇〇	—	四、二三五、〇〇〇
三六	—	—	四、二三五、〇〇〇
三七	—	—	四、二三五、〇〇〇
三八	—	五、七二二	四、二二九、二七八
三九	一四、五八〇、〇〇〇	五、七二二	一八、八〇三、五五六
四〇	三、一〇八、八〇〇	五、七二二	二一、九〇六、六三四
四一	—	五、七二二	二一、九〇〇、九一二
四二	六三、二三四、〇〇〇	五、七二二	八五、一二九、一九〇
四三	—	二八三、六二二	八四、八四五、五六八
四四	九一、五一四、〇八五	四三、一二二	一七六、三一六、五三一
大正元	一、二〇〇、〇〇〇	五五、〇二二	一七七、四六一、五〇九
二	—	三一四、三二四	一七七、一四七、一八五
三	—	一二三、四〇〇	一七七、〇二三、七八五
四	—	一二九、四五三	一七六、八九四、三三二
五	—	一、七八八、〇八六	一七五、一〇六、二四六
六	—	二、二八四、七四七	一七二、八三一、四九九
七	—	四、二九六、八四二	一六八、五三四、六五七
八	—	二二、〇九二、四七七	一四六、四四二、一八〇
九	—	六、一五一、五四三	一四〇、二九〇、六三七
一〇	—	三、三二〇、八〇四	一三六、九六九、八三三
一一	—	二、七五〇、五三九	一三四、二一九、二九四
一二	—	四、〇〇四、三五四	一三〇、二一四、九四〇
一三	—	二、八一一、三〇六	一二七、四〇三、六三四
一四	—	二、七七六、二〇五	一二四、六二七、四二九
一五	九八、一八〇、三八八	二、五八四、四〇四	二二〇、二二三、四一三

（備考）本表は各暦年末現在を示す。

第四表　地方外國債各年末現在高表

年次	東京市			京都市	大阪市		橫濱市				名古屋市	神戸市	合計
	舊債整理及市區改正等事業公債	電氣事業公債	復興事業公債	水利電鐵等事業公債	築港公債	電鐵及水道公債	水道公債	港灣改良設備及埋立費公債	瓦斯公債	復興事業公債	上下水道公債	水道公債	
明治三二	—円	—円	—円	—円	—円	—円	—円	—円	—円	—円	—円	二五〇、〇〇〇円	二五〇、〇〇〇円

	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円
明治三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
三四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
三五	—	—	—	—	三、〇八五、〇〇〇	—	九〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	二五〇、〇〇〇	四、二三五、〇〇〇
三六	—	—	—	—	三、〇八五、〇〇〇	—	九〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	二五〇、〇〇〇	四、二三五、〇〇〇
三七	—	—	—	—	三、〇八五、〇〇〇	—	九〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	二五〇、〇〇〇	四、二三五、〇〇〇
三八	—	—	—	—	三、〇七九、二七八	—	九〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	二五〇、〇〇〇	四、二二九、二七八
三九	一四、五八〇、〇〇〇	—	—	—	三、〇七三、五五六	—	九〇〇、〇〇〇	—	—	—	—	二五〇、〇〇〇	一八、八〇三、五五六
四〇	一四、五八〇、〇〇〇	—	—	—	三、〇六七、八三四	—	九〇〇、〇〇〇	三、一〇八、八〇〇	—	—	—	二五〇、〇〇〇	二一、九〇六、六三四
四一	一四、五八〇、〇〇〇	—	—	—	三、〇六二、一一二	—	九〇〇、〇〇〇	三、一〇八、八〇〇	—	—	—	二五〇、〇〇〇	二一、九〇〇、九一二
四二	一四、五八〇、〇〇〇	—	—	一七、五五〇、〇〇〇	三、〇五六、三九〇	三〇、三三〇、〇〇〇	七、九〇〇、〇〇〇	三、一〇八、八〇〇	六四八、〇〇〇	—	七、八二六、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	八五、二三九、一九〇
四三	一四、五八〇、〇〇〇	—	—	一七、五五〇、〇〇〇	三、〇五〇、六六八	三〇、三三〇、〇〇〇	七、九〇〇、〇〇〇	三、一〇八、八〇〇	六三〇、一〇〇	—	七、八二六、〇〇〇	—	八四、八四五、五六八
四四	一四、五八〇、〇〇〇	八九、五六四、〇八五	—	一九、五〇〇、〇〇〇	三、〇四四、九四六	三〇、三三〇、〇〇〇	七、九〇〇、〇〇〇	三、一〇八、八〇〇	五八二、七〇〇	—	七、八二六、〇〇〇	—	一七六、三二六、五三二
大正元	一四、五八〇、〇〇〇	八九、五六四、〇八五	—	一九、五〇〇、〇〇〇	三、〇三九、二二四	三〇、三三〇、〇〇〇	七、九〇〇、〇〇〇	三、一〇八、八〇〇	一、七三三、四〇〇	—	七、八二六、〇〇〇	—	一七七、四六二、五〇九
二	一四、五八〇、〇〇〇	八九、五六四、〇八五	—	一九、五〇〇、〇〇〇	三、〇三三、五〇〇	三〇、三三〇、〇〇〇	七、六五四、四〇〇	三、一〇八、八〇〇	一、六七〇、四〇〇	—	七、八二六、〇〇〇	—	一七七、一四七、一八五
三	一四、五八〇、〇〇〇	八九、五六四、〇八五	—	一九、五〇〇、〇〇〇	三、〇二六、〇〇〇	三〇、三三〇、〇〇〇	七、六二七、四〇〇	三、一〇八、八〇〇	一、五九一、五〇〇	—	七、八二六、〇〇〇	—	一七七、〇二三、七八五
四	一四、五八〇、〇〇〇	八九、五六四、〇八五	—	一九、五〇〇、〇〇〇	三、〇一五、五〇〇	三〇、三三〇、〇〇〇	七、六二七、四〇〇	三、一〇八、八〇〇	一、四七三、五四七	—	七、八二六、〇〇〇	—	一七六、八九四、三三三
五	一三、八六七、一二九	八八、七二六、六〇〇	—	一九、五〇〇、〇〇〇	三、〇〇五、五〇〇	三〇、三三〇、〇〇〇	七、五三一、〇〇〇	三、一〇八、八〇〇	一、三三一、二二七	—	七、八二六、〇〇〇	—	一七五、一〇六、二四六
六	一三、一〇三、一三七	八七、六七五、四六八	—	一九、五〇〇、〇〇〇	三、〇〇五、五〇〇	三〇、三三〇、〇〇〇	七、五三〇、一〇〇	二、九三九、〇一三	一、一六四、四〇七	—	七、六九三、八七五	—	一七二、八三一、四九九
七	一二、二六八、五八四	八四、六四八、一六七	—	一九、五〇〇、〇〇〇	二、九七八、〇〇〇	三〇、三三〇、〇〇〇	七、四三七、六〇〇	二、八九七、五二八	一、〇六一、八七八	—	七、五三三、九〇〇	—	一六八、五三四、六五七
八	一一、六一〇、三八八	八三、五〇六、七九八	—	—	二、九五九、〇〇〇	三〇、三三〇、〇〇〇	七、三八〇、二〇〇	二、八四一、六六五	九八七、四二九	—	六、九三六、七〇〇	—	一四六、四四三、一八〇
九	一〇、七八六、四七八	八二、三六〇、五六五	—	—	二、九三三、五〇〇	三六、三四八、〇〇〇	七、三三四、一〇〇	二、七九二、三三三	九〇九、〇六三	—	六、九三六、七〇〇	—	一四〇、二九〇、六三七
一〇	一〇、一三九、五二五	八一、〇五三、六五七	—	—	二、九一一、〇〇〇	三五、四五五、三三七	七、二六〇、四〇〇	二、六七九、六四八	八二六、七七六	—	六、六四三、六〇〇	—	一三六、九六九、八三三
一一	一〇、〇〇〇、七二四	七九、七三五、四六二	—	—	二、八八八、〇〇〇	三四、六三八、〇〇〇	七、一九六、四〇〇	二、六七九、六四八	七四〇、五七一	—	六、三三〇、五〇〇	—	一三四、三二九、三九四
一二	九、五九九、二七八	七八、三五二、一一三	—	—	二、八七四、五〇〇	三〇、〇〇五、〇〇〇	七、一二二、五〇〇	二、五五六、六六九	六四九、四七〇	—	六、〇五七、四〇〇	—	一三〇、二二四、九四〇
一三	九、三三一、二〇〇	七六、八九九、八六九	—	—	二、八五七、五〇〇	三二、六七五、〇〇〇	六、八七五、一一五	二、四四六、二〇〇	五五四、四五〇	—	五、七六四、三〇〇	—	一三七、四〇三、六三四
一四	八、六六四、〇二九	七五、三七九、七六四	—	—	二、八三五、五〇〇	三二、六七五、〇〇〇	六、八三三、九二五	二、三二三、五〇〇	四五四、五三二	—	五、四七一、二〇〇	—	一三四、六三七、四三九
一五	八、四〇四、一〇六	七三、六二四、〇六八	五八、五七八、〇〇〇	—	二、八一五、〇〇〇	三二、六七五、〇〇〇	六、八三三、九二五	二、一七四、一〇〇	三四八、七三六	三九、六〇二、三八八	五、一七八、一〇〇	—	二三〇、二三三、四二三

第五表　地方債府縣別表（昭和元年度末現在）

府縣名	府縣債	市債	町村債	組合債	計	人口一人當負擔額
北海道	一、一八二、一三四円	一三、五四三、八六九円	八、五〇三、五〇六円	二七、七七二、一一七円	五一、〇〇〇、六二六円	二〇・四二一円
青森	四、六二一、〇三〇	一、一一五、四一〇	一、六七六、一三七	七八、二六四	七、四八〇、八三一	九・二〇三
岩手	五、七四七、六二六	二六三、七四九	一、〇二八、五八三	八、六四九	七、〇四八、五九七	七・八二三
宮城	二、五七一、二八二	三、八三〇、〇七五	二、一八九、三八六	一、〇一三、七〇〇	二八、六二四、四四三	二七・四〇六
秋田	五、七四四、二七六	四一九、一七四	一、五四三、六一九	四五、五〇〇	七、七五二、五六九	八・二七九
山形	六、五三八、二〇七	一、七七五、四〇三	二、二三〇、〇四一	三四二、三四三	一〇、八八五、九九四	一〇・五九七
福島	五、四七九、八二八	二、五四四、八二九	二、六三〇、二三九	一〇七、七七三	一〇、七六二、六六九	七・四八七
茨城	九二八、〇〇〇	二六二、二八〇	六七六、〇九一	九五、五〇七	一、九六二、八七八	一・三九三
栃木	三、三三七、二六七	一、二四八、三三三	一、〇一五、一八七	二七、三七九	五、六二八、一一五	五・一六一
群馬	二、二八四、六九〇	一、八九二、一七三	一、七九四、三八七	八、〇〇〇	五、九七九、二四九	五・三四四
埼玉	一三、三四九、四五三	—	二、三六七、三七三	—	一五、七一六、八二六	一一・二七一
千葉	三、三九五、九〇〇	一六二、四九二	三、五六五、七四二	三七、四五三	七、一六一、五八六	五五・二一八
東京	四四、五四四、三九七	三三五、六一四、三九二	二六、八四四、一九一	一八、五〇〇	四〇七、〇二一、四八〇	九〇・七四九
神奈川	二九、七三六、六七七	一一一、四二〇、六三〇	一六、〇八一、七八九	四、〇〇〇	一五七、二四三、〇九六	一一〇・九八五
新潟	九、九四六、〇〇〇	五、一一九、五二九	一、五四一、九八二	八二八、三九〇	一七、四三五、九〇一	九・四三六
富山	一一、〇八三、七一五	二、五〇七、〇二六	八四二、七六七	一九、二三〇	一四、四五三、七五八	一九・二九〇

石川	二、一七七、一八二円	一三、八七四、七六二円	九五二、四六〇円	六、四〇八円	一六、〇〇九、八二一円	二一・三三三円
福井	一、六三二、七四七	二、一四二、七四二	一、〇五九、二五六	四三、六八〇	四、八七八、四二五	八・一五九
山梨	六、五〇四、二一三	四二一、二一七	七〇五、七七七	—	七、六二一、二〇六	一三・六八八
長野	三、九七〇、七九八	二、九八三、二三五	三、三七〇、七三五	一八四、五九九	一〇、五〇九、三五七	六・四五一
岐阜	二、四七六、〇〇〇	五九五、三四八	一、五七〇、二五六	五七三、七六五	五、二二五、三六九	四・六〇五
静岡	七、六九七、七五一	九三一、一四八	二、二九九、〇八六	二〇二、〇八六	一一、一三〇、〇七一	六・六六〇
愛知	一〇、〇〇七、二四八	二四、六五六、〇四三	六四六、四二六	一〇九、二八九	三五、四一八、九九六	一五・二七〇
三重	四、二三六、三六七	三、二四九、八六八	二、〇四〇、八三四	六八、七九五	九、五九五、八六四	八・六六三
滋賀	二三二、〇〇〇	一三七、九三六	一、四五八、七二一	五〇、八〇二	一、八七九、四四九	二・八三七
京都	四、二四八、八六七	三一、三九六、二一三	二、七〇六、三四七	—	三八、三五二、四二七	二七・二七〇
大阪	五、一〇五、八〇〇	三〇八、一四一、〇四二	四五五、九六五	五一、八六九	三一三、七五四、六七六	一〇三・五五一
兵庫	一三、三三八、七〇八	八八、三三九、八八六	七、二八七、一三一	一、〇四五、九〇九	一一〇、〇〇一、六二四	四四・八一三
奈良	八四二、三四三	一、二七八、八〇六	八六六、二四七	—	二、九八七、三九六	五・一一七
和歌山	七九二、〇〇〇	二、九三三、七六七	六九〇、四八四	二、七六六	四、四一九、〇一七	五・六二一
鳥取	九、一六五、五六〇	五九三、二九一	八、一五三、五〇九	一八〇、一九八	一八、〇九二、五五八	三八・三一三
島根	一、四四二、六八二	六五一、九五三	五七二、五〇四	—	二、六六七、一三九	三・六九二
岡山	七九二、四〇〇	二、一一二、六八一	二、五三二、六九九	六五、二一五	五、四九二、九九五	四・四三五
廣島	六、五三五、二六三	五、九〇七、六六二	一、一二六、六八九	二七、三八三	一三、五九六、九九七	八・四〇五
山口	三六、二五九、九〇六	四、五九四、三四〇	一、一八九、八五三	—	四二、〇四四、〇九九	三八・四一二
德島	三、〇四一、〇二〇	一、九四一、〇〇八	九四九、〇五七	三二〇、三〇五	六、二五一、三九〇	九・〇六二
香川	四、二七八、九八八	二、一三三、九一八	三四九、九九七	—	六、七六二、九〇三	九・六五七
愛媛	四、六四八、三三四	三、〇七〇、九七〇	三、一〇九、三一二	—	一〇、八二六、六〇六	九・八七七
高知	九、四四二、九四七	一、三五六、九五七	三、〇二四、〇〇九	一〇九、〇三八	一三、九三三、九五一	二〇・二六七
福岡	一、一四四、七〇〇	一三、六九八、一三〇	一、二八四、六六九	—	一六、一二七、四九九	七・〇〇七
佐賀	四三七、九三七	五三三、二九五	五一八、五七四	六三一、二七〇	二、一一一、〇七六	三・〇八三
長崎	一、四五六、五〇〇	一〇、四三五、六二〇	一、八一八、六〇七	—	一三、七一〇、七二七	一一・七八〇
熊本	六、五六一、一六九	五、〇七五、〇〇三	一、二九〇、五一一	一〇九、一一五	一三、〇三五、七九八	一〇・〇五八
大分	三、二八四、四六一	二、二〇四、五四四	一、二一五、〇九七	八九六、二二〇	七、六〇〇、三二二	八・三〇五
宮崎	三、〇五二、一四三	二九七、四五四	八九二、七五八	四〇、四七七	四、二八二、八三二	六・一九七
鹿児島	三、四五一、六三四	九九二、八一六	二、三九九、五四七	一六九	六、八四四、一六六	四・六四九
沖縄	一、五八七、八五一	一四三、九〇六	二一三、五六三	—	一、九四五、三三〇	三・八四九
合計	三二九、三三五、九六九	一、〇二七、五二四、九〇三	一三二、二六九、六七〇	三五、一三六、一七二	一、五二三、二四六、七二四	三五・三三三

第六表（イ）地方債起債目的別表（明治年間各年末現在）

年次	教育費	衛生費	勸業費	土木費	其の他	舊債償還	合計
明治二六	九、八八一円	四、〇〇〇円	—円	九、〇七八、三〇〇円	—円	一、六二〇円	九、〇九三、八〇一円
二七	二三、三七八	四、〇〇〇	七五、五四五	九、九五三、七九〇	—	五、〇四〇	一〇、〇六一、七五三
二八	二五、三二六	二、六〇〇	七五、五四五	一〇、一八七、九一二	—	八、五五九	一〇、二九九、九三四
二九	四三、〇三三	四〇、四〇〇	七五、五四五	一〇、三五一、七〇〇	—	七、七三四	一〇、五一八、四一四
三〇	一〇五、三九五	三七、五四〇	七五、〇四五	一三、四九〇、七四六	—	二九、四三四	一三、七三八、一六一
三一	二〇四、七八七	八五、七二〇	八五、〇四五	一九、七三八、〇〇〇	—	一五〇、九二七	二〇、二六四、四八〇
三二	二三二、二九五	八五、四八〇	一七〇、四四四	二七、五九九、二二六	—	一四〇、八五二	二八、二二八、二九九
三三	三三六、四五六	八六、七四〇	二八五、九四一	三六、八二一、四四三	—	二〇八、八九二	三七、七二九、四七三
三四	一、六二四、六五六	一八、一三四	四七七、七九七	四一、三六五、一七四	—	二三五、〇四五	四三、七二〇、八〇六
三五	六、三四六、九六二	一、一二七、四八二	五〇二、三九一	四九、四六二、五三五	二、六六七、四〇三	一、〇一三、五八三	六一、一二〇、三五五
三六	七、四五六、三五三	一〇、六四〇、九四八	二、七二六、三五六	三三、〇〇四、一二一	一〇、四一九、〇九七	二、八七四、八七三	六七、一二一、七四七

明治三七	五、九四九、九五〇円	一一、三八四、二五五円	三、七二七、七三〇円	三九、四七七、七〇五円	一、〇七九、四〇六円	三、三七三、四六三円	六四、九九二、五〇八円
三八	四、二七二、四八一	一一、六八五、八八七	三、八二三、四〇二	三八、〇八六、八二三	七九一、三四九	三、九一〇、二四一	六二、五六九、一八三
三九	三、三九四、七九二	一一、九六八、六〇三	三、八五七、五六二	五三、九三二、四七五	六五七、二八〇	三、七七四、六四八	七七、五八五、三六〇
四〇	四、九〇三、六五四	一二、一六二、〇五七	一二、九四六、一四二	五一、六五〇、八五九	一、五七五、三七八	六、〇二八、〇二五	八九、二六六、一一五
四一	八、六五一、二六九	一三、三七三、四六八	一六、五五八、五四七	五一、六二六、五六一	三、九一三、八九〇	五、六九九、八八九	九九、八二三、六二四
四二	一一、八四七、一四三	二三、〇一〇、二三三	八、四四二、七四二	五一、四五七、二五六	三、五九九、〇四二	六五、五七七、二九八	一六二、九三三、七三四
四三	一三、五三〇、〇五三	二三、四三三、五六五	九、二五八、〇五七	五四、七二八、四九二	三、四九三、五三四	六五、〇六八、四九六	一六八、四九二、一九六
四四	一四、二五一、一二八	一七、六三七、〇七七	七、七二一、七二九	六三、五〇八、六五四	二、八六八、五五六	七八、六七九、六五二	一八四、六五六、七八五

第六表（ロ）　同上（大正年間各年度末現在）

年度	教育費	衛生費	勸業費	災害土木費	普通土木費	電氣及瓦斯事業費	社會事業費	其の他	合計
大正元	一四、六八二、九二六円	四八、九八一、八六八円	一五、二四四、二九九円	二八、三五四、五〇七円	六三、三〇八、六三一円	一三二、六二八、一四九円	—円	三、七六六、六五四円	三〇六、九五七、〇三四円
二	一三、四七三、〇〇一	五一、五三三、七七三	一七、四五四、九〇四	三二、四七六、五九三	六六、三九五、二六九	一三二、七二二、四九六	—	三、五七八、一三六	三二六、六三三、一六二
三	一一、一七〇、八五三	五五、一〇九、二七四	一六、四七七、六〇六	三六、一三四、五九〇	六八、二三七、一九三	一三四、三二五、三四九	—	五、一六七、二五〇	三三六、六〇二、一一三
四	一〇、一三五、四二六	五八、二二三、〇九七	一五、九〇〇、四二九	四一、五四一、七五八	六九、〇一七、一四三	一三六、九五九、四五八	—	五、一三三、四七八	三三六、八八九、七八九
五	九、五〇六、五三三	五八、一六二、三七五	一五、二八六、七八九	三九、二一四、四五四	六五、七九七、三九七	一四四、二六六、五六七	—	七、五五九、八一二	三三九、七九三、九二七
六	一〇、三二一、一〇三	七〇、八六六、七四四	一四、九七〇、〇六五	三七、〇九九、一五八	六六、八三五、八六四	一六九、二八四、八三七	—	八、〇四二、四四七	三七七、三一九、二一八
七	一三、二五七、七六七	七六、九七六、七七二	一三、一三四、〇八七	四三、五九三、三三四	六三、六六二、七六〇	一七三、四〇四、四二二	—	七、五七二、二六〇	三八九、五九一、二八二
八	一八、六〇六、四三九	七五、七五〇、五三一	一五、〇七二、二七四	四八、五五〇、四七七	六六、六五三、六七一	一八六、七二六、三三五	六、〇四九、一五五	六、七二九、八六〇	四二四、一三八、七四二
九	二九、七〇九、九一九	八三、四七五、六八八	三、一七二、三九一	七〇、一〇四、二九〇	八五、三四五、五三七	一九七、五二一、一三八	二一、九六二、九五七	一八、二七八、三九九	五〇九、五五九、三一九
一〇	四七、三〇五、九四〇	一二四、〇〇二、八八〇	六、四四七、二九四	七一、五四三、七二三	一三四、八九二、二一九	二三六、二〇〇、九〇九	三二、四八四、四七八	一一、五三〇、六一〇	六五四、四〇七、〇五三
一一	六二、九一九、三三八	一四八、〇〇六、六四四	三三、七一六、八九八	八四、〇五七、六七〇	一四一、三四九、三二九	二四三、一三二、八八〇	四五、六六〇、二八九	二九、四四一、一三三	七八八、二八三、一七〇
一二	七九、三四四、四二二	一三二、四三六、四二六	一〇、九六〇、四四五	八六、六四八、八二三	一三九、四四五、二六四	三〇五、九五三、〇七〇	六一、四五二、五二三	一〇八、二九二、一九〇	九二四、五三三、二二〇
一三	九四、一五九、〇五〇	一三七、六三六、二三三	二五、四六七、四三七	一一四、七四三、七五八	二〇八、八三九、三六一	三七三、四二八、七九七	九〇、二九六、二五九	七四、五六八、一三四	一、一一九、一三九、〇一八
一四	一〇二、七七七、四二五	一六〇、九八六、四七八	二一、五六一、八五七	一〇四、一九〇、四七八	二一〇、六〇四、三三三	四〇八、六五七、〇四〇	一二四、一二四、三九二	一三五、〇四〇、七三七	一、二六七、九四二、七三〇
昭和元	一三四、六五八、一一三	一七九、九七二、五七七	三五、二五四、二一六	一三三、〇〇一、九〇二	二七七、八一九、九八〇	四七二、六九五、五五四	一一三、九五五、四〇〇	一六五、八八八、九五三	一、五一三、二四六、七一四

第六表（ハ）　同上（昭和元年度末現在地方別）

府縣名	教育費	衛生費	勸業費	災害土木費	普通土木費	電氣及瓦斯事業費	社會事業費	其の他	合計
北海道	三、八二四、一〇五円	六、一八六、六九四円	八〇五、六九二円	一、九九六、七二八円	二九、九九八、二四九円	—円	二、二八六、六六九円	五、九〇二、四八九円	五一、〇〇〇、六二六円
青森	一、四八三、九八八	九三、二七二	三四二、五三六	一、五九三、五〇〇	二、五七二、〇八一	六二、六八三	九一七、五〇〇	四一六、二八一	七、四八〇、八三一
岩手	七六四、八一九	八一、七〇〇	—	四、六一〇、九一〇	六三八、三一四	三八八、八三三	五六二、一四八	一、八七三	七、〇四八、五九七
宮城	一、九四五、一六五	一、九九〇、四六〇	二、三八〇、六三四	四、四四八、三八二	八、六一二、五五五	八、六七五、九七九	五五六、六五七	四、六一一	二八、六一四、四四三
秋田	一、〇五二、一九一	二九四、七〇〇	七三五、一九一	三、〇二三、三一〇	一、八二五、九九五	六六、五六九	七六五、六一三	—	七、七五二、五六九
山形	二、五六二、四四九	七七七、五〇六	五一六、六〇一	二、四六六、四〇七	一、七六七、五六五	一、一四四、二八七	七七六、五〇〇	八七四、六七九	一〇、八八五、九九四
福島	二、五九五、七七三	一、五七〇、一七〇	七九、九一九	三、〇一八、五六八	二、六四四、五二八	—	一、一五九、七〇三	六九四、〇〇九	一〇、七六三、六六九
茨城	七〇四、四六九	五、〇〇〇	六九五、四〇二	七五、五〇〇	六五、一〇五	—	四一六、四〇三	—	一、九六一、八七八
栃木	七五八、〇三三	一、〇九六、一九六	三三〇、〇〇〇	二、八三五、五〇〇	二七、三七九	六七、二一一	五三三、八三六	—	五、六三八、一五五
群馬	四二四、六三四	一、二九四、六一〇	九、四〇九	一、八三二、一九〇	三四四、八一三	三三二、七九〇	一、七六〇、八〇三	—	五、九七九、三四九
埼玉	一、四五二、七九二	二三四、〇四三	二〇〇、〇〇〇	五、一八五、八五〇	六、四〇九、五五三	—	四三四、九三九	一、七九九、六四九	一五、七一六、八二六
千葉	三、二九一、一四六	一五二、六六六	三三六、二六六	六三三、五五三	五八二、二八三	—	五三五、四四九	一、六五〇、三二四	七、一六一、五八六
東京	一三、二三九、〇七四	四八、一九六、一一七	九、六五二、〇〇〇	一、七〇九、六七六	四〇、三八〇、〇一三	一六六、二一七、〇六七	三三、九二五、八八六	一〇四、七〇一、五八八	四〇七、〇三二、四八〇
神奈川	二九、四一六、四七二	一五、五二五、〇七二	四、二八七、二五六	二七、四〇九、五六三	一一、三三四、三七七	三、七七九、四八四	一五、〇七一、九三六	三〇、五三八、九三六	一五七、三四三、〇九六
新潟	一、八六三、二四四	三、三九〇、三六三	—	三、一八六、六〇〇	八、〇六二、三三三	四七、二四九	六八九、〇六三	一九七、〇六〇	一七、四三五、九〇一
富山	一、〇三二、三六〇	一一三、六四七	一四八、一六八	二、〇三五、九四三	二、四五二、八〇九	七、五七九、四七一	一、〇五九、三三六	三二、〇二四	一四、四五二、七五八
石川	九三五、八九八	三二、一〇四	三九三、一八一	六三八、八三五	三三四、九三四	一一、九八五、九五七	一、〇二七、九〇三	六七三、〇〇〇	一六、〇〇九、八二一

福井	九〇〇、九六七円	一、七九〇、六八〇円	二三九、三四二円	四九五、二三〇円	四三〇、八九〇円	九二、八三七円	五九九、四八九円	三三九、〇〇〇円	四、八七八、四三五円
山梨	一、〇三〇、三九四	三三〇、三四四	三六〇、〇〇〇	四、〇四一、四九六	一、一九四、六二一	二二四、五三四	四六四、八二七	五、〇〇〇	七、六二一、二〇六
長野	一、七八六、九〇一	三、一八九、三三四	三三五、六四一	一、二七〇、八〇〇	三、五〇二、六七六	—	四二一、〇二五	三、〇〇〇	一〇、五〇九、三五七
岐阜	一、一九四、〇二三	八九、四〇七	三一、〇七三	五九八、八三九	二、四九二、九〇八	一五八、七八〇	六四七、二三九	三、一〇〇	五、三二五、三六九
静岡	一、四五五、七七〇	四三三、八七六	二五九、四四二	四、五〇六、二九三	三、七六五、三四四	二五、三三三	五三八、九一二	一五五、一〇二	一一、一三〇、〇七一
愛知	一、四五九、五三六	六、七六九、八六一	四六九、二九〇	二、四二九、二五〇	七、六五五、〇三五	一二、五四〇、一〇〇	三、五九二、三二四	五〇四、七〇〇	三五、四二八、九九六
三重	一、一九八、〇三九	二、一六九、三二七	一、一四八、七六五	一、二四五、七七〇	三、〇一一、四三四	—	八二〇、四八六	一二、〇四三	九、五九五、八六四
滋賀	三二五、五二七	六二、九一六	八八五、五三四	—	一九七、九七五	—	四二八、四九七	—	一、八七九、四四九
京都	三、七四五、〇七八	三、八九二、四四九	一、四三四、五〇一	三、三六四、四〇〇	二、〇〇〇	六、三三七、八七八	七、三五二、九二二	一二、二二三、二〇〇	三八、三五二、四三七
大阪	二六、六八四、八〇一	三四、二〇九、一四四	七七五、三九二	七九八、九〇四	六二、三六四、一〇〇	一六四、二二九、九〇〇	二三、一七七、六三五	一、五二四、八〇〇	三一三、七五四、六七六
兵庫	一〇、九〇一、四四五	八、一九三、五〇五	二、六四八、三七五	六、九二九、三四五	四五、一八六、八七九	二九、四〇二、一八三	六、四八三、六四一	二六六、二五一	一一〇、〇〇一、六二四
奈良	四九九、七六二	一、一四〇、四二二	三五、七七五	三九五、〇〇〇	—	二九、七五〇	八八六、六九七	—	二、九八七、三九六
和歌山	三五八、二六〇	二、八六二、[illegible]九五	—	一、八五〇	四三三、五三九	—	七六三、六七三	—	四、四一九、〇一七
鳥取	八三七、一五二	六〇五、三〇一	五九七、八三〇	一四、八二二、八一三	四四七、九二一	七、四七〇	七二三、〇〇八	六三、〇八三	一八、〇九二、五五八
島根	四九二、〇八七	三七六、七〇九	—	三四九、五〇四	七二二、七九八	三三、一二一	六九六、六三七	六、二八三	二、六六七、一三九
岡山	六九七、八〇三	一、九五六、九九〇	四三五、四〇〇	九四、九〇八	六〇四、一九三	—	一、四三四、一〇八	二七九、五四四	五、四九二、九九五
廣島	三、八九〇、八二七	三、八〇八、一六七	七二、八二四	五、〇三二、三〇八	五七、五三八	五九、八三八	六七五、五二五	—	一三、五九六、九九七
山口	九〇一、四八〇	二、六八〇、五四九	七五四、六八五	三六二、八四一	二、九四七、一六八	三三、六五七、五三六	七三九、八四〇	—	四二、〇四四、〇九九
徳島	一、三六四、二〇四	一、七〇〇、四二五	三三、六〇二	四九〇、〇〇〇	二、〇七〇、〇七四	—	五八〇、〇九五	一三、〇〇〇	六、二五一、三九〇
香川	二六三、九七一	一、八〇〇、六九七	—	一、三二一、〇〇〇	二、二四六、三〇〇	—	一、一四〇、九三五	—	六、七六二、九〇三
愛媛	一、一七七、五六九	一、二九六、九〇一	四四二、五八八	三、六九二、七三三	二、九四七、七四〇	七、七七〇	一、〇三六、一六一	二三七、一四四	一〇、八二八、六〇六
高知	六二六、八九四	一、〇三六、五三七	一五六、三九九	八、六二〇、六五八	一、六二一、五二九	一、四四九、九三四	三五八、八〇〇	八二、二〇〇	一三、九三三、九五一
福岡	一、一五七、六〇四	九、二七四、六五一	九七九、五八九	六六一、一一九	三、〇四一、〇八〇	六一、二二四	九五三、三四二	—	一六、一二七、四九九
佐賀	二六〇、六[illegible]一	三三八、八四二	八六六、九五九	一三二、五九三	九、八九〇	—	四七七、八〇四	三四、三二七	二、一二一、〇七六
長崎	一、七九七、三九五	五、〇九〇、六二六	一五九、二七八	八八七、八一七	三、五二四、九〇九	九八、四六九	二、一六二、三三三	—	一三、七一〇、七二七
熊本	一、二二二、八八一	九八〇、五五一	—	七四四、七六一	五、二五五、二六五	三、五四五、〇〇〇	一、〇六八、五〇〇	二二八、八四〇	一三、〇三五、七九八
大分	五〇三、七一八	一、八九〇、四七六	—	一、四八一、一五三	一、〇三〇、〇一一	—	一、二四五、一〇八	一、四四九、八四七	七、六〇〇、三一三
宮崎	四一七、八六一	三九三、九三九	八一九、七四一	一、〇四六、三三一	五一九、〇二三	四〇七、三三七	四九三、五四五	一八五、〇六六	四、二八二、八三三
鹿兒島	九五七、三六四	五九五、九〇六	—	一、五三一、七八四	二、一〇〇、三〇三	—	一、四一〇、九五九	二五七、九五〇	六、八四四、一六六
沖縄	二四〇、六五七	—	四三九、九六六	二、四〇〇	五四四、九九三	—	一五五、三〇四	五六〇、〇〇〇	一、九四五、三二〇
合計	一三四、六五八、一三三	一七九、九七二、五七七	三五、二五四、二二六	一三三、〇〇一、九〇二	二七七、八一九、九八〇	四七二、六九五、五五四	一二三、九五五、四〇〇	一六五、八八八、九五三	一、五二三、三四六、七一四

第七表　起債目的別道府縣債表

年度	教育費	衛生費	勸業費	災害土木費	普通土木費	電氣及瓦斯事業費	社會事業費	其の他	合計
大正元	一、六三三、二四九円	六三〇、九八九円	四六四、四五九円	二六、七四二、〇二四円	七、四四二、九一七円	—円	—円	四一七、五七七円	三七、三二一、二〇五円
二	一、一四一、六〇四	六七〇、二七二	七八四、二〇八	三〇、九〇五、二三三	一〇、三四四、三八一	—	—	三五二、四八〇	四四、一九八、一六七
三	一、一三四、二五六	六一三、二九五	八〇六、〇三九	三四、四七二、〇二六	一一、三四三、七七〇	—	—	一、二二二、九六〇	四九、五八二、三四六
四	五九三、四九四	五〇四、九九三	七五〇、九八六	四〇、〇六八、四一六	一一、五一八、一四九	—	—	一、〇三五、四七七	五四、四七一、五一五
五	七五二、二六一	四四〇、六八二	六九九、三〇八	三七、八九七、〇二二	九、六八〇、六九四	—	—	三、四五九、四五三	五三、九二九、四一九
六	一、〇〇五、〇九〇	三一五、九〇八	九一二、二四九	三五、六一二、一一七	一三、五四四、八三七	—	—	三、七四六、五一七	五四、一三六、七一八
七	一、二〇四、七一八	四一三、六〇七	五九五、五九四	三九、九七八、五四二	一三、七四八、六一一	—	—	三、六一八、四〇四	五八、五五九、四七六
八	一、五七〇、〇一二	八〇四、八九五	一、一三五、五三〇	四五、七三八、三三一	一五、七三〇、七八六	—	九九六、〇〇〇	三、五五八、一五七	六九、五二三、七一一
九	三、二二八、七五六	一、三四二、四五〇	一、七八七、二八二	五九、六三八、八三四	三〇、六三二、三四一	二一五、〇〇〇	六、三三七、五〇〇	七、六九二、二一九	一一〇、六六四、三八三
一〇	四、三六二、八〇四	一、五三七、〇八五	七三六、八五〇	六二、六九二、八六七	四六、〇三七、七二五	四、六六一、〇〇〇	七、二六五、〇〇〇	五、五四二、三三六	一三二、八二四、五六七
一一	七、六八五、一四九	一、六二八、〇〇三	五、三〇二、一六二	七四、五五六、七五四	四二、四七〇、一五三	一五、一八二、九九九	一〇、二二一、七七五	七、九二六、二〇一	一六五、一五二、一九五
一二	七、七八二、〇九七	一、七〇三、六八四	八、二八一、三六一	七二、九五〇、五八三	五一、一四九、七四八	一六、九九三、〇〇〇	一八、二二九、〇九四	二六、一二四、九六九	一九三、二〇四、五三六

大正一三	二二、一二九、六三九円	二、一一五、二九一円	九、三三九、七四八円	八三、五七三、〇六六円	七〇、七三七、五九五円	四七、九〇八、二三九円	二五、五二一、八九九円	一八、八〇二、四六〇円	二六九、一二六、九三七円
一四	二一、四九〇、〇七三	二、五二七、二〇三	一一、四五〇、九二三	七八、〇五一、三四一	七五、四七八、三九四	四八、二七九、二七六	一三、六九四、一一五	四一、五一三、二六六	二八二、四七四、五九一
昭和元	一三、五一八、三二〇	二、八四五、五六〇	九、九八二、一〇五	九一、五五二、三三三	八四、五六三、四二八	五〇、三六一、〇三四	四三、三四七、六四四	三三、一五五、五六六	三三九、三三五、九六九

（備考）一、明治年間の調査不完全に付大正年間の分のみを掲ぐ。以下の諸表亦同じ。

二、本表は各年度末現在とす。以下の諸表亦同じ。

第八表（イ）　起債目的別市債表

年度	教育費	衛生費	勧業費	災害土木費	普通土木費	電氣及瓦斯事業費	社會事業費	其の他	合計
大正元	五、二五九、四七六円	四七、二二八、〇三二円	六、二五五、一四三円	一、〇〇四、七九五円	五三、三三五、五八五円	一三二、七八六、九六四円	—円	二、七二一、九二四円	二四七、六三二、九一八円
二	五、三〇六、七九八	四九、八六八、四六三	六、八五三、一六〇	一、〇一六、六五一	五三、二四四、四二七	一三一、七九〇、〇二二	—	三、〇一七、三五八	二五一、〇九六、八七八
三	四、八八二、五三一	五三、三一九、五三〇	六、八二八、三九八	九九二、三三一	五二、八九七、一五九	一三三、二二一、三三三	—	二、五八七、〇〇七	二五四、七二八、二五八
四	四、六三九、四六二	五六、四七三、三四四	六、七七八、五八三	八七一、九九九	五二、九九一、九四四	一三五、八三二、三四八	—	二、四八九、六六五	二六〇、〇六五、三四五
五	四、一一〇、一三三	五六、五五四、四六八	六、七七〇、二九〇	七五七、一四七	五一、九一八、九八五	一四三、一三三、五三九	—	二、三〇七、一七三	二六五、五四〇、七三四
六	四、二九二、一〇九	六九、四七〇、一二五	六、六〇五、〇四〇	八〇三、六二六	四九、八〇九、八二〇	一六八、一八一、三九一	—	二、二七一、五七八	三〇一、四三三、六八九
七	六、一五七、三三五	七五、二五五、二七五	五、四五七、六〇〇	六七五、三九七	四六、三五七、九九〇	一七二、二七六、五三一	—	二、二七九、四六七	三〇八、四五九、五九五
八	九、一七九、〇〇一	七三、一三〇、七二〇	七、五七七、三四〇	五八三、四〇〇	四五、五六二、八七一	一八四、六九六、二六〇	四、一九六、〇〇〇	一、七六〇、九〇一	三三六、六八五、四九三
九	一三、三七五、五四二	七九、〇八四、三八四	二五九、七五三	七四一、九二三	四五、四五七、一八四	一九四、二五一、三三五	一四、二七三、五五五	八、八〇四、二六三	三五六、二四七、九二八
一〇	二三、八三七、六五八	一〇八、四四四、一三六	五、三三〇、一六〇	一、一八一、三七五	七五、五八七、七〇二	二二七、九九八、七四九	二二、三〇二、〇四八	一、〇八五、三四七	四六五、七六七、一七五
一一	三二、〇二七、四七八	一三八、〇六八、一六四	二七、一五三、六二九	六八九、〇〇〇	七八、一五四、一六八	三三四、六六六、八二四	三〇、七〇六、〇八七	一六、七五一、六九〇	五四七、二一七、〇三〇
一二	四〇、五一九、三二八	一一八、七〇六、七七七	一、八二八、六九〇	三、三七九、二九八	六〇、七八五、三六八	二八五、〇八一、三三三	三七、一九一、三三三	七七、三六二、六八四	六二四、八四四、七六〇
一三	四五、四六五、五三三	一二〇、三二三、六三八	二二、六五〇、六五〇	一一、九九八、四八五	一〇九、九〇一、五三三	三三一、四五三、五六八	五五、二二一、一九九	五〇、七五二、九〇七	七二七、七四七、五〇三
一四	四七、七七六、八九〇	一四八、六六三、五四七	四、九七九、六〇五	九、八三八、一二五	一〇二、〇五七、八二六	三五六、五一八、二〇〇	八六、五三八、八一九	八三、三八三、四六三	八三九、七四六、四七四
昭和元	七一、三七三、八六三	一六七、六七〇、七七三	一四、八三二、〇五一	二二、九四一、三〇六	一四五、九九六、二六四	四一八、八三二、〇六一	五六、二二九、二九〇	一二九、六七〇、二九六	一、〇二七、五一四、九〇三

第八表（ロ）　同上（昭和元年度末現在六大都市の分）

都市名	教育費	衛生費	勧業費	災害土木費	普通土木費	電氣及瓦斯事業費	社會事業費	其の他	合計
東京	—円	四七、四二二、八〇〇円	三、五〇〇、〇〇〇円	—円	一七、二六六、一四三円	一六四、八二一、一二四円	一、六八一、七六三円	五四、四五七、五四四円	二八九、一三九、三七三円
京都	二、六七七、八四三	三、三二五、〇〇〇	—	—	—	七、五三七、二三四	四、七五八、三三三	一三、一三〇、〇〇〇	三一、四二八、二八九
大阪	七、八〇〇、九七九	二一、三六二、五五四	八〇〇、五〇〇	—	三四、六九九、八二〇	八四、七四三、一〇〇	四五、二四〇、四四二	—	二〇四、六四六、四九五
横濱	九、九三六、一〇〇	一〇、三六〇、六九七	六〇七、五〇〇	六、三七七、七七一	五、三七六、〇〇七	一三、一〇四、九九九	六、四二四、四三九	九、四八七、三七九	六一、六六四、八九二
神戸	八、八三〇、九〇〇	八、〇九三、七〇五	—	—	一七、七六一、三〇〇	三八、七三四、〇〇〇	一三、三九六、七六三	一、三六六、〇〇〇	八八、一八二、六六八
名古屋	四、一一八、〇〇〇	六、九四一、五三二	—	—	五、七六〇、〇〇〇	一九、二九五、一〇〇	一、三四九、六七九	—	三七、四六四、三〇〇
合計	三三、三六三、八二二	九七、四九六、二七七	四、九〇八、〇〇〇	六、三七七、七七一	八〇、八六三、二六九	三三八、二三四、六五七	七二、八四一、二九八	七八、四四〇、九二三	七一三、五一六、〇一七

第九表　起債目的別町村債表

年度	教育費	衛生費	勧業費	災害土木費	普通土木費	電氣及瓦斯事業費	社會事業費	其の他	合計
大正元	七、六五三、六二〇円	一、〇三九、一九七円	一、四八四、八七九円	三一七、八四三円	一、二八一、二三四円	—円	—円	一、二四二、二二一円	一三、〇一八、九七四円
二	五、九〇三、四八〇	九〇一、〇三八	一、七六五、二三九	三三〇、六四五	一、三五三、四八六	—	—	九五六、二四九	一一、二〇九、〇三七
三	五、〇六七、〇七九	一、〇八三、四五九	一、七三九、五四二	三三八、五一〇	一、九〇三、二八七	—	—	一、八七九、四七二	一二、〇〇一、三四九
四	四、八三八、九一六	一、一四二、七六〇	一、三五五、三四七	二九七、五九五	一、八二六、三六八	—	—	二、〇七九、五六四	一一、五四〇、五五〇
五	四、五九八、七二四	一、〇八一、五一七	一、二二一、五七〇	二七五、一四二	一、四五二、六二九	—	—	一、九八三、五五六	一〇、六〇二、一二八
六	四、八八二、六六二	一、〇〇二、六七九	一、一五七、九八四	三七一、二二四	一、一四四、六七〇	—	—	二、一五二、八〇五	一〇、七一二、〇一四
七	五、八三二、三九二	一、二三六、五三三	九一七、〇〇四	一、六二〇、三〇〇	一、二一〇、三五一	—	—	八六六、四五三	一一、六七三、〇二三
八	七、六七九、一四四	一、七五一、九七一	四四四、三三八	一、六四八、三三七	一、七〇九、一二九	—	七五四、〇〇〇	九三〇、九九四	一四、九一七、九一三
九	一二、二〇三、六三四	三、〇四八、八五四	九八、二三〇	八、六七九、二六八	一、七〇七、五〇四	一、三〇八、〇二三	一、三四八、八二五	六一三、七四一	二九、〇〇八、〇七九
一〇	一七、五九四、六八五	四、〇二〇、六五九	三一〇、〇八六	六、四二七、九五六	二、三六七、八六四	一、八二〇、九八二	二、七〇五、一五四	三、八七五、七〇九	三九、一一三、〇九五

大正一一	二三、八三六、六四六円	八、二八七、三八五円	八六九、〇八〇円	七、三八一、八六一円	三、五三五、〇四六円	二、二〇二、〇七六円	四、五五五、七二四円	四、五八六、六七七円	五五、二五四、四八五円
一二	三二、〇四三、九九六	一三、〇三五、九五五	八三六、三三七	八、七六〇、四一九	六、八七八、六三六	三、八七八、七四八	六、〇四二、〇九五	一三、一九二、七八〇	八一、六五五、八六六
一三	三七、五六三、八七八	一五、二〇七、三〇三	一、三三五、五六六	一八、一二七、一四二	七、〇六九、五六九	四、〇六六、九九〇	九、五七三、一六一	二、七七三、八七三	九五、五九七、四八二
一四	四三、五一〇、四五三	九、八〇五、七一八	三、六五七、三三四	一五、一八六、七七〇	八、一五三、〇七八	三、八五九、五六四	二三、九〇一、四五八	七、六三六、一一五	一二五、六九九、三九九
昭和元	四九、七六五、九六〇	九、四五六、二四四	八、八六九、七三六	一七、三六五、二八七	二〇、九七四、九七九	三、五二二、四五九	一四、三八八、四六六	六、九三六、五四九	一三一、二六九、六七〇

第十表　起債目的別組合債表

年度	勧業費	災害土木費	普通土木費	其の他	合計
大正元	五、三〇五、四三五円	一七三、一四二円	一、一二八、八二七円	二二六、一二七円	六、八三三、五三一円
二	六、三二二、四八〇	一五九、七八九	一、三一八、八七九	三四、六一四	七、八三五、七六二
三	六、二一一、八〇〇	二〇一、六八八	一、九〇八、三六〇	五五、九二八	八、三七七、七七六
四	六、一九五、〇五八	一八四、六一五	二、五一一、一二三	七六、八六三	八、九六七、六五九
五	五、八四八、六〇九	一九四、一一七	二、六〇二、三五七	二〇二、〇八三	八、八四七、一六六
六	五、五七七、四四三	二四四、九二一	三、二一〇、九三五	一四九、二六四	九、一八二、五六三
七	五、四六四、三四三	二四三、八七三	二、二三二、五〇九	一、一四一、七二九	九、〇八二、四五四
八	五、二四七、〇三八	三八三、一九一	三、四七二、六四〇	一、〇三八、五五四	一〇、一四一、四二三
九	九〇八、四五三	四九一、四〇五	七、三一五、二二六	一、一三五、六二六	九、八五〇、七一〇
一〇	三四、三二六	六八一、〇七三	一〇、六一七、六〇五	一、〇〇四、六一六	一二、三三七、六二〇
一一	三八、八三三	一、〇二一、五五六	一六、九六六、三三八	一五四、八九〇	一八、一八一、六一七
一二	二四、一五七	一、五五八、五一二	二〇、六三一、五一二	二、六一二、七五七	二四、八二六、九三八
一三	二、二五一、四六三	一、〇五五、〇六五	二一、一三〇、六七四	二、二三九、八九四	二六、六七七、〇九六
一四	一、四七四、〇九五	一、一一四、二四二	二四、九一六、〇三五	二、五一七、八九四	三〇、〇二二、二六六
昭和元	一、五八一、三三四	一、一四二、九八七	二六、二八五、三〇九	六、一二六、五四二	三五、一三六、一七二

第十一表（イ）　地方債利率別累年比較表

年度	無利子	五分未満	五分以上	六分以上	七分以上	八分以上	九分以上	一割以上	合計
大正元	一、九六二、六九四円	二一、四二九、二七一円	二三二、〇七八、七三五円	三九、九七三、二六四円	八、一八〇、八三四円	二、九四五、五二九円	三三、九七一円	一五三、七四六円	三〇六、九五七、〇二四円
二	四、〇六三、三四四	二四、四二〇、九二六	二三四、三二七、九八九	三九、三三七、三三三	一〇、二六五、〇一九	三、三七六、五〇七	七四一、六五四	一〇一、四九〇	三二六、六三三、一六二
三	八、一二一、五六五	二三、九二六、〇七六	二三一、三〇〇、七九五	四三、五三七、四六三	一一、一七一、〇一〇	七、一五七、二三五	一、二九八、一八七	一一九、七八三	三三六、六〇二、一一三
四	八、〇六八、〇二六	二五、八七二、六九〇	二三一、二〇〇、九七八	四六、七七七、〇七七	一三、八七一、四五九	一〇、八〇八、二四七	二二〇、二七〇	八一、〇四二	三三六、八八九、七八九
五	六、六三〇、三三〇	二四、六九二、五二六	二三七、〇六六、〇八九	四九、〇三七、〇三九	一五、一三〇、四八四	七、〇五〇、六九三	一五六、二七五	三〇、五〇一	三三九、七九三、九二七
六	七、五五二、〇三三	二五、〇六一、三〇八	二四一、六三三、二七一	九一、二二二、〇四七	一一、一七三、〇〇〇	五六四、七六〇	一二四、三三一	一一、四七九	三七七、三一九、二二八
七	九、二六九、一六一	二四、九八三、二五一	二四五、九六二、〇一九	九九、四八三、六九六	九、五八三、九〇七	二六二、九三七	一五、六九一	一一、六三〇	三八九、五九二、二六二
八	七、一九五、一六一	三八、一一五、〇三一	二四七、四四二、一〇五	一二六、四七五、〇三〇	一〇、九〇〇、二八七	三、九一六、七二五	七二、九一三	三三、五〇〇	四二四、一三八、七四二
九	一五、五四八、七六四	七四、〇〇〇、九五〇	二五二、八六六、九一五	一三〇、一〇三、三四六	二四、四二八、三六〇	二〇、五九三、二二五	一、六九一、九二五	三二六、八三四	五〇九、五五九、三二九
一〇	一四、四八二、四五〇	八一、二二三、六三二	二八二、八一四、七八七	一六六、三四二、三五九	七四、三九七、五〇六	二八、一〇三、八三三	六、六五五、四三九	三九七、一四七	六五四、四〇七、〇五三
一一	二〇、五八八、〇八五	九七、八九九、七四八	二七三、四〇六、九六九	二一五、四七一、六五八	一〇五、一五七、四一六	六三、八九三、四三四	一一、二六〇、〇二七	六〇五、八四三	七八八、二八三、一七〇
一二	一七、六六一、八九七	一四一、三四四、三五八	二九四、七三三、四〇一	二三三、〇九八、〇五七	一一五、九五一、五五〇	一一〇、〇七七、二二四	一九、五四一、四二〇	三、一〇五、三三三	九二四、五三三、一二〇
一三	二六、八四七、四八四	一六三、六一九、四七七	三一一、一三三、八一〇	二二四、三三〇、二四三	二二一、四六〇、〇四三	一五六、四二八、五〇三	三一、一七八、五六九	三、一六〇、八九一	一、一二九、一三九、〇一八
一四	二〇、三六三、二二三	一八二、三八六、五三七	三六一、〇〇六、一七九	二八二、三一〇、六四二	二九一、七四七、七二四	一〇六、八一七、五二三	二〇、三四八、九二二	二、九六三、〇〇三	一、二六七、九四二、七三〇
昭和元	二七、〇六三、五四四	二三〇、三八九、五九〇	四四八、五二三、七四三	三九〇、六一八、八八九	三三七、七七一、三五三	一六九、八三六、六四八	一六、三三六、四三三	二、七二七、五三六	一、五二三、二四六、七二四

第十一表（ロ）　同上（道府縣債）

年度	無利子	五分未満	五分以上	六分以上	七分以上	八分以上	九分以上	一割以上	合計
大正元	一、四七七、五〇〇円	二〇、五四八、八一九円	九、三九九、二七九円	二、四八四、九六八円	二、二八九、八四一円	一、一二〇、七九八円	—円	—円	三七、三二一、二〇五円
二	三、五七六、七五〇	二三、二七七、四三四	九、五六四、二三一	一、三二六、二七七	三、九五八、三七五	一、九五五、一〇〇	五五〇、〇〇〇	—	四四、一九八、一六七

大正三	五、八〇〇、五〇〇円	二三、一四七、五三四円	九、〇三三、〇五八円	一、二〇〇、一七六円	五、一五一、二一七円	四、三七〇、八六一円	八八〇、〇〇〇円	—円	四九、五八二、三四六円
四	五、七三八、一〇〇	二五、〇一二、七三四	九、二五七、三七一	一、〇四八、一二六	五、九七三、九一六	七、四五二、二六八	—	—	五四、四七一、五一五
五	四、九二四、一八九	二三、五五八、五〇〇	八、四〇五、三一九	四、〇六〇、一一四	七、五七六、三三一	四、四一五、〇六六	—	—	五二、九二九、四一九
六	五、一八五、〇三〇	二三、九二三、六五一	九、一六七、五二六	八、七七一、八〇五	七、〇八九、七〇六	—	—	—	五四、一三六、七一八
七	七、一七三、七一二	二四、〇三五、三六四	一一、八二四、二三一	一〇、一一八、二一九	五、四〇七、九五〇	—	—	—	五八、五五九、四七六
八	五、三五四、五六七	三二、三三四、七一二	一五、六五四、二〇〇	九、八六八、一一四	五、八四〇、四九九	六八一、六〇〇	—	—	六九、五三三、七一一
九	六、三三八、九三三	五五、五〇一、八七一	二五、〇七七、六四七	九、九三六、八三三	一三、二六四、七〇〇	六五四、四〇〇	—	—	一一〇、六六四、三八三
一〇	四、一八四、一九〇	五六、九五六、八三三	三五、六四四、一三五	一一、九六七、五三四	二〇、七七〇、九九六	三、〇四三、九〇〇	二五八、〇〇〇	—	一三三、八二四、五六七
一一	九、三三六、七五一	六五、四七四、七八二	三一、六七〇、七三九	一六、四八二、〇九六	二三、四九二、四三七	一九、五四七、四〇〇	二五八、〇〇〇	—	一六五、一五二、一九五
一二	四、二六四、四一〇	七八、二七二、四三七	三八、五六八、二七七	一一、六三四、一七五	二四、四八二、〇二三	三五、二三七、七六三	六九六、六一三	五八、八四九	一九三、二〇四、五三六
一三	一〇、九〇七、一八一	八五、七二七、二三六	六二、二〇九、九五三	一三、三三三、五三〇	二七、三三八、九四五	七〇、三三三、八七〇	二三九、四〇〇	五七、八二三	二六九、一二六、九三七
一四	四、二一九、二三〇	八二、五三三、八八五	七八、八〇六、一〇六	一三、七四七、二三六	四七、〇三九、二九一	五七、〇六五、七九三	一六三、〇五〇	—	二八三、四七四、五九一
昭和元	三、八二五、三一〇	一三〇、五三一、七七五	八二、八二六、一二八	一三、九四六、三五一	五六、九七〇、七五三	五二、一二九、六九四	九五、九六九	—	三三九、三三五、九六九

第十一表（八）　同上（郡債）

年度	無利子	五分未滿	五分以上	六分以上	七分以上	八分以上	九分以上	一割以上	合計
大正元	—円	一一、三〇〇円	一、一九六、〇一三円	四四、七三八円	一六四、一三八円	七四三、七一三円	—円	二、四八五円	二、一六一、三九五円
二	—	一〇、九〇〇	二、〇二七、四一三	三、八六〇	一四三、二三三	九六、六二六	—	一、二八七	二、二八三、三一八
三	—	一〇、九〇〇	一、一八一、九四五	—	一三〇、九一三	五六七、二二六	三一、四〇〇	—	一、九二二、三八四
四	—	九、一〇〇	一、〇八七、八二七	—	二二八、二五一	四九八、一四二	二一、四〇〇	—	一、八四四、七二〇
五	—	八、二〇〇	九九三、四六七	一二三、〇〇五	四二二、八六三	三三四、〇四五	一二、九〇〇	—	一、八七四、四八〇
六	三、五〇〇	七、三〇〇	一、四八六、〇七六	二〇六、一三三	一五一、二二六	—	—	—	一、八五四、二三四
七	六、六〇〇	七、〇〇〇	一、四〇九、八三三	三三四、四一八	六八、八八四	—	—	—	一、八二六、七三四
八	三、一〇〇	一一六、一〇〇	二、四五三、三八三	二三九、六四二	五二、九七七	五、〇〇〇	—	—	二、八七〇、二〇二
九	一三、一〇〇	二九五、三七七	二、一八四、九四五	二八〇、三二八	七五一、七七〇	一九〇、六〇〇	三、〇〇〇	六九、〇〇〇	三、七八八、一二〇
一〇	一六四、四〇〇	三一一、二七六	二、一八二、二八九	二三四、三四六	七三九、三四五	六三三、一〇九	七〇、一四五	四〇、六八六	四、三七五、五九六
一一	二三八、八〇〇	二八六、三七七	一、四二一、三〇四	九九、七二六	一八九、五六三	二一九、五三四	三二、五三九	—	二、四八七、八四三

第十一表（二）　同上（市債）

年度	無利子	五分未滿	五分以上	六分以上	七分以上	八分以上	九分以上	一割以上	合計
大正元	六一、八〇〇円	五八〇、〇〇〇円	二〇九、六〇六、七八四円	三五、一二八、六九七円	二、一五七、七四一円	八二、三七八円	二、七八〇円	一、七三九円	二四七、六二一、九一九円
二	四九、九四六	五七一、三〇〇	二一一、七〇三、三六八	三六、〇二〇、六六八	二、五〇〇、九九九	二五八、二九五	一、二九〇	一、〇一三	二五一、〇九六、八七八
三	四八、七一三	五六五、五〇〇	二一〇、九四九、〇一六	四〇、六五三、四三〇	二、〇〇四、一一三	四八一、二五〇	—	一六、二〇六	二五四、七一八、二五八
四	二四、〇〇〇	六八三、五〇〇	二一〇、八四六、〇七六	四三、九二七、三〇〇	三、七〇一、二四三	八六三、八二六	一九、四〇〇	—	二六〇、〇六五、三四五
五	一二、〇〇〇	五六八、五〇〇	二一七、九三三、六五一	四二、六四〇、八六九	三、六四〇、〇八八	七二八、七二六	一六、九〇〇	—	二六五、五四〇、七三四
六	二七、〇〇〇	六九一、五〇〇	二一九、六六五、二〇七	七八、六四八、二九六	一、九七四、八八二	一六二、四〇四	一四、四〇〇	—	三〇一、四三三、六八九
七	二六五、〇〇〇	二四一、二〇〇	二二〇、九二九、五七七	八四、二九九、九一七	二、六八八、六〇一	三五、三〇〇	—	—	三〇八、四五九、五九五
八	二六五、〇〇〇	四、三七三、五〇〇	二二五、七六一、六四三	一〇一、二七六、九八五	二、七六五、四二五	二、二三六、五四〇	六、四〇〇	—	三三六、六八五、四九三
九	五七四、一一二	一六、〇〇三、七二四	二一〇、二二五、七三四	一〇四、一七一、九七四	七、五七二、三〇四	一七、一八九、三九〇	四八一、九〇〇	二八、八〇〇	三五六、二四七、九二八
一〇	五四三、三五三	二〇、二三四、三二八	二二七、七九四、八五九	一四七、五八一、三七一	四七、六二〇、六六六	一八、八〇四、九〇八	三、一三九、〇〇〇	二八、八〇〇	四六五、七六七、一七五
一一	五二五、八五三	二五、七三九、二九七	二一八、八四五、八七九	一九一、三八五、六三三	七三、三九九、九〇六	三三、八三五、七七三	三、二八一、七〇〇	二〇三、〇〇〇	五四七、二二七、〇三〇
一二	一、〇九一、三五三	四七、六〇一、八七五	二二九、二三六、六九六	一九九、六六一、三八五	八一、〇八七、二〇一	六一、七五四、二九六	四、三八六、九七四	三五、〇〇〇	六二四、八四四、七八〇
一三	二、〇九一、八一一	六〇、五六五、九三〇	二一八、二九三、一五三	一八九、〇七七、六八二	一八二、一六七、四七三	七一、一九一、二五九	四、三六〇、一九七	—	七二七、七四七、五〇三
一四	一、七九三、〇五三	六五、七二七、二二九	二四六、四〇一、六八〇	二五一、一九一、三〇八	二三〇、三三六、四二九	四一、五七九、七八九	二、七一六、九九七	—	八三九、七四六、四七四
昭和元	七、四三〇、〇七三	七二、〇九二、一四六	三二〇、九八〇、〇五一	三五三、六八六、〇〇〇	一六二、一〇二、五八二	一〇〇、七二一、六五三	四九九、一九九	四、二〇〇	一、〇一七、五二四、九〇三

第十一表（ホ）　同上（町村債）

年度	大正元	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	昭和元
無利子	二八三、三九四円	三一九、八四八	二、一五二、七四二	二、二一〇、三五三	一、六〇三、〇六六	一、九八八、三五三	一、七四七、三四九	一、五八二、一四四	八、五三一、四四〇	九、三七七、八〇七	一〇、三七四、四八一	一三、〇〇二、七三三	一三、五四二、九三四	一四、〇九三、三九一	一五、四四五、一六〇
五分未満	二三七、五四五円	五三四、〇六三	一七五、〇四〇	一四〇、四五六	五五二、九〇二	四〇〇、二五七	五〇三、九八七	一、一四七、五五六	一、九七六、四六六	三、四七一、二三九	五、五三九、五七〇	一四、五三九、一一三	一六、四六四、八四九	三三、二五一、五七一	二六、四三八、七五九
五分以上	七、七五七、六二八円	六、六二一、六二六	五、九二一、六八八	五、五五三、七一三	五、三八八、九七五	五、二六〇、〇六三	五、六六五、二四〇	七、三七五、六五四	八、五三三、八〇七	九、七四七、二七九	一一、六八一、〇八四	一六、九四九、五六四	二〇、七四七、〇六六	二五、八七七、三三三	三一、〇一九、四七五
六分以上	一、一九七、八四五円	八七六、三七一	五六六、四六一	五四五、六六六	七二七、一七六	一、七九三、三四四	二、九一九、二四四	三、三六二、四四五	四、一六五、三五九	五、〇七三、六三三	七、〇四一、〇〇九	九、四七七、五七〇	一一、六三九、九三〇	一七、二三六、三三四	三二、八七七、三三八
七分以上	二、四二三、三二九円	一、九八二、五九二	一、八九二、五三九	二、〇一〇、一四六	一、五五〇、四三三	一、〇七三、一六六	六七六、四五四	一、〇七七、三二四	二、二六九、七五五	四、六五四、二五八	八、三〇五、三八一	八、九六〇、八二四	一〇、一三三、一四五	一三、五四四、六三〇	一五、七三二、三五〇
八分以上	七六四、一五八円	六三九、五四八	一、一三〇、一〇七	九六三、四六三	七二七、八〇三	一七九、八三九	一四一、五四二	三三四、八九七	二、二六〇、七四三	四、九五九、四一七	九、六七三、五四二	一二、四三六、四三六	一四、三三一、一五九	七、五四九、五三六	一四、三〇九、〇三五
九分以上	二六、〇〇七円	一四六、七九九	七九、五五五	五二、〇五三	三二、七八三	六、三六四	八、四八七	二五、七二三	一、〇六九、七七五	一、六三二、一一三	二、三四三、九九五	四、三五九、八七二	五、七二八、五六三	三、二二〇、三九四	二、八四八、〇三五
一割以上	一四九、一七九円	九八、一九一	九八、三三七	六六、八〇三	二九、〇〇一	一〇、七二九	一〇、八二〇	一二、二〇〇	二一一、七三四	三〇八、三六一	三九五、四三三	二、九四九、七七五	三、〇三九、八四七	二、九三六、二三〇	二、七〇〇、五三八
合計	一三、〇一八、九七五円	一一、三〇九、〇三七	一二、〇〇一、三四九	一一、五四〇、五五〇	一〇、六〇二、一二八	一〇、七一二、〇一四	一一、六七三、〇三三	一四、九一七、九三三	二九、〇〇八、〇七九	三九、一一三、〇九五	五五、二五四、四八五	八一、六五五、八六六	九五、五九七、四八二	一二五、六九九、三九九	一三二、二六九、六七〇

第十一表（ヘ）　同上（組合債）

年度	大正元	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	昭和元
無利子	一三九、〇〇〇円	一二五、八〇〇	一一〇、六〇〇	一〇五、六七四	一〇一、〇七五	九七、二五〇	九六、六〇〇	九〇、三五〇	二〇一、〇八〇	三一二、七〇〇	三三一、二〇〇	三三三、四一二	三〇五、五五八	三五七、五四〇	三六三、〇〇二
五分未満	五二、六〇八円	三七、二三〇	一七、一〇二	二六、九〇〇	四、四二四	三九、六〇〇	一九五、七〇〇	二五三、一六四	三三三、五三三	三一〇、〇七七	八五九、七三三	九四〇、九三三	八六一、四六二	一、八七三、八六二	一、三三七、九一〇
五分以上	四、一二九、〇三〇円	四、四二一、三五一	四、三二六、〇八八	四、四五六、九九一	四、三四四、六七七	六、〇四四、三九九	六、一三三、一三九	六、一九七、三三五	六、八五五、七八二	七、四四六、三三五	九、七九七、九六三	九、九八七、八六四	九、八八三、六三九	九、九三二、〇七〇	一三、六八七、〇九八
六分以上	一、一二七、〇一八円	一、一三〇、〇五七	一、一〇七、三九五	一、二三五、九八五	一、四八五、八七五	一、八〇一、四七〇	一、八二一、八九八	一、七二五、九七四	一、五四七、八五三	一、四九五、三九六	四六三、二〇五	一、三二四、九二七	一、二七九、一一〇	一、一三五、七六四	一、一〇九、二一〇
七分以上	一、一一五、八八三円	一、六七九、八二二	一、九九二、三二八	一、九六七、九〇三	一、九五〇、八八〇	八八三、〇二〇	七四一、〇一八	一、一六五、九二三	五六九、八三二	六二二、二四一	七七〇、一三九	一、四三二、五一三	一、八三二、四八〇	一、八二七、三七四	二、九六六、六六九
八分以上	二三五、四六三円	四二六、九三八	六〇七、七九一	一、〇三二、五四九	八五五、〇五三	三三二、五一七	八六、〇九五	六五八、六八八	二九八、〇九二	六六四、四九九	六一七、一八五	六六八、七二九	五九二、二二五	六三二、四〇四	二、七七六、二七六
九分以上	一五、一八三円	四三、五六五	三一一、三三三	一〇七、四一七	一〇三、六九二	九三、五五七	七、二〇四	三九、八〇〇	一三七、二五〇	一、五六七、一八二	五、三四三、七八三	一〇、〇九七、九五二	一一、八六〇、四一〇	一四、二五八、四八〇	一二、八九三、二二九
一割以上	三四四円	一、〇〇〇	五、三五〇	一四、二四〇	一、五〇〇	七五〇	八〇〇	一〇、三〇〇	一七、三〇〇	一九、三〇〇	七、四二〇	六一、六〇九	七三、二二三	二五、七七二	一二、七八八
合計	六、八一三、五二八円	七、八三五、七六三	八、三七七、七七六	八、九六七、六五九	八、八四七、一六六	九、一八二、五六三	九、〇八二、四五四	一〇、一四一、四二三	九、八五〇、七二〇	一二、三三七、六二〇	一八、一八一、六二七	二四、八二六、九三八	二六、六七七、〇九六	三〇、〇二二、二六六	三五、一三六、一七三

第十二表（イ）　地方貸付資金供給額表（累年比較）

年度	大正元	二	四	五	六	七
小學校建築費	一、二九五、七〇〇円	—	—	—	—	—
各種學校建築費	六二、一〇〇円	—	—	—	—	—
用悪水費	一、一四六、九〇〇円	六二九、二〇〇	六五〇、〇〇〇	五二九、二〇〇	七一三、七〇〇	八五八、六〇〇
道路橋梁費	三七七、一〇〇円	—	—	—	一四、三〇〇	三三七、一〇〇
治水堤防費	一八二、八〇〇円	—	—	—	一、〇〇〇	三、〇〇〇
埋立事業費	六〇、一〇〇円	四四、五〇〇	—	—	—	五〇〇、〇〇〇
港灣改良費	三三六、九〇〇円	—	—	—	—	—
上水道費	四〇四、五〇〇円	四九二、〇〇〇	—	—	—	一、〇四五、〇〇〇
下水道費	八五、二〇〇円	七〇、〇〇〇	—	—	—	一六一、三〇〇
河川改良費	一〇五、〇〇〇円	—	—	二六、一〇〇	三三、四〇〇	二、四五〇、九〇〇

年度	電氣事業費	瓦斯事業費	傳染病舍費	農業倉庫費	灌漑費	開墾事業費	其の他	計	舊債借替	合計
大正八	七九、四〇〇円	—円	九三八、三〇〇円	一、一三六、八〇〇円	一、九〇〇円	五〇〇、〇〇〇円	八二〇、三〇〇円	一、一二九、三〇〇円	八〇、〇〇〇円	三、一四〇、一〇〇円
九	—	—	四四、〇〇〇	一、五八八、二〇〇	七、〇〇〇	四五八、八〇〇	七六一、五〇〇	四、四七四、二〇〇	二九二、一〇〇	一、八七八、〇〇〇
一〇	—	—	一、〇四四、一〇〇	一、四六五、八〇〇	一三、〇〇〇	四七九、五〇〇	一、二四七、五〇〇	二、九五〇、三〇〇	一九三、五〇〇	五四〇、六〇〇
一二	—	—	一〇五、八〇〇	二七六、二〇〇	—	一三六、五〇〇	五三二、一〇〇	一、四四一、二〇〇	一九二、五〇〇	六八六、六〇〇
一三	三二、三〇〇	—	三四〇、六〇〇	八八一、二〇〇	—	三〇六、二〇〇	一、一五〇、八〇〇	一、四六三、九〇〇	三三〇、一〇〇	八〇〇、六〇〇
一四	—	—	三五、七〇〇	三三〇、一〇〇	四三三、七〇〇	二七四、〇〇〇	一、三〇一、九〇〇	二、三九二、八〇〇	二一、三〇〇	八九三、七〇〇
昭和元	—	—	七一、六〇〇	九四、八〇〇	五九四、一〇〇	一九四、四〇〇	一、一四三、七〇〇	二、二八五、一〇〇	三二二、二〇〇	一、六八四、二〇〇

年度	電氣事業費	瓦斯事業費	傳染病舍費	農業倉庫費	灌漑費	開墾事業費	其の他	計	舊債借替	合計
大正元	三六三、一〇〇円	二〇〇、〇〇〇円	六〇、〇〇〇円	—円	—円	—円	一、〇二四、一〇〇円	五、五九三、五〇〇円	一、一三六、三〇〇円	六、七二九、八〇〇円
二	一六九、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	一、四〇四、七〇〇	二八、八〇〇	一、四三三、五〇〇
四	—	—	—	—	—	—	—	六五〇、〇〇〇	—	六五〇、〇〇〇
五	—	—	—	—	—	—	—	五五五、三〇〇	三五三、六〇〇	九〇八、九〇〇
六	二七五、〇〇〇	—	一、六〇〇	一、五〇〇	—	—	—	一、〇四〇、五〇〇	二、一八九、六五〇	三、二三〇、一五〇
七	三六五、五〇〇	六五、五〇〇	九〇〇	—	—	—	—	五、六七七、八〇〇	二二五、四〇〇	五、八九三、二〇〇
八	一、六三六、二〇〇	—	一二二、三〇〇	—	—	—	一二三、〇〇〇	九、六八七、六〇〇	二六一、三〇〇	九、九四八、九〇〇
九	八〇七、一〇〇	—	一六八、六〇〇	—	—	—	一、四〇四、五〇〇	一二、八八四、〇〇〇	—	一二、八八四、〇〇〇
一〇	四七七、一〇〇	—	一九三、六〇〇	—	—	—	一、四〇三、三〇〇	九、九〇七、三〇〇	—	九、九〇七、三〇〇
一二	—	—	六四、〇〇〇	—	七九七、二〇〇	—	一三五、六〇〇	四、三五六、七〇〇	五六七、五〇〇	四、九二四、二〇〇
一三	—	—	一〇〇、三〇〇	—	一、一五八、五〇〇	八八、八〇〇	五〇、一〇〇	六、六八三、四〇〇	一、七七七、一〇〇	八、四六〇、五〇〇
一四	—	—	一九、四〇〇	—	一、二二三、七六〇	—	三二九、六〇〇	七、二一五、九六〇	一、八四六、九〇〇	九、〇六二、八六〇
昭和元	—	—	一二、六〇〇	—	二、八四七、八〇〇	一五、〇〇〇	二、七五四、一〇〇	一二、九〇八、六〇〇	七五七、三〇〇	一三、六六五、九〇〇

（備考）大正三年度は供給せず、同十一年度は調査資料なきを以て省く。

第十二表（ロ）　同上（昭和元年度團體別）

地方別	道府縣 團體數	道府縣 供給額	市 團體數	市 供給額	町村 團體數	町村 供給額	水利・土功組合 團體數	水利・土功組合 供給額	合計 團體數	合計 供給額
北海道	—	—円	一	八九、〇〇〇円	一	七五、〇〇〇円	四三	二、四二七、七〇〇円	四五	二、五八一、七〇〇円
青森	一	六五、七〇〇	—	—	一	二、〇〇〇	二	六、〇〇〇	四	七三、七〇〇
岩手	—	—	—	—	一	四、四〇〇	—	—	一	四、四〇〇
宮城	一	四八六、一〇〇	—	—	四	二六、七〇〇	—	—	五	五一二、八〇〇
秋田	—	—	—	—	—	—	二	四〇、七〇〇	二	四〇、七〇〇
山形	一	一五四、三〇〇	—	—	—	—	三	六二、五〇〇	四	二一六、八〇〇
福島	一	一八、九〇〇	二	一四〇、三〇〇	二	一〇、五〇〇	一	八、五〇〇	六	一七八、二〇〇
茨城	—	—	—	—	—	—	三	九三、五〇〇	三	九三、五〇〇
栃木	—	—	—	—	—	—	一	二、一〇〇	一	二、一〇〇
群馬	—	—	一	一五三、三〇〇	—	—	—	—	一	一五三、三〇〇
埼玉	一	三八三、九〇〇	—	—	—	—	—	—	一	三八三、九〇〇
千葉	—	—	—	—	—	—	二	二、三〇〇	二	二、三〇〇
東京	一	二九二、四〇〇	一	九九、〇〇〇	一	一七二、〇〇〇	—	—	三	五六三、四〇〇
神奈川	一	七九、二〇〇	一	九〇〇、〇〇〇	三	三三三、一〇〇	—	—	五	一、三一二、三〇〇
新潟	一	二九六、六〇〇	一	二二三、〇〇〇	—	—	六	九二、四〇〇	八	六〇一、〇〇〇
富山	一	二七四、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	一	二七四、〇〇〇
石川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福井	一	一六七、二〇〇	—	—	—	—	一	四、九〇〇	二	一七二、一〇〇
山梨	—	—	—	—	三	七六、八〇〇	—	—	三	七六、八〇〇

長野	―	―円	―	―円	五	五七、九〇〇円	―	―円	五	五七、九〇〇円
岐阜	―	―	―	―	三	六六、二〇〇	四	一六七、二〇〇	七	二三三、四〇〇
静岡	一	一四六、二〇〇	二	五一五、三〇〇	一	三六、〇〇〇	一	五、〇〇〇	五	七〇二、五〇〇
愛知	一	六六、〇〇〇	二	二一九、五〇〇	一	九、五〇〇	―	―	四	二九五、〇〇〇
三重	―	―	一	二九〇、〇〇〇	一	三〇、〇〇〇	―	―	二	三二〇、〇〇〇
滋賀	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
京都	―	―	―	―	一	二、一〇〇	一	三、〇〇〇	二	五、一〇〇
大阪	―	―	二	五三七、九〇〇	四	一五三、五〇〇	―	―	六	六八一、四〇〇
兵庫	一	二二四、七〇〇	二	二九三、六〇〇	四	三四、八〇〇	―	―	七	五四三、一〇〇
奈良	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
和歌山	―	―	―	―	一	一、八〇〇	―	―	一	一、八〇〇
鳥取	一	一四七、七〇〇	一	一三、五〇〇	二	三三、〇〇〇	二	一、六〇〇	六	一九五、八〇〇
島根	一	五八、〇〇〇	―	―	―	―	―	―	一	五八、〇〇〇
岡山	一	二三三、六〇〇	―	―	四	一九、八〇〇	二	三、七〇〇	七	二五七、一〇〇
廣島	―	―	―	―	一	一、一〇〇	―	―	一	一、一〇〇
山口	―	―	二	一八九、九〇〇	―	―	―	―	二	一八九、九〇〇
徳島	―	―	―	―	一	一、五〇〇	二	一八、一〇〇	三	一九、六〇〇
香川	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
愛媛	一	二九、〇〇〇	二	九七、五〇〇	二	二六、七〇〇	一	三、〇〇〇	六	一五六、二〇〇
高知	一	三三九、二〇〇	―	―	一	四八、〇〇〇	―	―	二	三八七、二〇〇
福岡	―	―	二	一三五、一〇〇	―	―	―	―	二	一三五、一〇〇
佐賀	―	―	―	―	一	五〇、二〇〇	一	一二、〇〇〇	二	六二、二〇〇
長崎	―	―	―	―	二	二二、一〇〇	―	―	二	二二、一〇〇
熊本	一	六八三、〇〇〇	―	―	―	―	―	―	一	六八三、〇〇〇
大分	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
宮崎	一	一三六、三〇〇	―	―	二	六九、二〇〇	―	―	三	二〇五、五〇〇
鹿兒島	一	一〇六、〇〇〇	一	一五、八〇〇	一	四、四〇〇	―	―	三	一二六、二〇〇
沖繩	一	八八、六〇〇	―	―	―	―	―	―	一	八八、六〇〇
合計	三	四、四六六、六〇〇	二四	三、八九〇、七〇〇	五四	一、三六五、三〇〇	七八	二、九四三、三〇〇	一七八	一三、六六五、九〇〇

第十二表（八）　同　上（昭和元年度事業別）

地方別	土木費		灌漑排水費		衛生費		勸業費		其の他		合計	
	團體數	金額	團體數	金額	團體數	金額	團體數	金額	團體數	金額	團體數	金額
北海道	―	―円	四三	二、四一七、七〇〇円	一	八九、〇〇〇円	―	―円	一	七五、〇〇〇円	四五	二、五八一、七〇〇円
青森	一	六五、七〇〇	二	六、〇〇〇	―	―	―	―	一	二、〇〇〇	四	七三、七〇〇
岩手	―	―	―	―	―	―	―	―	一	四、四〇〇	一	四、四〇〇
宮城	一	四八六、一〇〇	―	―	一	一三、四〇〇	―	―	三	一三、三〇〇	五	五一二、八〇〇
秋田	―	―	一	一三、六〇〇	―	―	―	―	一	二七、一〇〇	二	四〇、七〇〇
山形	一	一五四、三〇〇	三	六一、五〇〇	―	―	―	―	―	―	四	二一五、八〇〇
福島	―	―	一	八、五〇〇	一	二八、八〇〇	―	―	四	一四〇、九〇〇	六	一七八、二〇〇
茨城	―	―	三	九三、五〇〇	―	―	―	―	―	―	三	九三、五〇〇
栃木	―	―	一	二、二〇〇	―	―	―	―	―	―	一	二、二〇〇
群馬	―	―	―	―	一	一五三、三〇〇	―	―	―	―	一	一五三、三〇〇
埼玉	一	三八三、九〇〇	―	―	―	―	―	―	―	―	一	三八三、九〇〇
千葉	―	―	二	二、三〇〇	―	―	―	―	―	―	二	二、三〇〇
東京	一	二九三、四〇〇	―	―	二	二七〇、〇〇〇	―	―	―	―	三	五六三、四〇〇

神奈川	三	七〇七、二〇〇円	—	—円	二	三〇〇、〇〇〇円	—	—円	二	三〇四、一〇〇円	七	一、三一一、三〇〇円
新潟	二	三九六、六〇〇	五	四三、九〇〇	一	一一三、〇〇〇	—	—	一	四八、五〇〇	九	六〇一、〇〇〇
富山	一	二七四、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	一	二七四、〇〇〇
石川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
福井	一	一六七、二〇〇	一	四、九〇〇	—	—	—	—	—	—	二	一七二、一〇〇
山梨	—	—	—	—	三	七六、八〇〇	—	—	—	—	三	七六、八〇〇
長野	—	—	—	—	二	三六、八〇〇	一	一五、〇〇〇	二	六、一〇〇	五	五七、九〇〇
岐阜	一	四一、六〇〇	四	一五八、八〇〇	一	四、五〇〇	—	—	一	二八、五〇〇	七	二三三、四〇〇
静岡	二	六四六、二〇〇	一	五、〇〇〇	二	五一、三〇〇	—	—	—	—	五	七〇二、五〇〇
愛知	一	六六、〇〇〇	—	—	二	二一九、五〇〇	—	—	一	九、五〇〇	四	二九五、〇〇〇
三重	一	三〇、〇〇〇	—	—	一	二九〇、〇〇〇	—	—	—	—	二	三二〇、〇〇〇
滋賀	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
京都	—	—	二	五、一〇〇	—	—	—	—	—	—	二	五、一〇〇
大阪	—	—	—	—	四	六七七、四〇〇	—	—	二	四、〇〇〇	六	六八一、四〇〇
兵庫	二	三九五、七〇〇	—	—	四	一三五、六〇〇	—	—	一	三、八〇〇	七	五四三、一〇〇
奈良	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
和歌山	—	—	—	—	一	一、八〇〇	—	—	—	—	一	一、八〇〇
鳥取	三	一七〇、二〇〇	二	一、六〇〇	一	二四、〇〇〇	—	—	—	—	六	一九五、八〇〇
島根	一	五八、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	一	五八、〇〇〇
岡山	一	二二三、六〇〇	五	三二、〇〇〇	—	—	—	—	一	一、五〇〇	七	二五七、一〇〇
廣島	—	—	—	—	一	一、一〇〇	—	—	—	—	一	一、一〇〇
山口	一	四五、〇〇〇	—	—	一	一四四、九〇〇	—	—	—	—	二	一八九、九〇〇
徳島	—	—	—	—	一	一、五〇〇	—	—	二	一八、一〇〇	三	一九、六〇〇
香川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
愛媛	二	一三三、六〇〇	一	三、〇〇〇	—	—	—	—	三	三〇、六〇〇	六	一六七、二〇〇
高知	一	二五九、一〇〇	—	—	一	四八、〇〇〇	—	—	—	—	二	三〇七、一〇〇
福岡	—	—	—	—	二	一三五、一〇〇	—	—	—	—	二	一三五、一〇〇
佐賀	—	—	一	三二、〇〇〇	一	三〇、一〇〇	—	—	—	—	二	六二、一〇〇
長崎	一	六、一〇〇	—	—	一	八、八〇〇	—	—	一	六、一〇〇	三	二一、〇〇〇
熊本	一	六二一、〇〇〇	—	—	—	—	—	—	一	七三、〇〇〇	二	六九四、〇〇〇
大分	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮崎	三	二〇五、五〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	三	二〇五、五〇〇
鹿兒島	二	一三一、八〇〇	—	—	一	四、四〇〇	—	—	—	—	三	一三六、二〇〇
沖縄	一	八八、六〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	一	八八、六〇〇
合計	三六	六、一〇八、五〇〇	七八	二、八六一、六〇〇	三九	二、八六七、一〇〇	一	一五、〇〇〇	二九	八二三、六〇〇	一八三	一二、六七五、八〇〇

第八編附表

附表第一　國債整理基金特別會計歲入歲出決算額一覽表（圓位以下切捨。*印は單位に滿たざるもの。）

科目	明治三十九年度	同 四十年度	同 四十一年度	同 四十二年度	同 四十三年度	同 四十四年度	大正元年度
歲入							
一般會計より繰入金	二〇六、四九三、七九五円	一七二、一三三、三〇八円	一七四、一六二、九〇三円	一四九、〇三二、五七七円	一六三、四六九、九五六円	一三九、五八九、〇三八円	二三五、〇三九、五五六円
臺灣總督府特別會計より繰入金	二、〇四四、三三一	二、二五七、一四九	二、六七七、六二九	四、一四八、二二五	五、八六四、四五〇	六、二七五、二〇九	四、五二九、八五二
朝鮮總督府特別會計より繰入金	—	—	—	—	—	一、三四八、〇六四	一、九九九、一〇二
帝國鐵道會計より繰入金	—	—	—	三一、〇四五、四九二	三一、四二六、二三八	三一、九〇九、四六一	三五、六七二、六〇三
治水費資金特別會計より繰入金	—	—	—	—	—	二四五	九四、二五三
公債募集金	一四二、七五三、九〇三	二二五、三六四、一二二	二七、八三二、八三一	七八、〇二二、八〇五	四四七、六六七、七〇八	五五七、八八七	四五、五九九、三八〇
特別資金繰入金	四、一七八、三七〇	—	—	—	—	—	—
前年度支拂未濟返納金	—	五、五四六、五七九	三、四二八、八九三	九	二五	*	—
利子收入	一、五〇九、四五六	二、五二五、二〇二	一三三、四五一	一〇六、六九〇	一三三、八七三	一二四、九三四	二六三、七九二
雜收入	一、七七二、八九六	二、五六三、六一六	一四四、六〇三	一五四、一九〇	四、〇四二	七、八八九	五、三四一
計	三五八、七五〇、七四三	四一〇、三八九、九七六	二〇八、三七七、三一二	二六二、四九八、九八〇	六四八、五六六、二九五	一七九、八〇二、七三三	三二三、一九三、八八〇
前年度より繰越金	—	三八、七〇一、一九一	五二、四〇七、七二六	二七、八五〇、九五八	三八、〇一一、五七五	八三、五五九、五四一	三〇、九六五、六四三
歲入合計	三五八、七五〇、七四三	四四九、〇九一、一六七	二六〇、七八五、〇三八	二九〇、三四九、九三八	六八六、五七七、八七〇	二六三、三六二、二七三	三五四、一五九、五二三
歲出							
國債償還	二〇一、八九二、二八七円	二三五、四九八、五六七円	九五、七九五、五三三円	一一四、五三八、七三二円	四六〇、四一〇、二一一円	一〇三、〇一七、九〇五円	五七、八七九、一〇三円
國債利子	一〇六、七三六、九九五	一三六、八九四、三三六	一三〇、九〇九、六七一	一三一、三三九、八二九	一三二、三三三、七九四	一一七、三七四、四五七	二一四、二九七、二五九
大藏省證券割引差額	五、五〇三、四五四	三、〇三六、三九六	二、一八二、五九六	一、八四七、二二八	一、二六五、八〇〇	二、九〇〇、〇〇〇	二、四七五、五〇〇
鐵道證券償還	—	—	—	—	—	—	二九、九七五、七〇〇
鐵道證券割引差額	—	—	—	—	—	一、六四二、五〇〇	二、六三七、四四七
借入金返償	四三三、六〇五	—	八〇〇、〇〇〇	一、一五〇、〇〇〇	三、三〇〇、〇〇〇	三、一〇三、七六四	一六、三七三、一二七
借入金利子	一、一三三、六五四	三、二六〇	一四三、二四八	四七七、八九四	一、三〇三、九八三	二、七七六、一六五	三、五九九、五三九
買收鐵道社債及借入金返償	二、八七二、六三二	一七、二五〇、三三九	二八二、五八五	一〇、五三六、九八〇	一〇四、二〇〇	一〇四、八七〇	一〇一、一〇〇
買收鐵道社債及借入金利子	三四九、三九六	一、三五〇、三三三	一、三五八、一五三	一、一二三、六八九	六六二、一〇五	六五四、二二七	六四六、一三六
舊韓國政府貨幣整理資金債償還	—	—	—	—	七、三八〇、一九六	—	—
舊韓國政府貨幣整理資金債利子	—	—	—	—	一八四、一九七	—	—
舊韓國政府起業資金債利子	—	—	—	—	—	一、一七七、六四二	一、一七二、一五五
國債事務取扱手數料	六二、七四〇	七三二、一五三	一、一五〇、九二五	一二四、八四九	一、一三七、二八五	五三七、五九六	五三五、一四〇
證書製造及發行費	一、〇二六、六六五	一、八七〇、三三〇	一六二、七八二	一、二九二、二七〇	五、八三九、七九六	五一、七四三	五五、四七七
國債雜費	三八、一二二	四三、六二五	一三三、一九七	三八、九一〇	八八、七六一	五五、七六八	八二、一三八
賠償金	—	一六、二〇九	—	—	—	—	—
煙草專賣法國庫債券端金	—	—	一八、三八六	—	—	—	—
計	三二〇、〇四九、五五〇	三九六、六八三、四四一	二三二、九三四、〇七九	二五二、三三八、三六三	六〇三、〇一八、三二九	二三二、三九六、六三〇	三二九、八一七、八二四
翌年度へ繰越金	三八、七〇一、一九一	五二、四〇七、七二六	二七、八五〇、九五八	三八、〇一一、五七五	八三、五五九、五四一	三〇、九六五、六四三	二四、三四二、六九八
歲出合計	三五八、七五〇、七四三	四四九、〇九一、一六七	二六〇、七八五、〇三八	二九〇、三四九、九三八	六八六、五七七、八七〇	二六三、三六二、二七三	三五四、一五九、五二三

科目	大正二年度	同 三年度	同 四年度	同 五年度	同 六年度	同 七年度	同 八年度
歲入							
一般會計より繰入金	一三二、二七四、四七五円	一三七、二九五、二四七円	一〇七、〇八二、〇四〇円	一〇六、九八五、〇九八円	一三六、八二三、五二九円	一三六、二二四、一一三円	一二一、二四八、五八九円
朝鮮總督府特別會計より繰入金	五、〇三〇、〇二六	四、七五二、九一〇	六、二四二、五三〇	四、七五九、一九六	四、七二〇、〇三四	七、六七四、六九二	六、〇三三、七三〇

臺灣總督府特別會計より繰入金	三,六九二,三一三円	四,二二七,二八〇円	五,六九六,六七四円	四,〇五三,三四三円	四,四八九,五三〇円	二,六八七,三五一円	三,一七七,〇六六円
樺太廳特別會計より繰入金	—	—	—	—	—	六一三	一〇〇,八七一
帝國鐵道會計より繰入金	三五,六七五,八四四	三七,二五五,四二六	三六,七八二,二五八	三九,八二五,三〇八	四二,四五一,三〇四	四三,三四〇,二二六	四三,八〇六,二〇三
朝鮮事業公債金特別會計より繰入金	一七,四〇〇,〇〇〇	—	—	—	二九,九九九,五〇〇	—	—
治水費資金特別會計より繰入金	六三〇,〇〇〇	八一六,七五〇	九八〇,七六四	—	—	—	—
臨時國庫證券收入金特別會計より繰入金	—	—	—	—	五,七五七,三九六	一八,三六八,〇三八	二七,三四四,六一三
公債募集金	一〇一,三五四,九五三	三九,〇五二,〇〇〇	三七,八五九,四九三	五八,八五四,一〇四	二六,六七〇,四四八	七九,三三九,三七六	三五八,四七一,六八三
前年度支拂未濟返納金	七九四	三,六九〇	—	—	—	—	—
利子收入	三〇七,〇六七	三三〇,六四九	三四六,一四一	六三二,二三五	一,二二二,九四一	七四九,六四六	二,七二四,三三五
雜收入	二〇,八二七	三五〇	六六五	四四三	八七〇	三一七	六一八
計	二九七,三八六,三〇一	二二三,七一三,三〇五	一九四,九八八,五五八	二一五,〇八八,七四九	二四一,一〇五,五四四	二七七,三七四,二七三	五五三,八九四,七〇〇
前年度より繰越金	二四,三四一,六九八	二〇,三三〇,二六二	三三,三七六,六三二	三一,七〇一,四九七	三八,三七四,五八九	六九,二九〇,四五四	九八,一一六,二九七
歳入合計	三二一,七二八,〇〇〇	二四四,〇四三,五六七	二二八,三六五,一九〇	二四六,七九〇,二四六	二七九,四八〇,一三三	三四六,六六四,七二七	六五二,〇一〇,九九八
歳出							
國債償還	五五,四二〇,九八七円	六六,五二五,五三八円	二五,九九七,六八三円	八六,五五九,九四三円	五九,六八五,七四九円	二七,九八〇,九九〇円	八八七,一三八円
國債利子	一一四,八一九,七三四	九四,七七三,五六六	一三二,四五九,八九二	一〇六,七五六,九〇四	一〇六,六九六,一三七	一一七,七五一,四六九	一五五,五八三,四七〇
臨時國庫證券償還	—	—	—	—	—	四九,九九七,五〇〇	三七五,〇四五,三三五
臨時國庫證券割引差額	—	—	—	—	二,五五五,〇〇〇	七,七三三,九五〇	六,四三三,六九〇
大藏省證券割引差額	一,四〇二,二四〇	—	七二三,一八二	—	—	—	—
鐵道證券償還	六四,六六八,八〇〇	二四,四〇七,五〇〇	二九,〇五九,六一五	—	—	—	—
鐵道證券割引差額	一,一五九,三五六	一,六八四,一一七	—	—	—	—	—
英貨鐵道債券償還	—	一四,六三九,六二八	四,八八一	—	—	—	—
借入金返償	五五,九六八,五五〇	一,二〇〇,七三〇	一一,三三七,一四三	五,五四〇,八七九	三〇,一六五,一八六	三三,七三七,七七七	一八,五三八,一九三
借入金利子	三,五〇〇,三三四	三,五八七,七一〇	五,一七六,八二三	六,九二四,四八九	七,九六八,三四九	八,二六六,六〇八	九,四五五,〇〇七
買收鐵道社債及借入金返償	一〇〇,一八〇	八〇	四四〇	二〇	—	—	—
買收鐵道社債及借入金利子	六四〇,七三三	六三二,〇三三	六三八,七八五	六三三,〇九三	六三三,八八七	六三一,〇六五	五三八,七五六
舊韓國政府起業資金債返償	—	一,五〇〇,〇〇〇	三,五〇〇,〇〇〇	—	—	—	—
舊韓國政府起業資金債利子	一,一七一,一一五	一,一三三,四〇五	一,〇九八,〇〇〇	八五一,八五九	八五一,八五九	八五一,八五九	八六二,〇五七
國債事務取扱手數料	五三三,六九〇	五三六,四九九	九七六	七二一,二六五	五九二,九〇五	一,四四九,二七六	一,〇四〇,七六六
證書製造及發行費	一,九七八,二七六	四〇,〇二五	二三五,五四一	—	—	—	—
國債雜費	五四,六九九	二七,一三三	三四,六〇七	四六八,一八一	一,〇四〇,六〇五	一,一五八,九一三	一,三四五,一四一
計	三〇一,四〇七,七三七	二一〇,六六六,九三五	二〇九,一四七,五七三	二〇八,四一五,六五七	二一〇,一八九,六七九	二四八,五四八,四三〇	五六九,七一七,五四五
翌年度へ繰越金	二〇,三三〇,二六三	三三,三七六,六三二	一九,二一七,六一七	三八,三七四,五八九	六九,二九〇,四五四	九八,一一六,二九七	八二,二九三,四五三
歳出合計	三二一,七二八,〇〇〇	二四四,〇四三,五六七	二二八,三六五,一九〇	二四六,七九〇,二四六	二七九,四八〇,一三三	三四六,六六四,七二七	六五二,〇一〇,九九八

科目	大正九年度	同十年度	同十一年度	同十二年度	同十三年度	同十四年度	昭和元年度
歳入							
一般會計より繰入金	九四,九四六,二九一円	一二二,〇三七,二八六円	一一五,一七三,七三〇円	一六三,一八二,三三〇円	一八七,九三九,七〇三円	三三一,四六三,〇三七円	三三三,三二八,八一九円
朝鮮總督府特別會計より繰入金	七,二〇二,一二八	九,二二六,七三三	一一,七〇〇,五三九	一三,六六三,四〇一	一三,二八三,〇一〇	一四,五九九,一三九	一五,一三〇,七三一
臺灣總督府特別會計より繰入金	三,一一〇,三一六	三,四四七,四七八	三,四三二,七二九	三,九七五,七三五	四,三三三,六九八	四,四九一,〇四〇	四,五八一,八六〇
樺太廳特別會計より繰入金	一九二,九一九	三九八,四三九	八二四,六七九	一,〇六一,〇九五	一,一四五,〇七五	一,三〇一,三七三	一,四〇八,一一〇
關東廳特別會計より繰入金	—	—	二六,一八三	五八,六〇二	五九,一一四	九八,三六八	九八,九三五
南洋廳特別會計より繰入金	—	—	—	—	—	三,六三一	三,八六三
帝國鐵道會計より繰入金	四八,四九〇,五七九	五三,七七五,〇三六	五七,九九四,三九二	六二,八六八,五七三	六五,三〇三,二四〇	六七,九三五,八六六	七一,一六六,五五八
臨時國庫證券收入金特別會計より繰入金	三五,八二八,四八六	三一,七三五,八五三	二九,三九七,五九〇	三五,四五五,八〇一	三三,六六四,九八八	—	—
米穀需給調節特別會計より繰入金	—	三,八二八	九,七一八,三七一	一〇,六六三,一一三	一四,三四四,六七四	一三,九八三,八七三	三,六四八,五七四

公債募集金	四四五、四六〇、六五〇円	三八二、四二八、〇〇七円	六〇五、五七九、〇三六円	六九二、八三〇、五九一円	九五四、七三二、一四六円	四九五、四七二、一四七円	三三六、四一七、九六〇円
雜收入	一、五九〇、二一九	二、三一三	四、三九七	五、八五三	二六、五五五	二〇、九二四	一三、〇五〇
前年度支拂未濟返納金	五三六、七九四	一、四三〇、三二〇	三〇三、七八八	二六、三八二	九、一六四	一〇、〇〇〇	—
利子收入	四、九六七、九九四	三、三二七、二七一	二、〇一三、四五四	二、二二二、六三九	五、〇三一、八四五	四、二七三、三三三	四、五八三、八〇九
計	六四二、三三六、三八一	五九七、八〇一、五三八	八三六、一五八、八九三	九八五、〇〇四、〇九九	一、二七九、七三九、二一六	八二三、六五〇、五四五	六七〇、二六一、二六三
前年度より繰越金	八一、二九三、四五二	一一一、四一三、五五一	四七、九三一、七九四	四九、五一五、四三三	六〇、〇四一、七六一	七四、五七〇、五六四	六九、四三四、八一七
歲入合計	七二三、六一九、八三三	七〇九、二一五、〇八九	八八四、〇九〇、六八八	一、〇三四、五一九、五三三	一、三三九、七八〇、九七七	八九七、二二一、一一〇	七三九、六九六、〇七九
歲出							
國債償還	三〇、三五五、二〇六円	一一三、四〇一、六四三円	二四三、四六五、一五〇円	三六四、一三三、一七八円	五九二、五三〇、〇一七円	二六〇、〇一三、八四三円	二五八、〇七八、八六七円
國債利子	一五五、九二四、五八五	一七八、四七四、二五七	一八六、二九九、五〇六	一九三、八五四、八三八	二八、二八六、〇七一	二三四、〇二九、一三八	二四七、〇二九、〇〇二
臨時國庫證券償還	三七五、四七五、四三五	三三三、四五三、二五〇	三三五、七四五、八七四	三〇四、四六四、二〇四	三二七、一六五、〇〇五	一九三、五八二、九〇〇	九九、七五九、八〇〇
臨時國庫證券割引差額	一五、七三五、〇〇〇	八、六七一、二八〇	一〇、一三七、四一〇	一〇、三九七、七四〇	九、六四八、九四〇	—	—
大藏省證券割引差額	三、一八八、五六〇	—	—	—	—	—	—
米穀證券償還	—	—	二〇、二〇二、四五三	一五、五九二、九二一	一二、九〇〇、一八五	三八、四七二、五三一	一六、〇四四、九四七
借入金返償	九、二〇六、九三三	一五、八四〇、四七七	二六、八八四、二三六	六三、一一〇、九二六	八八、〇九九、八二一	六三、三八二、七六二	二二、〇三一、二二五
借入金利子	一〇、四六四、三三三	一一、一四六、三五九	一〇、九三六、九二七	一三、六八八、六九八	一三、九〇九、七二九	一九、三三九、一四六	二〇、八五三、二四六
買收鐵道社債返償	三、九〇五、二〇〇	七四、九七九	四三〇	—	—	八、七九四、五一〇	九六七、五一三
買收鐵道社債利子	七四一、五三三	四四一、九四一	四三八、八七三	四三九、二六九	四四〇、六〇九	五三三、六七九	一一、二〇〇
承繼社債利子	二、三〇四、五五〇	五、五二一、〇五〇	五、六〇三、五一〇	五、五五八、六五三	五、五七三、四二三	五、五六一、九九一	五、五六二、九三三
舊韓國政府起業資金債利子	八五五、三五九	八五五、三五九	八五五、三五九	八五五、三五九	八五五、三五九	八五五、三五九	八五五、三五九
國債事務取扱手數料	一、一五三、五八四	一、六〇二、〇九七	三、七六六、九七五	四、〇一〇、三五二	三、七三五、七七〇	三、八四〇、六八四	三、四六九、五五二
國債雜費	二、八九六、一一三	二、八〇〇、五九九	二三八、五六六	三七一、六五〇	四、〇六五、四七九	三九〇、七四七	四六八、九二七
計	六一二、二〇六、二八二	六六一、二八三、二九四	八三四、五七五、二五四	九七四、四七七、七七三	一、二六五、二一〇、四一三	八二七、七八六、二九二	六七五、一二三、五七四
翌年度へ繰越金	一一一、四一三、五五一	四七、九三一、七九四	四九、五一五、四三三	六〇、〇四一、七六一	七四、五七〇、五六四	六九、四三四、八一七	六四、五七三、五〇四
歲出合計	七二三、六一九、八三三	七〇九、二一五、〇八九	八八四、〇九〇、六八八	一、〇三四、五一九、五三三	一、三三九、七八〇、九七七	八九七、二二一、一一〇	七三九、六九六、〇七九

附表第二　公債金特別會計歲入歲出決算額一覽表（圓位以下切捨）

科目	大正八年度	同九年度	同十年度	同十一年度	同十二年度	同十三年度	同十四年度	昭和元年度
歲入								
公債募集金	四〇、三三三、六四三円	一五六、三九六、五一一円	一九八、八八七、七三八円	一四九、五九四、三六三円	七四、五六〇、二〇九円	二四六、五三〇、七三九円	八〇、四一五、〇〇〇円	八五、九八九、〇〇〇円
雜收入	二九八	一六〇	六〇	二三六	—	八九	—	—
利子收入	一、七二七、七八三	二、〇九八、三七九	四、八一九、〇五〇	二、二三七、〇一三	一、一二四、九七四	二、三四三、九〇九	五、八〇〇、三七一	四、六二〇、九三七
計	四二、〇六〇、七二四	一五八、四九五、〇五一	二〇三、〇七六、八四九	一五一、八三一、六一三	七五、六七五、一八三	二四八、八五三、七三九	八六、二一五、三七一	九〇、六〇九、九三七
前年度剩餘金繰入	—	四、一五七、八三六	—	七〇二、一六一	一七、三九七、三六九	九、六〇七、二〇七	七一、八六六、八五五	六五、一七九、六四三
歲入合計	四二、〇六〇、七二四	一六二、六五二、八八八	二〇三、〇七六、八四九	一五二、五三三、七七三	九三、〇七二、五五三	二五八、四六〇、九四六	一五八、〇八二、二二六	一五五、七八九、五八〇
歲出								
一般會計へ繰入	一九、〇九〇、〇〇〇円	五三、六三一、六〇四円	五三、〇三二、七三三円	二六、九二五、三六六円	三五、〇四一、一一二円	一二七、九六九、六七四円	四六、五八九、七一九円	三四、〇三三、四七八円
朝鮮總督府特別會計へ繰入	一四、四三五、一四九	二二、三五五、七四五	三七、二一九、五八八	二一、一二三、五一七	六、五九五、〇七六	九、〇〇〇、〇〇〇	九、〇〇〇、〇〇〇	一三、三八三、三二九
臺灣總督府特別會計へ繰入	三、二〇四、二三八	八、九七〇、七〇七	一五、九〇三、四一六	一三、二七三、八〇八	一三、六七三	—	—	二、八二三、二二五
關東廳特別會計へ繰入	—	—	—	八二六、〇三六	一九六、八六八	—	—	—
樺太廳特別會計へ繰入	一、一七三、五〇〇	二、〇八四、六〇九	三、七七三、二九〇	七、六〇七、九二〇	一、四七五、四三六	—	—	一、七八六、五六三
帝國鐵道會計へ繰入	—	七五、六一〇、三三三	九三、四四五、六五八	六五、三七八、五五五	四〇、一四三、一六八	四九、六三四、四一六	三七、三一二、八六七	四五、八五三、五三七
計	三七、九〇二、八八七	一六二、六五二、八八八	二〇二、三七四、六八八	一三五、一三六、四〇四	八三、四六五、三四六	一八六、五九四、〇九一	九二、九〇二、五八三	九七、八七八、〇六三
翌年度へ繰越金	四、一五七、八三六	—	七〇二、一六一	一七、三九七、三六九	九、六〇七、二〇七	七一、八六六、八五五	六五、一七九、六四三	五七、九一一、五一七
歲出合計	四二、〇六〇、七二四	一六二、六五二、八八八	二〇三、〇七六、八四九	一五二、五三三、七七三	九三、〇七二、五五三	二五八、四六〇、九四六	一五八、〇八二、二二六	一五五、七八九、五八〇

附表第三　國債證券取引高表

年次	東京市場			大阪市場		
	直取引	定期取引	計	直取引	定期取引	計
明治十一年	八、六九二、二〇〇円	一七、八七三、二〇〇円	二六、五六五、四〇〇円	一、九八二、八〇〇円	五、三七八、三〇〇円	七、三六〇、一〇〇円
十二年	五八、三二九、七〇〇	三一、五〇三、七〇〇	八九、八三三、四〇〇	五、四四五、一〇〇	二〇、六五七、四〇〇	二六、一〇二、五〇〇
十三年	七二、六〇一、〇〇〇	一二二、九六一、九〇〇	一九五、五六二、九〇〇	七、六三八、六〇〇	一五、六八六、五〇〇	二三、三二五、一〇〇
十四年	—	二七、九〇九、三〇〇	二七、九〇九、三〇〇	二〇、五一四、九〇〇	八七、五二一、六〇〇	一〇八、〇三六、五〇〇
十五年	—	六八、四七四、二〇〇	六八、四七四、二〇〇	—	六一、一七六、三〇〇	六一、一七六、三〇〇
十六年	—	五三、五八〇、三〇〇	五三、五八〇、三〇〇	—	二三、五三八、四〇〇	二三、五三八、四〇〇
十七年	—	二五、六八二、〇〇〇	二五、六八二、〇〇〇	六一八、六〇〇	一四、〇八七、三〇〇	一四、七〇五、九〇〇
十八年	—	一八、〇三五、五〇〇	一八、〇三五、五〇〇	五〇〇	九、一〇二、八〇〇	九、一〇三、三〇〇
十九年	三八、一二〇	一七、四一七、〇〇〇	一七、四五五、一二〇	—	二五、五三七、九〇〇	二五、五三七、九〇〇
二十年	一四、九九五	二九九、五〇〇	三一四、四九五	—	五九四、八〇〇	五九四、八〇〇
二十一年	二〇〇	一、〇〇〇	一、二〇〇	—	一、四〇〇	一、四〇〇
二十二年	九、五五〇	—	九、五五〇	—	二、八〇〇	二、八〇〇
二十三年	三七四、七七五	四、八〇〇	三七九、五七五	—	一〇〇、九〇〇	一〇〇、九〇〇
二十四年	三〇四、二三〇	—	三〇四、二三〇	一、〇〇〇	一、二〇〇	二、二〇〇
二十五年	七八、八七五	—	七八、八七五	—	五、八〇〇	五、八〇〇
二十六年	六九、〇〇〇	—	六九、〇〇〇	—	八〇〇	八〇〇
二十七年	三四、〇〇〇	—	三四、〇〇〇	—	四〇〇	四〇〇
二十八年	七、九〇〇	一〇、三六九、二二五	一〇、三七七、一二五	一三八、六〇〇	六〇〇	一三九、二〇〇
二十九年	—	二、八二三、〇〇〇	二、八二三、〇〇〇	七三、七〇〇	一、八〇〇	七五、五〇〇
三十年	二七〇、六〇〇	二、一二二、〇〇〇	二、三九二、六〇〇	六九、二〇〇	四〇〇	六九、六〇〇
三十一年	一四二、七〇〇	一、二四七、〇〇〇 △三二八、五〇〇	一、〇六一、二〇〇	四四、七〇〇	八〇〇	四五、五〇〇
三十二年	九八六、一五〇	二、〇〇〇	九八八、一五〇	六四、八〇〇	八〇〇	六五、六〇〇
三十三年	五三、八〇〇	—	五三、八〇〇	一九三、二〇〇	六〇〇	一九三、八〇〇
三十四年	二七七、七五〇	二、〇〇〇	二七九、七五〇	四八、一〇〇	六〇〇	四八、七〇〇
三十五年	一一三、〇〇六	—	一一三、〇〇六	九六、七〇〇	六〇〇	九七、三〇〇
三十六年	一〇、三二〇	—	一〇、三二〇	一五三、五〇〇	六〇〇	一五四、一〇〇
三十七年	二、三九五、二〇八	—	二、三九五、二〇八	八八、〇〇〇	六〇〇	八八、六〇〇
三十八年	二七四、〇五三	一〇、〇〇〇	二八四、〇五三	八、三〇〇	—	八、三〇〇
三十九年	三〇、三八八、四三四	二、〇〇〇	三〇、三九〇、四三四	九、三三三、三〇〇	一、八七七、〇〇〇	一一、二一〇、三〇〇
四十年	一三、七六一、一五〇	一四、二六八、〇〇〇	二八、〇二九、一五〇	五、八四五、九〇〇	四、八〇二、〇〇〇	一〇、六四七、九〇〇
四十一年	八、五七七、八二七	七八、〇〇〇	八、六五五、八二七	四、一六四、三〇〇	一、〇八二、〇〇〇	五、二四六、三〇〇
四十二年	四三、九八六、三六〇	—	四三、九八六、三六〇	五、〇一一、九〇〇	三四、二二三、〇〇〇	三九、二三四、九〇〇
四十三年	五六、八四〇、〇〇〇	—	五六、八四〇、〇〇〇	六、〇二四、一〇〇	二九、六二〇、〇〇〇	三五、六四四、一〇〇
四十四年	一〇、九四五、〇〇〇	一、八五七、〇〇〇	一二、八〇二、〇〇〇	一、八〇八、五〇〇	一五、〇三〇、〇〇〇	一六、八三八、五〇〇
大正元年	三、七三三、〇〇〇	一、二二〇、〇〇〇	四、九五三、〇〇〇	一五、四〇〇	一三、七〇一、〇〇〇	一三、七一六、四〇〇
二年	五、四八五、二〇〇	—	五、四八五、二〇〇	一八九、〇〇〇	一三、一三三、〇〇〇	一三、三二二、〇〇〇
三年	四、三六一、一五〇	—	四、三六一、一五〇	一、一五五、〇〇〇	九、三五一、〇〇〇	一〇、五〇六、〇〇〇
四年	四一、八〇七、〇〇〇	—	四一、八〇七、〇〇〇	一、四二五、〇〇〇	八、八八四、〇〇〇	一〇、三〇九、〇〇〇
五年	四五、六五六、二〇〇	—	四五、六五六、二〇〇	一、三六六、〇〇〇	—	一、三六六、〇〇〇
六年	五四、三七九、〇〇〇	—	五四、三七九、〇〇〇	一、四三二、〇〇〇	—	一、四三二、〇〇〇
七年	三一、八九四、二〇〇	—	三一、八九四、二〇〇	一、四九〇、〇〇〇	—	一、四九〇、〇〇〇
八年	四、一五五、五二〇	—	四、一五五、五二〇	二、八〇四、〇〇〇	—	二、八〇四、〇〇〇

大正九年	三二、〇九九、八〇五円	—円	三二、〇九九、八〇五円	一七、三六〇、三〇〇円	—円	一七、三六〇、三〇〇円
十年	一九六、六六〇、六〇〇	—	一九六、六六〇、六〇〇	二四、八四七、四〇〇	—	二四、八四七、四〇〇
十一年	一四一、六五八、三〇〇	—	一四一、六五八、三〇〇	?	?	?
十二年	一三三、〇九一、八〇〇	—	一三三、〇九一、八〇〇	?	?	?
十三年	一六二、九六五、九二五	—	一六二、九六五、九二五	三七、三一六、六〇〇	—	三七、三一六、六〇〇
十四年	二三七、二三二、一二五	三一、七六五、〇〇〇	二六九、九九七、一二五	七七、五一七、九〇〇	—	七七、五一七、九〇〇
十五年	一九〇、九二六、九二五	一二六、八八〇、〇〇〇	三一七、八〇六、九二五	二八、四二〇、〇〇〇	五、三六〇、〇〇〇	三三、七八〇、〇〇〇

（備　考）一、表中△印を附したるものは延取引出來高とす。

二、大正十年大阪市場の分は三月迄、同十三年の分は四月より十二月末迄計上せり。

三、大正十四年東京市場の定期取引（長期先限）は十一月十八日より十二月二十一日迄計上せり。

四、大正十四年大阪市場の直取引は十二月二十六日迄計上せり。

五、大正十五年東京市場の定期取引（長期當限、長期中限、長期先限）は、大正十四年十二月二十二日より大正十五年十二月二十一日迄計上せり。

六、大正十五年大阪市場の直取引は、大正十四年十二月二十六日より昭和元年十二月二十五日迄計上せり。

七、大正十五年大阪市場の定期取引（長期當中先限）は、同年四月二日より十二月二十一日迄計上せり。

八、英貨、佛貨、米貨各公債の取引高は左の如し。但し大正十四年東京市場の定期取引は、十一月十八日より十二月二十一日迄、同十五年東京市場の定期取引は、十四年十二月二十二日より十五年十二月二十一日迄、同十五年大阪市場の定期取引は、同年四月二日より十二月二十一日迄計上せり。

年次	東京市場 直取引	東京市場 定期取引	東京市場 計	大阪市場 直取引	大阪市場 定期取引	大阪市場 計
大正十年	一、九八二、四〇〇磅 一五、九二五、五〇〇法	— —	一、九八二、四〇〇磅 一五、九二五、五〇〇法	—	—	—
十一年	一、四九四、五〇〇 一〇、四八三、五〇〇	— —	一、四九四、五〇〇 一〇、四八三、五〇〇	—	—	—
十二年	二三二、〇〇〇 六、八五五、〇〇〇	— —	二三二、〇〇〇 六、八五五、〇〇〇	—	—	—
十三年	一、二八七、〇〇〇 三二、〇九〇、五〇〇	— —	一、二八七、〇〇〇 三二、〇九〇、五〇〇	—	—	—
十四年	二五五、七〇〇磅 三五、六〇〇、〇〇〇法 六二、〇〇〇弗	— 七、二九〇、〇〇〇法 —	二五五、七〇〇磅 三二、八九〇、〇〇〇法 六二、〇〇〇弗	—	—	—
十五年	一三四、五〇〇 五、〇二二、五〇〇 五〇、〇〇〇	— 一〇、六四五、〇〇〇 —	一三四、五〇〇 一五、六六六、五〇〇 五〇、〇〇〇	—	二、〇九〇、〇〇〇法	二、〇九〇、〇〇〇法

附表第四　國債市價表

（イ）内國債（東京市場）

月次	五分利公債證書 最高	五分利公債證書 最低	五分利公債證書 平均	特別五分利公債證書 最高	特別五分利公債證書 最低	特別五分利公債證書 平均	甲號五分利公債證書 最高	甲號五分利公債證書 最低	甲號五分利公債證書 平均	第一回四分利公債證書 最高	第一回四分利公債證書 最低	第一回四分利公債證書 平均
明治三十五年 四月			八六・三六									
五月			八四・〇六									
六月			八四・〇七									
七月			八六・三三									
八月			八六・〇八									
九月			八三・九〇									
十月			八五・八四									

明治三十六年十一月	八七・三七
十二月	八七・一七
一月	八九・二五
二月	九一・九一
三月	九一・六七
平均	八七・〇〇
同　四月	九一・五八
五月	九〇・一三
六月	八九・二〇
七月	八九・二一
八月	八九・五五
九月	八八・〇四
十月	八八・三三
十一月	八九・五七
十二月	九〇・六一
三十七年一月	八九・〇二
二月	八八・〇三
三月	八四・九四
平均	八九・〇一
四月	八四・四九
五月	八五・一四
六月	八五・〇六
七月	八五・六七

八月	八五・三二
九月	八三・一〇
十月	八二・七一
十一月	八二・一四
十二月	八一・五九
三十八年一月	八一・三一
二月	八一・五二
三月	七八・三六
平均	八三・〇三
同　四月	七七・六八
五月	七五・二七
六月	七八・〇六
七月	七九・三一
八月	八〇・七六
九月	八〇・〇二
十月	八六・七三
十一月	九一・五一
十二月	八九・六〇
三十九年一月	九一・九〇
二月	九六・五〇
三月	九四・一三
平均	八五・一二
四月	九一・六六

五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	明治四十年一月	二月	三月	平均
九〇・六〇	九〇・一二	八九・八八	九〇・六〇	八九・二二	八九・四九	八九・一三	八八・六八	八八・八二	九〇・二七	八七・七二	八九・六七

四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	同四十一年一月	二月	三月	平均
八九・二〇	八九・三〇	九一・〇〇	八七・八〇	八七・六〇	八五・三〇	八五・〇〇	八四・六〇	八三・三〇	八三・〇〇	八三・一〇	八〇・五〇	九一・〇〇
八六・九〇	八九・〇〇	八六・〇〇	八六・五〇	八七・〇〇	八四・五〇	八四・五〇	八三・三〇	八二・七〇	八二・五〇	八二・六〇	七九・二〇	七九・〇〇
八七・九〇	八九・一二	八七・六九	八七・〇八	八七・三二	八四・九一	八四・七六	八四・〇〇	八三・〇三	八二・七四	八二・八四	七九・七六	八五・〇九
九〇・〇〇	九〇・五五	八七・七〇	八七・六五	八七・六〇	八七・六八	八七・六〇	八七・四〇	八四・四〇	八三・九五	八四・〇〇	八三・六〇	九〇・五五
八九・四〇	八九・八〇	八六・五〇	八六・七〇	八七・一〇	八七・一〇	八七・三〇	八七・一〇	八三・六〇	八三・六〇	八三・六〇	八二・三〇	八二・三〇
八九・五五	九〇・二二	八七・二七	八六・九九	八七・三八	八七・二五	八七・四九	八七・二四	八四・〇三	八三・七九	八三・八二	八二・七四	八六・四八

四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	同四十二年一月	二月	三月	平均
七九・三〇	八〇・二〇	八一・一〇	八三・〇〇	八六・二〇	八三・八〇	八七・〇〇	八八・二〇	八八・一〇	九〇・〇〇	九二・六〇	九一・九〇	九二・六〇
七七・九〇	七九・〇〇	八〇・一〇	八一・〇〇	八三・〇〇	八三・二〇	八二・八〇	八六・五〇	八七・六〇	八七・五〇	八九・五〇	八九・五〇	七七・九〇
七八・八七	七九・八〇	八〇・七五	八二・〇一	八四・〇三	八三・六六	八三・五五	八七・四二	八七・六七	八八・七九	九〇・九四	九〇・三八	八四・八二
八〇・〇〇	八三・二〇	八一・五〇	八三・九〇	八七・八〇	八八・一〇	九〇・二〇	九一・七〇	八九・一〇	八九・六〇	九〇・三〇	九三・〇〇	九三・〇〇
七九・二〇	八〇・一〇	七九・六〇	八〇・八五	八三・六〇	八六・八〇	八七・二〇	九〇・一〇	八七・五〇	八七・四〇	八九・〇〇	九〇・八〇	七九・二〇
七九・六三	八一・五八	八〇・六三	八二・四三	八五・〇七	八七・三八	八八・五〇	九一・一三	八八・三三	八八・八一	九〇・一八	九一・六九	八六・二八
				八〇・二〇	八一・一〇	八一・八〇	八九・〇〇	八八・〇〇	八九・〇〇	九一・一五	九二・九〇	九二・九〇
				八〇・二〇	八一・〇〇	八一・一五	八五・二〇	八六・九〇	八六・六〇	八八・三五	九〇・六〇	八〇・二〇
				八〇・二〇	八一・〇五	八一・四八	八七・七一	八七・三一	八七・七三	八九・四六	九一・四七	八五・八〇

四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月
九一・八〇	九四・五〇	九三・五〇	九三・二〇	九六・六〇	九七・七〇	九七・〇〇	九七・六〇
九一・一〇	九一・七〇	九一・三〇	九一・〇〇	九三・四〇	九四・三〇	九四・七〇	九六・〇〇
九一・五〇	九二・八〇	九二・五六	九二・二〇	九五・二七	九六・一七	九五・七六	九六・七六
九二・七〇	九六・四〇	九三・三五	九三・六〇	九五・五〇	九七・九〇	九七・〇〇	九八・八五
九二・一〇	九二・五〇	九一・五〇	九〇・八五	九二・九〇	九五・四五	九五・七〇	九七・一〇
九二・四二	九四・三四	九二・五三	九二・二三	九四・三八	九六・六五	九六・一三	九八・一八
九二・五〇	九六・二〇	九三・一〇	九三・三〇	九五・七五	九八・〇五	九七・二〇	九九・〇五
九一・七五	九一・七五	九〇・〇五	九〇・一五	九二・六五	九五・六〇	九五・四〇	九六・七五
九二・一八	九三・八六	九一・三〇	九二・〇五	九四・四六	九六・七六	九六・〇八	九八・二七